

平成21年度
新しい気象情報の利活用状況等
に関するアンケート調査
調査結果

平成22年3月
気象庁

5	黄砂情報について	22
	(1) 黄砂情報入手時の行動	22
	(2) 気象庁が黄砂情報を発表していることの認知・ 知っている黄砂情報の内容	23
	(3) 黄砂情報についての不満点	25
6	紫外線情報について	26
	(1) 紫外線情報の入手先	26
	(2) 気象庁の紫外線情報の利用頻度	27
	(3) 紫外線情報についての不満点	28
7	異常天候早期警戒情報について	29
	(1) 平均気温が平年より高低差が出る場合の影響度	29
	(2) 「異常天候早期警戒情報」の認知	30
	(3) 「異常天候早期警戒情報」についての不満点	31

調査結果

1	台風予報について	32
	(1) 台風予報の利用頻度	32
	(2) 台風進路予報が5日先までに延長されたことの認知	33
	(3) 5日先まで延長された台風進路予報の利用意向	34
	(4) 台風進路予報を利用しようと思わない理由	35
	(5) 台風予報の入手先	36
	(6) 台風予報についての要望	37
2	天気分布予報・降水短時間予報・降水ナウキャストについて	38
	(1) 天気分布予報の利用の有無	38
	(2) 天気分布予報を利用していない理由	39
	(3) 天気分布予報の利用目的	40
	(4) 天気分布予報の入手先	41
	(5) 天気分布予報についての不満点	44
	(6) 降水ナウキャスト、降水短時間予報の利用の有無	45
	(7) 降水ナウキャスト等を利用していない理由	45
	(8) 降水ナウキャスト等の利用場面	46

(9) 降水ナウキャスト等の入手先	47
(10) 降水ナウキャスト等についての不満点	51
3 竜巻注意情報について	52
(1) 竜巻の危険性や恐ろしさについて	52
(2) 竜巻発生情報の必要性	53
(3) 雷注意発表時の竜巻発生注意の呼びかけの認知	55
(4) 気象台の竜巻注意情報発表の認知	56
(5) 竜巻注意情報が発表される状況の認知	57
(6) 竜巻注意情報発表時の行動	57
(7) 竜巻注意情報の入手希望先	58
(8) 竜巻注意情報についての不満点	59
4 土砂災害警戒情報について	60
(1) 土砂災害の危険性を感じた経験	60
(2) 大雨警報発表時の行動	61
(3) 土砂災害警戒情報の認知	62
(4) 土砂災害警戒情報が発表される状況の認知	63
(5) 土砂災害警戒情報発表時の行動	64
(6) 土砂災害警戒情報などの入手希望先	65
(7) 土砂災害警戒情報などについての不満点	66
5 黄砂情報について	67
(1) 黄砂が飛来した際の生活や仕事への影響度	67
(2) 黄砂情報の必要性	68
(3) 黄砂情報の入手先	69
(4) 黄砂情報入手時の行動	70
(5) 気象庁が黄砂情報を発表していることの認知	71
(6) 知っている気象庁発表の黄砂情報の内容	72
(7) 黄砂情報についての不満点	73
6 紫外線情報について	75
(1) 紫外線の人体への悪影響の認知内容	75
(2) 紫外線対策への関心度	76
(3) 紫外線情報の入手先	81
(4) 紫外線情報の利用方法	83
(5) 気象庁の紫外線情報の利用頻度	84
(6) 紫外線情報についての不満点	86

7 異常天候早期警戒情報について	87
(1) 平均気温が平年より高低差が出る場合の影響度	87
(2) 「異常天候早期警戒情報」の認知	88
(3) 「異常天候早期警戒情報」の入手先	90
(4) 「異常天候早期警戒情報」についての不満点	91

I. 調査目的・方法

1. 調査目的

気象庁では、気象情報の内容及び提供方法等の改善に活かすため、平成13年度から気象情報に関するアンケート調査を毎年実施し、利用者の皆様の評価、改善要望等を把握している。

今年度は、最近発表が開始され、又は内容・発表方法の改善が行われた気象情報の認知度、利用状況等を把握するため、台風予報、天気分布予報・降水短時間予報・降水ナウキャスト、竜巻注意情報、土砂災害警戒情報、黄砂情報、紫外線情報及び異常天候早期警戒情報について、国民の評価（認知度、利用度、不満点等）を調査した。

2. 調査方法

○調査時期

平成22年1月8日～22日

○調査対象及び調査方法

今回の調査では、幅広く住民の回答を得るべく、住民調査（調査会社に登録しているモニターにアンケート調査依頼メールを配信し、調査に応じたモニターが専用ホームページを通じて回答する調査方法）を利用した。

モニター（全国4,070名）については、性別、年齢及び居住地域の分布が国勢調査の結果に準じたものになるよう、割付けを行った。

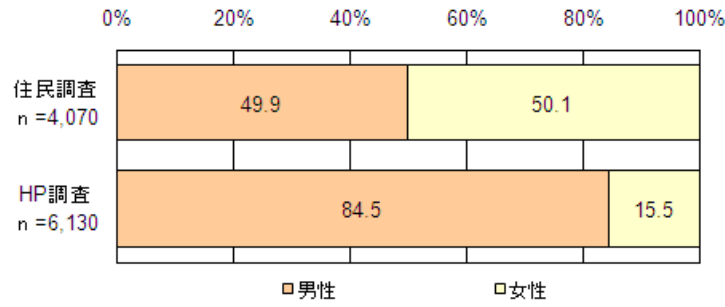
また、参考として、気象情報に関心の高い層における新しい気象情報の認知度、利用度等を把握するため、一定の期間に気象庁ホームページにアンケート依頼ページを用意し、閲覧者のうち賛同者（6,130名）に回答いただいた。「調査結果の概要」では、特に住民調査と比較する必要のある場合のみ言及する。

なお、居住地域の範囲については、気象庁の地方予報区に従い、以下のとおりとしている。

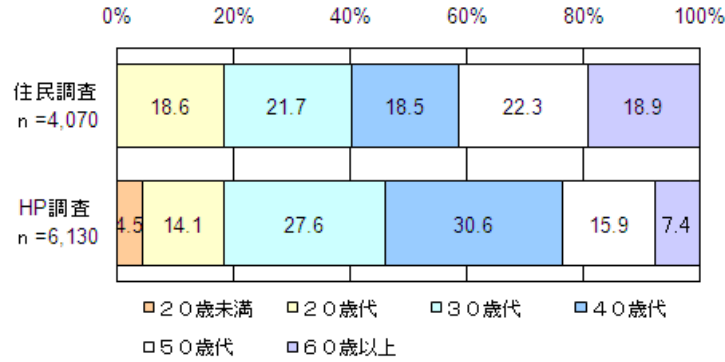
居住地域	含まれる都道府県
北海道地方	北海道
東北地方	青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県
関東甲信地方	栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、山梨県
東海地方	静岡県、岐阜県、三重県、愛知県
北陸地方	新潟県、富山県、石川県、福井県
近畿地方	京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、大阪府
中国地方	鳥取県、島根県、岡山県、広島県
四国地方	香川県、愛媛県、徳島県、高知県
九州北部地方	山口県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県
九州南部地方	宮崎県、鹿児島県
沖縄地方	沖縄県

(回答者の属性)

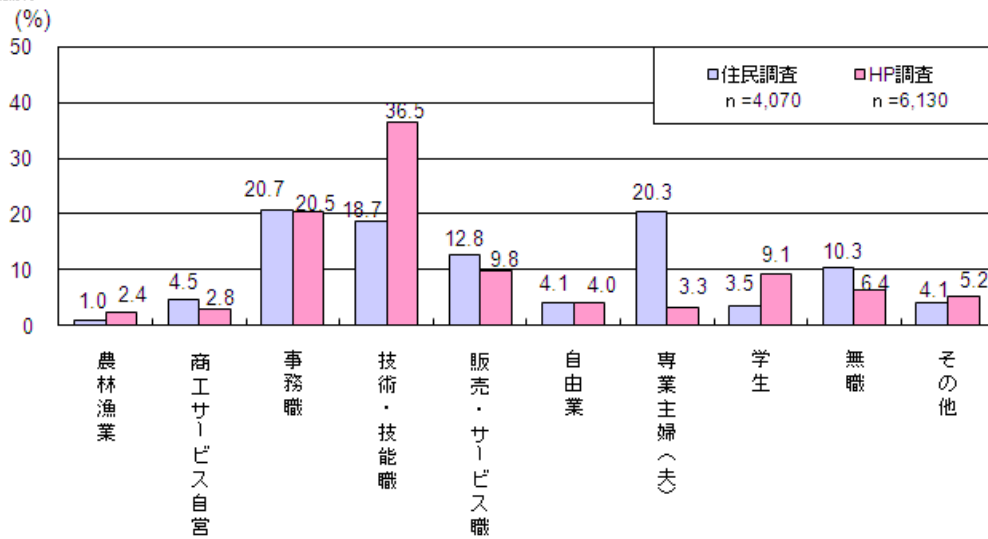
性別



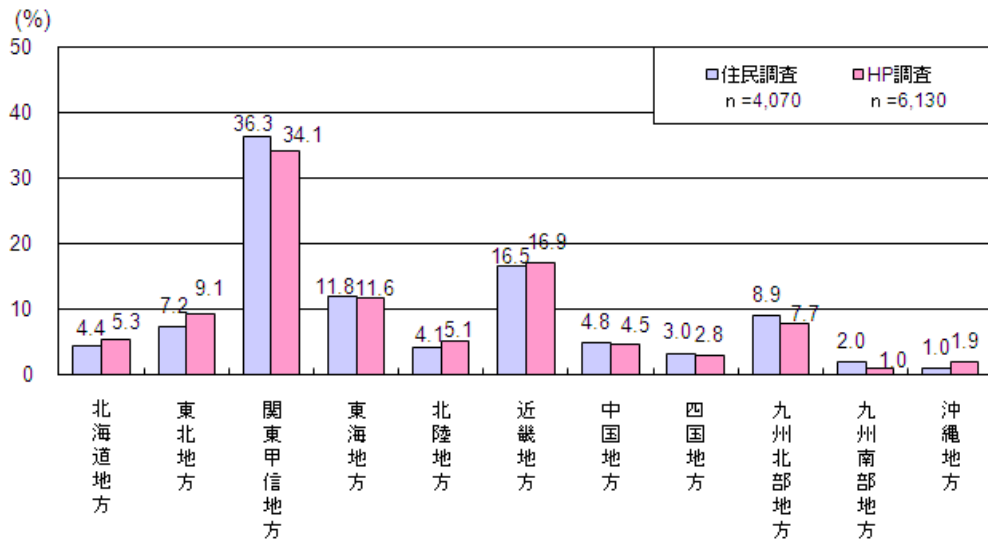
年齢



職業

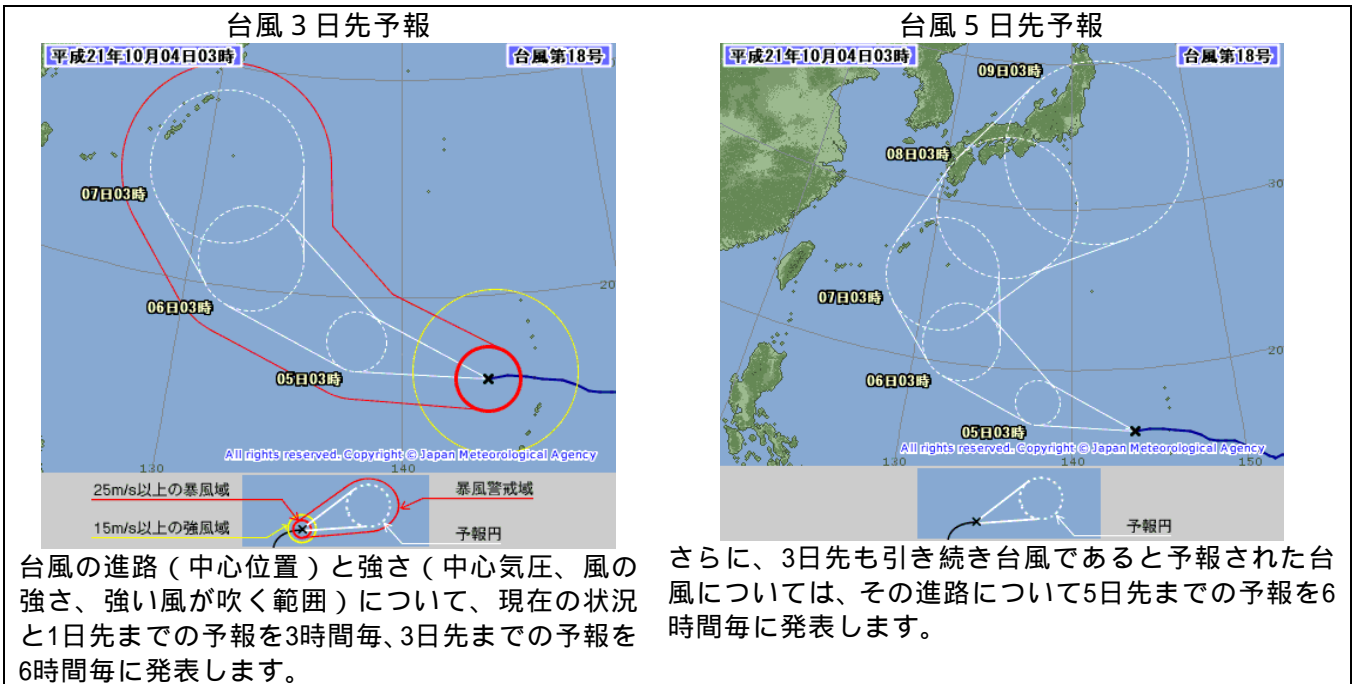


住所



Ⅱ．調査結果の概要

1．台風予報について

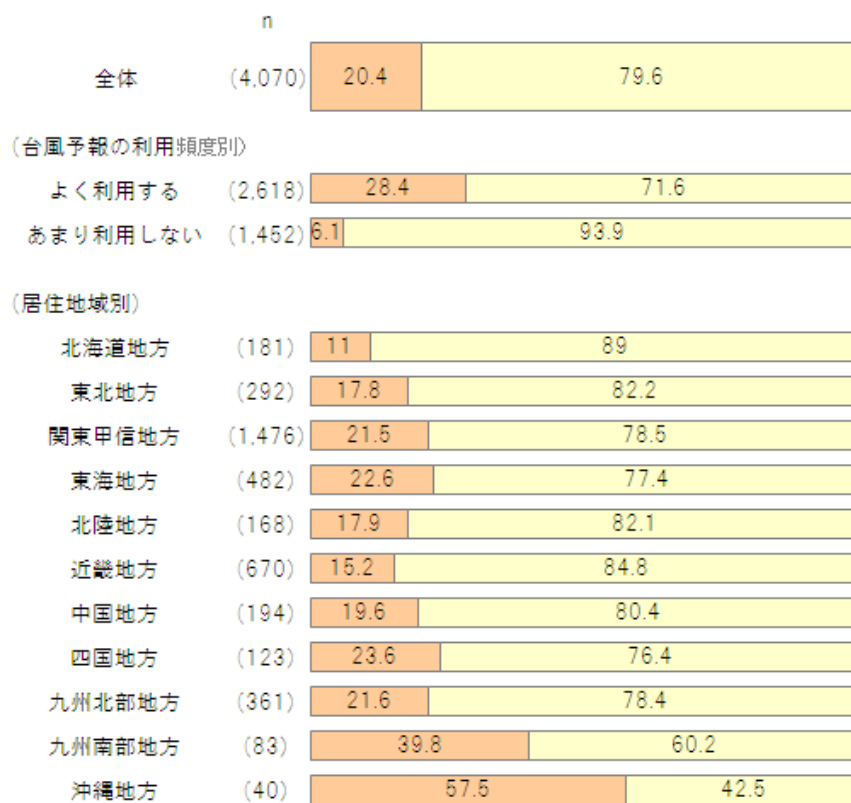


（1）台風進路予報が5日先までに延長されたことの認知

台風進路予報の予報期間を、平成21年4月下旬から5日先までに延長した。このことを知っていた回答者の割合（以下「認知度」という。）は全体で2割、台風予報をよく利用している回答者においても、3割弱にとどまっている。特に台風予報をよく利用する割合（6割台半ば）に比べて、5日先予報の認知度は著しく低い。5日先予報については自治体防災担当者の認知度は9割近いこと（平成21年台風第18号に関し、各地の気象台が都道府県や市町村など防災関係の1,614機関を対象に行った台風進路予報利用状況調査）と比べると、一般住民の認知度は低い。ただしこの認知度の低さは、5日先予報を開始した後日本に上陸した台風が1個のみだったことも原因の一つと考えられる。台風への関心が高いと思われる九州南部や沖縄地方での認知度が高いので、今後台風報道に接する機会が増えることで認知度の上昇が見込まれる。

(台風5日間予報の認知度)

□知っていた □知らなかった



(2) 台風予報についての要望

「2日先・3日先の台風の進路予想の精度をよくしてほしい」との回答が5割台半ばと最も高く、次いで「雨量や風の強さ等、勢力に関する予想の精度をよくしてほしい」、「1日先の台風の進路予想の精度をよくしてほしい」がともに4割以上となっている。

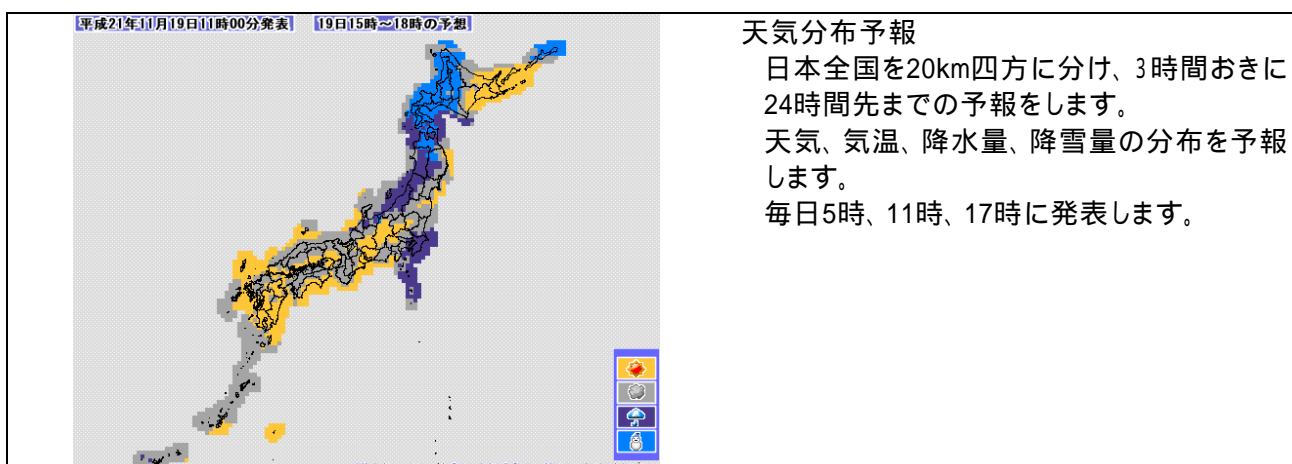
台風予報に対する要望では、台風の進路等の精度の改善を望む割合が高く、今後も技術的な改善を図っていく必要がある。「雨量や風の強さ等、勢力に関する予想の精度を良くしてほしい」という要望については、台風の強さの予報の精度改善に加えて、台風周辺の強い風の分布など台風周辺の空間的な特徴を表す情報の提供を検討する必要がある。

(台風予報に対する要望)

		(%)						
		n	1日先の精度を台風の進路を予想	2日先の精度を台風の進路を予想	4日先の精度を台風の進路を予想	雨量や風の強さ等の精度	その他	特に要望はない
全体		4,070	40.1	54.9	26.4	44.2	1.4	13.7
台風予報の利用頻度別	よく利用する	2,618	44.5	62.1	30.3	49.7	1.8	6.7
	あまり利用しない	1,452	32.1	42.1	19.4	34.4	0.6	26.4

2. 天気分布予報・降水短時間予報・降水ナウキャストについて

(1) 天気分布予報の利用の有無・利用していない理由

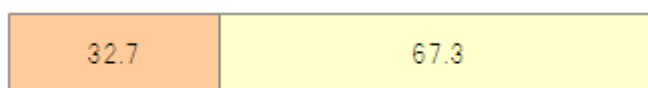


天気分布予報について、「利用していない」との回答が7割近くを占める。

利用していない理由としては、「知らなかったから」との回答が5割弱と最も高く、次いで「必要性を感じないから」が約3割となっており、利用度を上げるにはまず認知度を上げる必要がある。さらに、「必要性を感じないから」利用しない人に対しては、単に天気分布予報のプロダクトの広報でなく、天気予報・天気分布予報・地域時系列予報を利用目的に応じて使い分ける天気予報の利用の仕方を広報するなどの工夫が必要である。

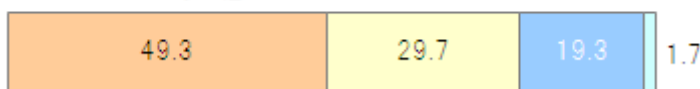
(天気分布予報の利用状況)

■利用している ■利用していない



(天気分布を利用していない理由)

■知らなかったから
■必要性を感じないから
■利用の仕方がわからないから
■その他

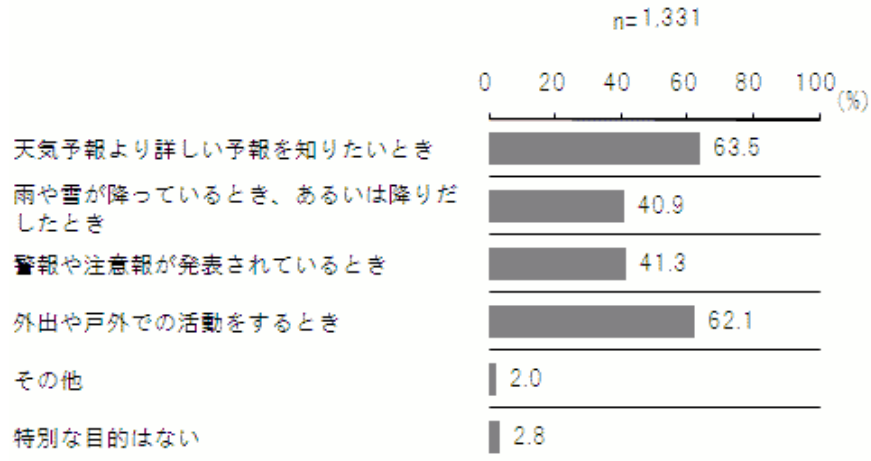


(2) 天気分布予報の利用目的

天気分布予報を利用する目的では、「天気予報より詳しい予報を知りたいとき」、「外出や戸外での活動をするとき」がともに6割を超えている。

これらのことは、「天気予報で天気経過の概要をつかみ、天気分布予報でさらに場所に絞り込んだ詳しい予報を知る」という利用目的に応じた適切な使い分けがなされていることを表している。

(天気分布予報の利用目的)



(3) 天気分布予報についての不満点

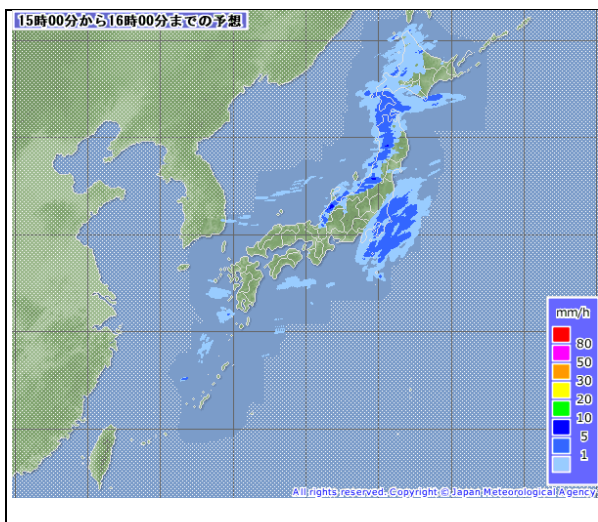
「予報の精度」への不満が最も多く、続いて「発表回数の少なさ」「目的の場所の分かりにくさ」の順になっている。予報精度への不満が多いことは、一般に予報対象領域が細くなるほど精度が下がることの反映と考えられるので、精度の限界を踏まえた利用について理解を得る必要がある。「発表回数の少なさ」については、天気分布予報が1日3回発表される天気予報を補完する情報として提供されていることが理解されていない結果と考えられる。天気分布予報は天気予報と合わせてどのように利用するのが効果的かなど、天気予報の利用の仕方の広報に工夫が必要である。

一方、天気分布予報の認知度・利用率が高いホームページ調査では、予報精度への不満が3位とやや低くなっている。認知度・利用率が高い人は天気分布予報の精度上の限界を踏まえた利用が進んでいると考えられる、一方「20km四方単位の予報では粗すぎる」といった不満が高くなっており、「目的の場所の分かりにくさ」への不満とも関連して、さらなる詳細化が求められている。

(天気分布予報についての不満点)

		n	あ 予 報 が 外 れ る こ と が	異 な る 回 の 発 表 の に 予 報 と 報	が 発 表 の た び に 予 報 と 報	子 2 報 の 粗 さ を 予 報 の 位 の	目 的 的 の 場 所 が ど こ か	数 1 日 3 回 い て は 発 表 回	予 報 時 間 が 短 い	そ の 他	特 に 不 満 は な い
全 体		1,331	40.5	20.1	17.4	27.5	35.6	9.8	1.3	20.6	
天 気 分 布 予 報 の 利 用 目 的 別	天気予報より詳しい予報を知りたいとき	845	43.7	23.7	19.5	30.3	41.2	12.1	1.1	16.2	
	雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき	545	44.6	26.1	21.7	32.3	44.4	13.9	1.5	16.5	
	警報や注意報が発表されているとき	550	41.3	23.5	21.1	34.2	41.5	14.7	1.5	18.0	
	外出や戸外での活動をするとき	327	43.0	21.0	20.0	29.5	39.4	11.9	1.3	19.5	
	その他	26	26.9	11.5	19.2	30.8	26.9	11.5	-	38.5	
	特別な目的はない	37	35.1	5.4	10.8	27.0	10.8	2.7	2.7	48.6	

(4) 降水ナウキャスト、降水短時間予報の利用の有無・利用していない理由



降水短時間予報

日本全国を1km四方に分け、レーダーによる観測を元にして、6時間先までの各1時間雨量を予報します。
30分毎に発表されます。

降水ナウキャスト

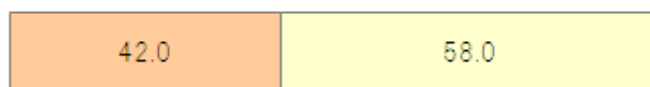
日本全国を1km四方に分け、レーダーによる観測を元にして、1時間先までの各10分間雨量を予報します。
10分毎に発表されます。

「利用していない」との回答が6割近くある。利用していない理由としては、「知らなかったから」との回答が約半数と最も高く、次いで「必要性を感じないから」が3割となっている。このことから、降水短時間予報・ナウキャスト(以後「降水ナウキャスト等」と呼ぶ)の認知度・利用度はまだ十分と言えない。

局地的大雨のように限られた地域に降る急な強い雨から身を守るためには、最新状況の把握・きめ細かな予報を自ら収集して回避行動などの判断をする必要がある。時間的にも空間的にも詳細な予報である降水ナウキャスト等の利用は、防災に対する自助の行動を促すことにつながるので、認知度・利用度を高める広報活動を強めることが必要である。

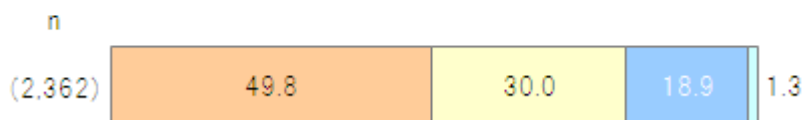
(降水ナウキャスト等の利用状況)

■利用している □利用していない



(降水ナウキャスト等を利用していない理由)

□知らなかったから
□必要性を感じないから
■利用の仕方がわからないから
□その他

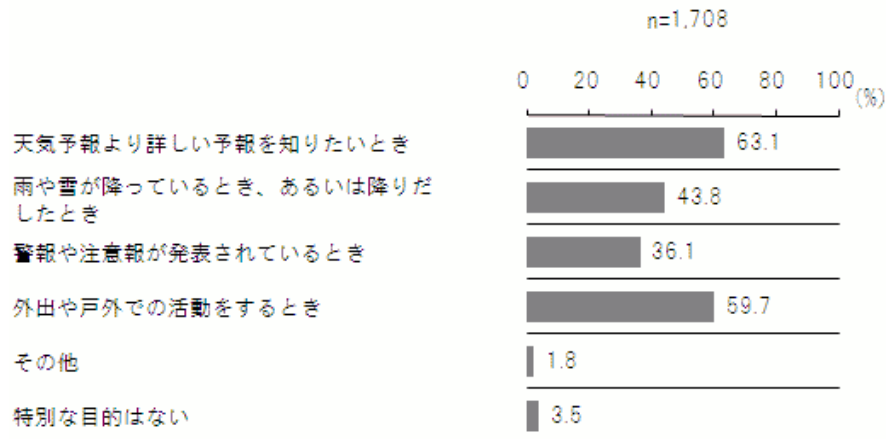


(5) 降水ナウキャスト等の利用場面

降水ナウキャスト等の利用状況としては、「天気予報より詳しい予報を知りたいとき」との回答が6割以上と最も高く、次いで「外出や戸外での活動をするとき」が6割弱、「雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき」が4割強となっている。

これらのことは、戸外での活動時に「天気予報で天気経過の概要をつかみ、降水ナウキャスト等でさらに場所的に絞り込んだ詳しい降水の予報を知る」という利用目的に応じた適切な使い分けがなされていることを表している。

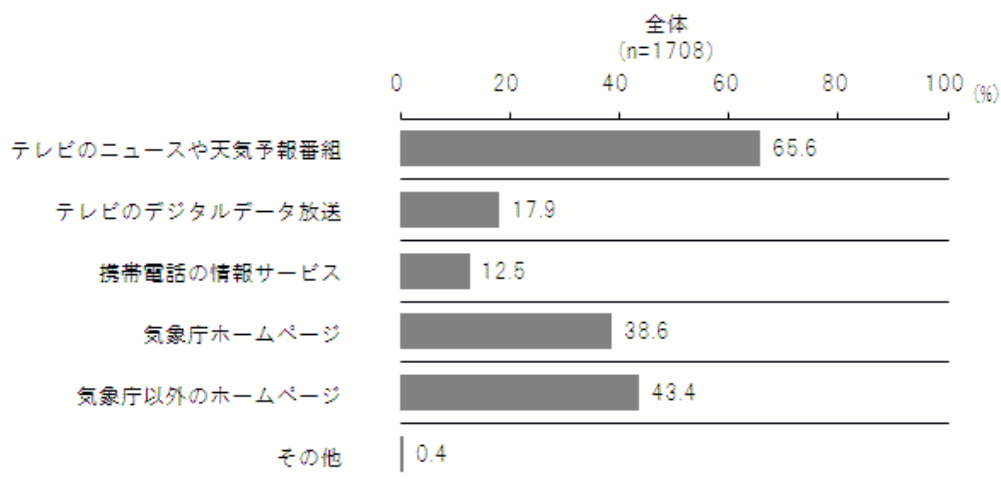
(降水ナウキャスト等の利用目的)



(6) 降水ナウキャスト等の入手先

降水ナウキャスト等の入手先は、「テレビ等」や「ホームページ」が多く、図形式情報の入手としては適当と言える。一方、降水ナウキャスト等は即時に入手し戸外での活動時に利用することが有効であるため、携帯電話での入手を広める必要があるが、「携帯電話の情報サービス」の入手は1割強と少なく、今後、携帯電話による情報提供サービスの紹介などの広報活動を強める必要がある。

(降水ナウキャスト等の入手先)



(7) 降水ナウキャスト等についての不満点

「予報が外れることがある」という精度に関する不満が、約3割と最も多く、予報精度の向上に引き続き取り組むとともに、精度の限界を踏まえた利用について広報することが必要である。続いて「目的の場所がどこかわかりにくい」との不満が多いが、これは市町村など自分の対象とする地域を特定することが難しいことへの不満と解され、ホームページ等で地理情報と合わせた表現方法の改善が必要である。

(降水ナウキャスト等についての不満点)

	n	る予報が外れることがある	る前回発表のたびに、予報と異報がある	で1km四方単位の予報	か目的の場所がどこかわ	て毎30分毎または15分	予報時間が短すぎる	その他	特に不満はない
住民調査	1,708	31.0	13.7	4.0	25.8	5.6	11.9	0.9	39.9
HP調査	5,329	28.0	11.5	4.2	24.4	4.0	27.7	4.6	34.3

3. 竜巻注意情報について

竜巻注意情報の発表例

〇〇県竜巻注意情報 第1号
平成××年4月20日10時29分 △△地方気象台発表

〇〇県では、竜巻発生のおそれがあります。

竜巻は積乱雲に伴って発生します。雷や風が急変するなど積乱雲が近づく兆しがある場合には、頑丈な建物内に移動するなど、安全確保に努めてください。

この情報は、20日11時30分まで有効です。

対象地域
中部、南部、東部

竜巻注意情報は、今まさに竜巻などの激しい突風が発生しやすい気象状況であることをお知らせする情報です。

この情報は、都府県を対象として発表しており、有効時間は発表から1時間です。

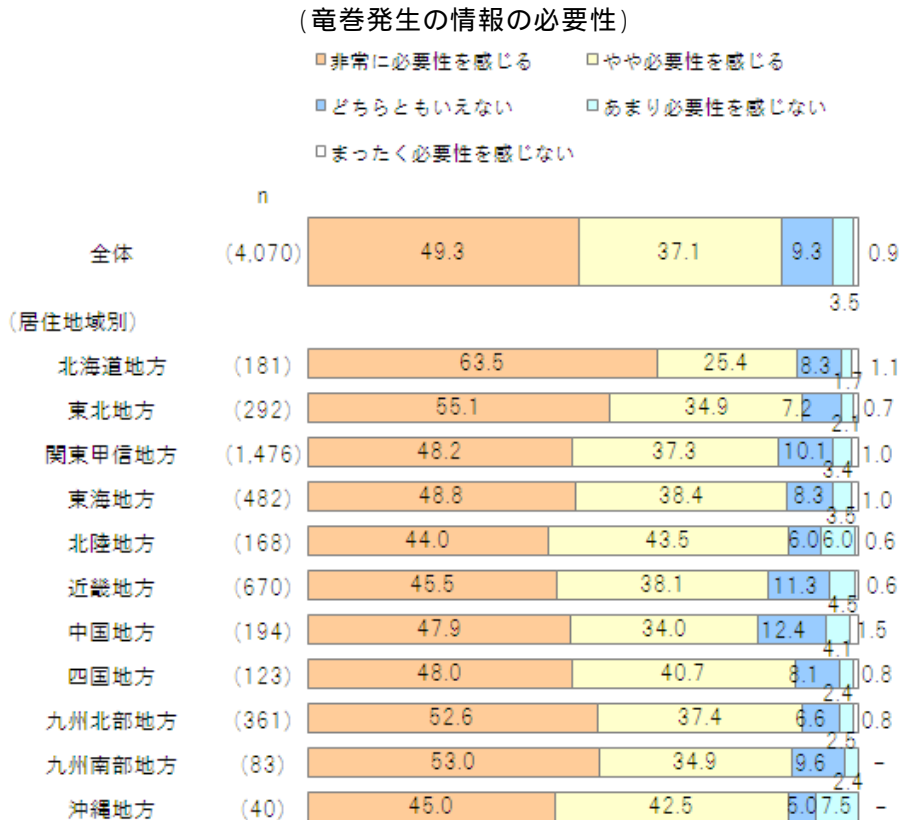
竜巻注意情報は、防災機関や報道機関へ伝達するとともに、気象庁ホームページの「気象情報」でお知らせします。

また、雷注意報は、発達した積乱雲に伴って発生する落雷やひょう、急な強い雨に加えて、竜巻などの激しい突風などにも注意を呼びかける情報です。

(1) 竜巻の危険性や恐ろしさ・竜巻発生情報の必要性

竜巻発生情報の必要性については、「非常に必要性を感じる」と「やや必要性を感じる」の合計が8割台半ばを占める。

竜巻が稀な現象であるにも関わらず、情報の必要性を感じている人の割合がかなり高い。これは近年、竜巻災害が報道に取り上げられることが多いことが影響していると考えられる。地域別にみると、北海道や九州で高い傾向があり、平成18年に発生した北海道佐呂間町や宮崎県延岡市などの竜巻災害が記憶に残っているためと考えられる。災害体験を風化させることなく継承することで防災意識が高まる例と考えられるので、時が経っても高い関心を維持できるよう、災害事例と結びつけた継続的な広報活動が必要である。

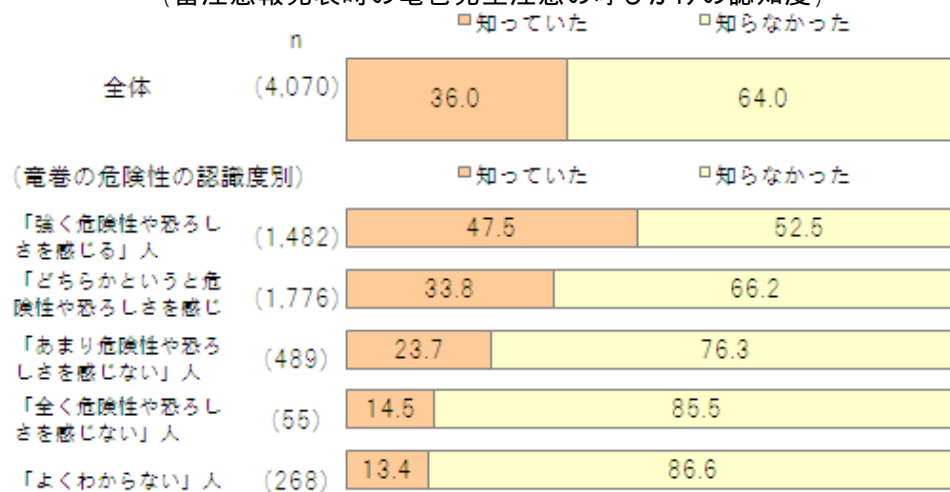


(2) 雷注意報発表時の竜巻発生注意の呼びかけの認知

雷注意報発表時の竜巻等突風の発生注意の呼びかけについては、「知っていた」との回答が、4割近くになっている。平成20年3月の竜巻注意情報の発表開始において、前日からの気象情報、雷注意報でも竜巻に対する注意を呼び掛けることを説明してきたが、このような呼びかけの仕方についての認知度はまだ低い。また、竜巻の危険性や恐ろしさを強く感じている人ほど、認知率が高い傾向がある。

平成22年5月から新たに竜巻発生確度ナウキャスト及び雷ナウキャストを開始し、従来の降水ナウキャストと合わせて、積乱雲に伴う激しい現象に対する予測情報を充実させる。これらの広報活動において、雷注意報が発表されたときには落雷の他に竜巻などの激しい突風や急な大雨にも注意が必要なことも、十分説明してゆく必要がある。

(雷注意報発表時の竜巻発生注意の呼びかけの認知度)

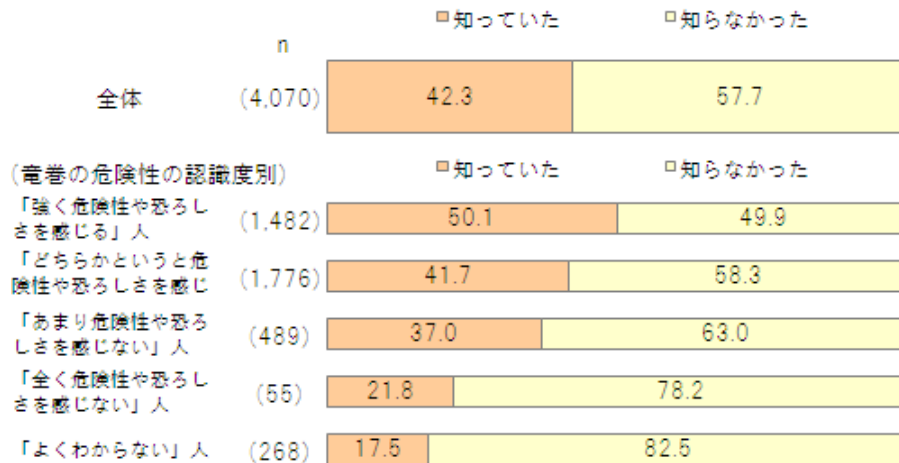


(3) 気象台の竜巻注意情報発表の認知・竜巻注意情報が発表される状況の認知

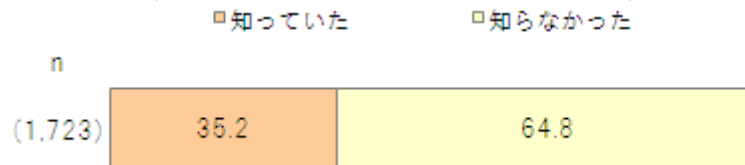
竜巻注意情報を「知らなかった」という回答が6割近くを占め、認知度はまだ十分でないが、竜巻の危険性や恐ろしさを強く感じている人ほど認知率が高い。また竜巻注意情報の必要性を感じる回答が9割近くあるにもかかわらず、竜巻注意情報の発表を「知っていた」との回答は、4割程度にとどまり、必要性を感じている割には竜巻注意情報の存在を知らない人が多いという課題が明らかになった。また竜巻注意情報が発表される状況(雷注意報発表中に、竜巻などの突風の発生しやすい気象状況になっているとき)について、「知っていた」との回答は3割台半ばに過ぎない。

今後の竜巻発生確度ナウキャストの周知と合わせて継続的な広報活動が必要である。

(竜巻注意情報の認知度)



(竜巻注意報が発表される状況の認知度)



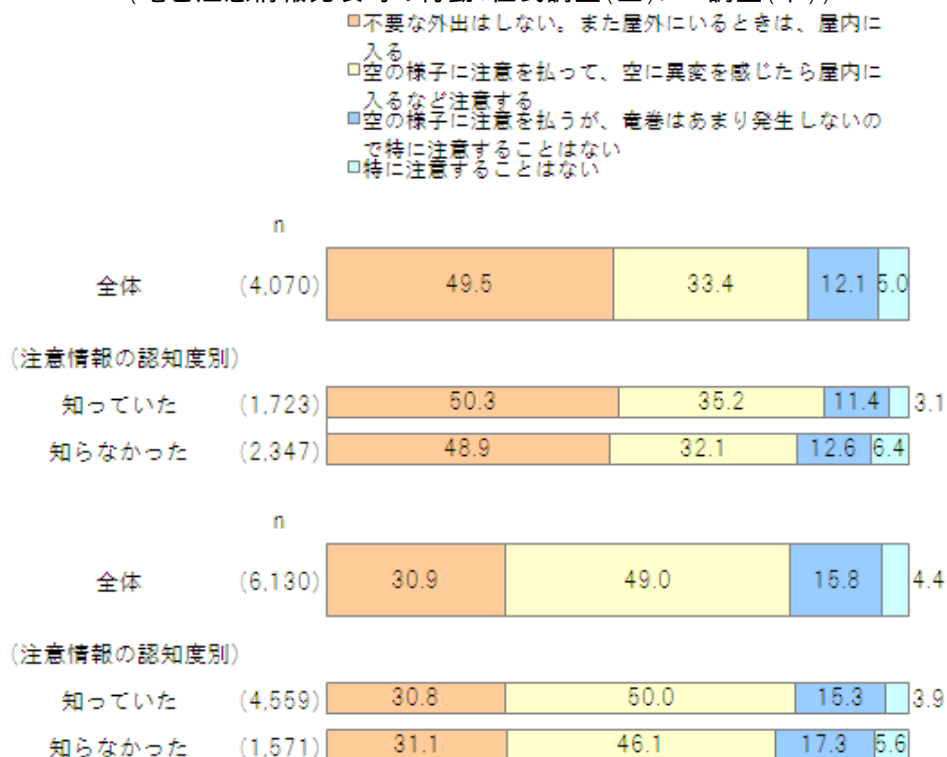
(4) 竜巻注意情報発表時の行動

竜巻注意情報が発表されたとき「不要な外出はしない」「空に異変を感じたら屋内に入る」など、8割以上が何らかの対応をとると答えている。

一方で、気象庁は、竜巻注意情報は空振りも多いので、情報の発表と同時に「不要な外出をしない」などの具体的な避難行動をとるより「情報が発表されたら空の様子に注意を払って、空に異変を感じたら屋内に入るなどの対応をとる」という、まず簡単な行動から始めることを推奨している。アンケート結果は、気象庁が推奨する行動に比べ、やや過剰な対応のように思われる。この点の理解は、気象情報に対する関心が高いと思われるホームページ調査の回答者でも約半数程度である。

高い精度で発表することが難しい気象情報の適切な利用方法については、今後提供される竜巻発生確度ナウキャストの広報活動と合わせて周知してゆく必要がある。

(竜巻注意情報発表時の行動:住民調査(上)/HP調査(下))

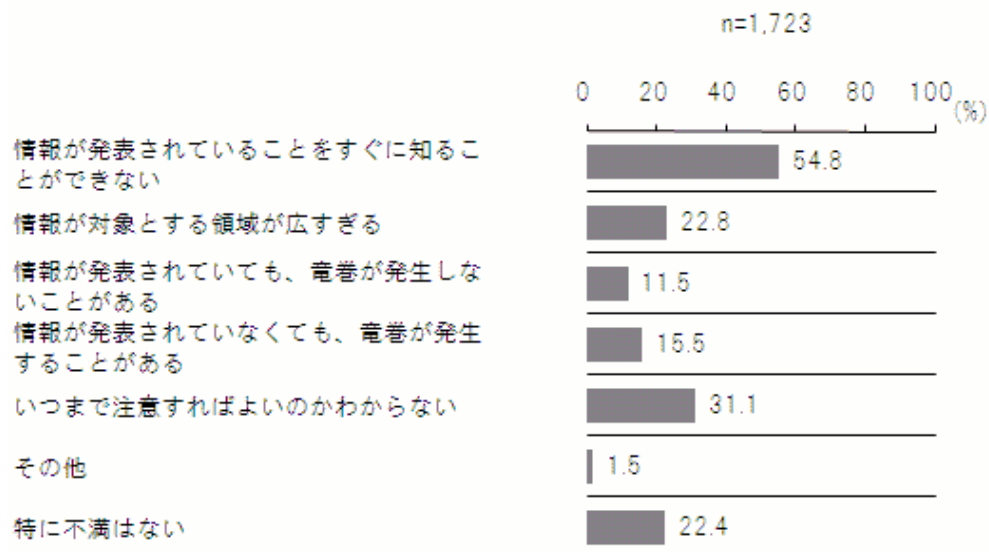


(5) 竜巻注意情報についての不満点

竜巻注意情報に関する不満としては「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」が5割以上と最も多く、次いで「いつまで注意すればよいのかわからない」が約3割となっている。

「発表されていることをすぐに知ることができない」との回答は、テレビ以外での情報入手手段が少ないことと解せられる。民間事業者による携帯端末でのサービスの提供も働きかけるなど、情報提供の多様化を図ってゆく必要がある。「いつまで注意すればよいのかわからない」との回答は、竜巻注意情報は発表から1時間と有効期限を区切った情報であることへの理解が浸透していないためと考えられる。今後提供される竜巻発生確度ナウキャストの広報活動と合わせて周知してゆく必要がある。

(竜巻注意情報についての不満点)



4. 土砂災害警戒情報について

鹿児島県土砂災害警戒情報 第5号

平成xx年x月xx日 11時30分
鹿児島県 鹿児島地方気象台 共同発表

【警戒対象地域】
鹿児島市・指宿市 嶺桂町 知覧町 鹿屋市 垂水市・錦江町・南大隅町・肝付町・志布志市

【警戒解除地域】
いちき串木野市

*印は、新たに警戒対象となった市町村を示します。

【警戒文】
【一部解除、一部拡大】
降り続く大雨のため、鹿児島市、垂水市、錦江町、南大隅町、肝付町が新たに警戒対象地域に加われました。今後、土砂災害の危険度が非常に高まる見込みです。土砂災害危険箇所及びその周辺地域では厳重に警戒して下さい。警戒対象市町村での今後3時間以内の最大1時間雨量は、多い所で60ミリです。

問い合わせ先
099-xxxx-xxxx (鹿児島県土木部砂防課)
099-xxxx-xxxx (鹿児島地方気象台観測予報課)

土砂災害警戒情報は、大雨警報が発表されている状況で、土砂災害の危険度が非常に高まったときに、市町村長が避難勧告等の判断の参考となるよう、対象となる市町村を特定して都道府県と気象庁が共同して発表する防災情報です。

(1) 土砂災害の危険性を感じた経験

「土砂災害の危険を感じたことがある」割合は、「強く感じた」「どちらかというと感じた」を合わせても2割未満となっている。土砂災害への危険性の認識は、実際の経験に基づくものであり、そのような経験のない人にとっては、関心が薄いことはやむを得ないところである。しかし、土砂災害の危険を感じたことがない人が、すべて安全な場所に住んでいるとは限らないので、土砂災害の危険なところに住んでいながらその危険性を認識していない人へ、自治体等関係機関と連携し土砂災害への知識の普及啓発を優先的に進めることが必要である。

(土砂災害の危険性を感じた経験)

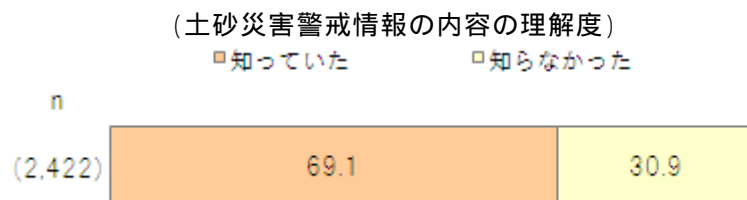
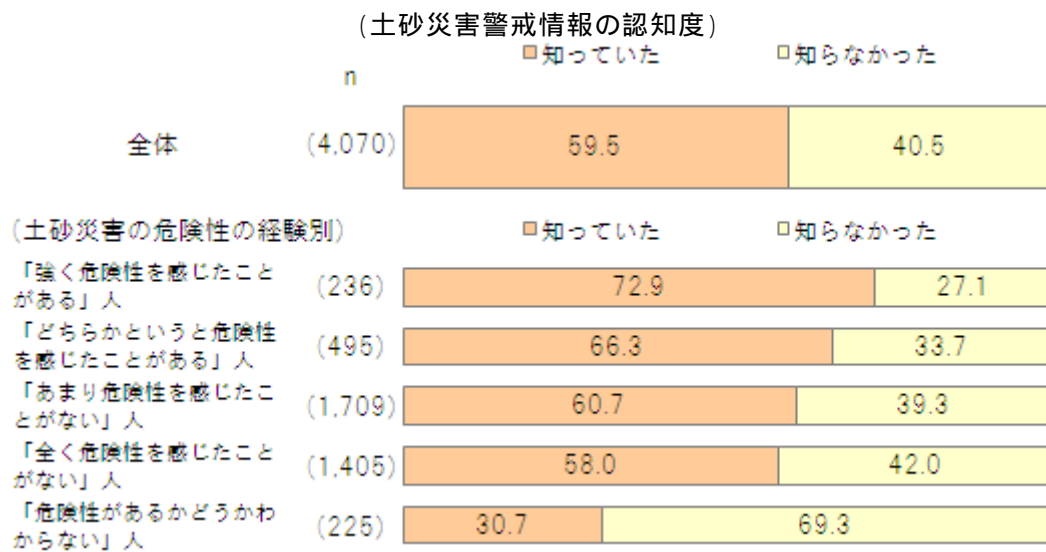
- 強く危険性を感じたことがある
- どちらかという危険性を感じたことがある
- あまり危険性を感じたことがない
- 全く危険性を感じたことがない
- 危険性があるかどうかわからない



(2) 土砂災害警戒情報の認知・土砂災害警戒情報が発表される状況の認知

土砂災害警戒情報を「知っていた」とする回答が約6割となっている。これを土砂災害の危険性を感じた経験別にみると、土砂災害の危険性を強く感じたことがある人ほど土砂災害警戒情報の認知度が高くなる傾向にある。さらに、土砂災害警戒情報の内容(大雨警報が発表されている状況で土砂災害の危険度が非常に高まったときに発表される)の理解度については、「知っていた」との回答が7割弱を占める。

土砂災害警戒情報が新しい情報であるにもかかわらず、認知度や内容の理解度は高いと見られるので、今後は、土砂災害警戒情報の認知度・理解度をさらに高めるとともに、避難勧告への対応などとするべき行動と関連させた土砂災害警戒情報の利用について、自治体等関係機関と連携した広報活動を行う必要がある。



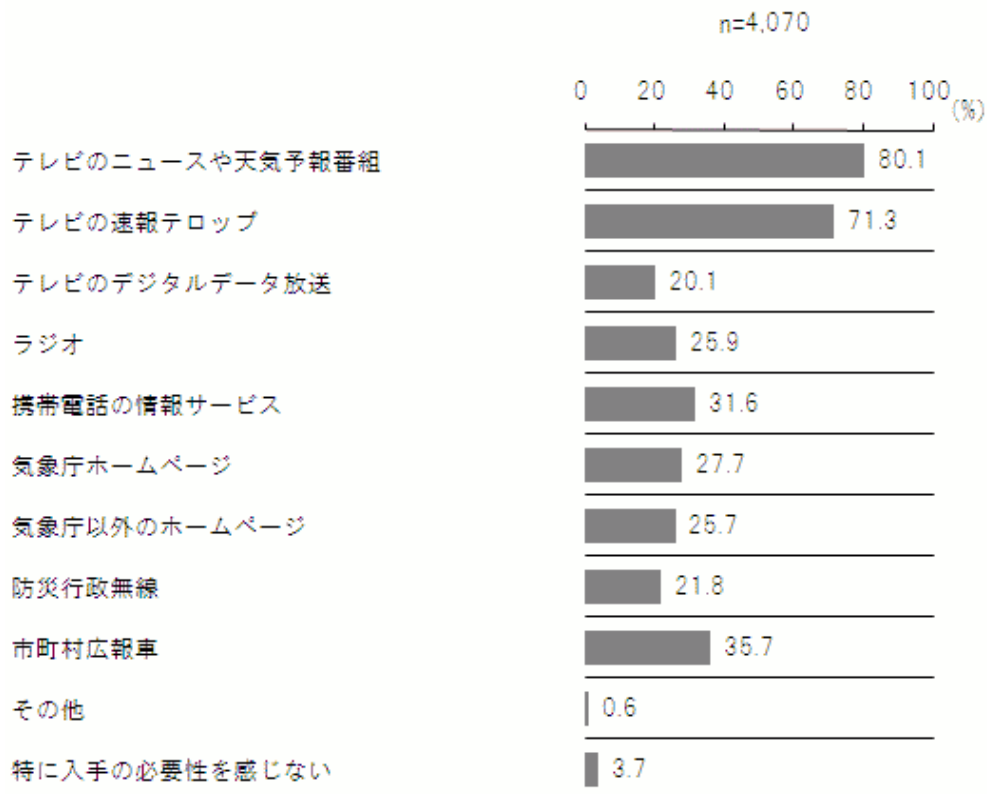
(3) 土砂災害警戒情報などの入手希望先

土砂災害警戒情報など土砂災害の危険性が高まった時に発表される情報の入手先として希望する媒体については、「テレビのニュースや天気予報番組」との回答が最も高く約8割、「テレビの速報テロップ」がそれに続く7割強となっている。

速報性をもったテレビによる情報の入手希望が多いことは、他の防災情報と合わせて利用するうえでは適切である。

土砂災害警戒情報は市町村長の避難勧告判断を支援する情報であるだけでなく、一般住民にもこの情報を共有することが円滑な避難行動に効果的であることを考慮し、引き続き自治体等関係機関と連携しながら、適切な避難行動に向けた広報活動を展開していく必要がある。

(土砂災害警戒情報などの入手先の希望)



(4) 土砂災害警戒情報などについての不満点

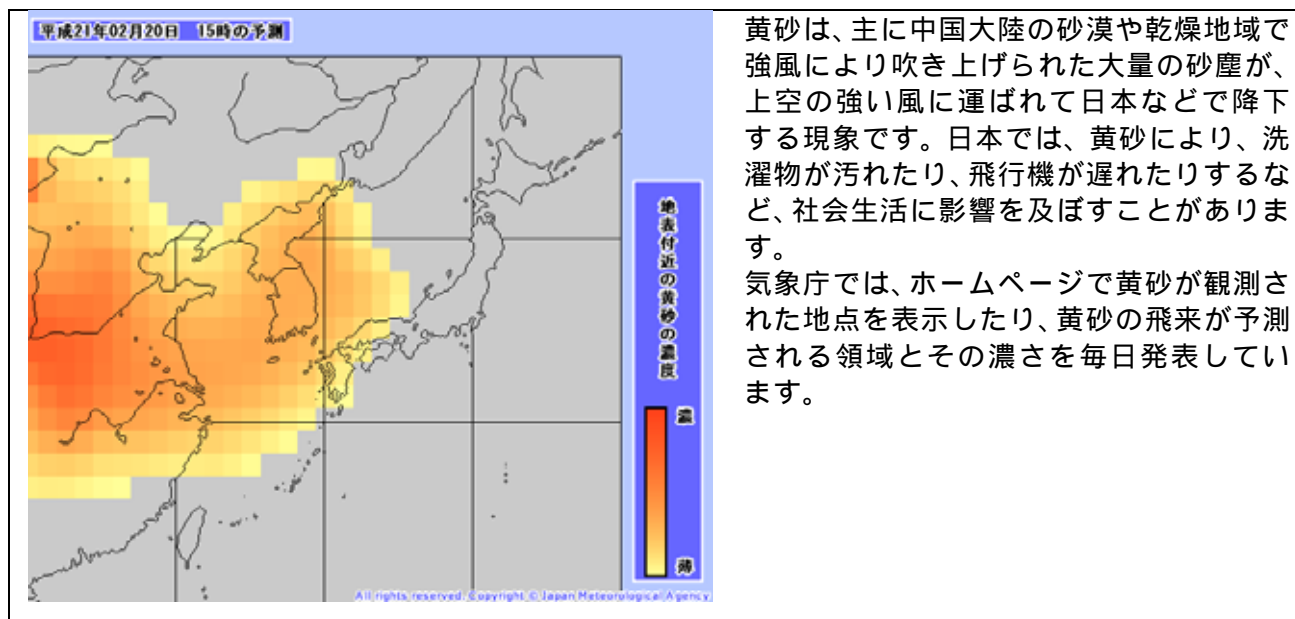
土砂災害警戒情報など土砂災害の危険性が高まったときに発表される情報への不満については、「危険性の程度がわかりにくい」との回答が4割以上で最も高く、次いで「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」が約4割となっている。

「危険性の程度がわかりにくい」という不満については、土砂災害警戒情報は大雨警報よりさらに災害の発生が迫っており避難勧告に相当する情報であることの認識を広めることが必要であり、「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」ことへの対応と合わせ、引き続き自治体等関係機関と連携しながら、適切な避難行動に向けた広報活動を展開することが必要である。

(土砂災害警戒情報などについての不満点)

	n	がこ情 でと報 きを なす い に さ 知 れ る こ い と る	に危 く 険 い 性 の 程 度 が わ か り	広は市 す、町 ぎ、村 る、象 と単 す位 るの 地発 域表 がで	こも情 と、報 が災 あ吉 るが 発 生 し て な い	すい情 る地報 こと が、 あ災 る吉 が 生 な	そ の 他	特 に 不 満 は な い
全 体	4,070	40.7	48.6	24.8	8.4	12.8	1.0	82.7

5. 黄砂情報について



黄砂は、主に中国大陸の砂漠や乾燥地域で強風により吹き上げられた大量の砂塵が、上空の強い風に運ばれて日本などで降下する現象です。日本では、黄砂により、洗濯物が汚れたり、飛行機が遅れたりするなど、社会生活に影響を及ぼすことがあります。

気象庁では、ホームページで黄砂が観測された地点を表示したり、黄砂の飛来が予測される領域とその濃さを毎日発表しています。

(1) 黄砂情報入手時の行動

黄砂情報を入力した際の行動については、「洗濯物や布団を外に干さない」との回答が最も高く7割強、次いで「部屋の空気を入れ替えを避ける」が4割弱となっている。

職業別にみると、「洗濯物や布団を外に干さない」は専業主婦（夫）で8割台半ばと高くなっている。また、「部屋の空気を入れ替えを避ける」は、専業主婦（夫）及び学生で5割程度と高い。

職業にかかわらず「洗濯物や布団を外に干さない」の回答が過半数で最も高く、黄砂情報が生活情報として定着していることがうかがわれる。職業別でみると、技術・技能職や販売・サービス業などで「洗車するのを先に伸ばす」や「交通機関の運行情報を入力する」の回答が他の職業に比べ高い傾向がある。

(黄砂情報入手時の行動)

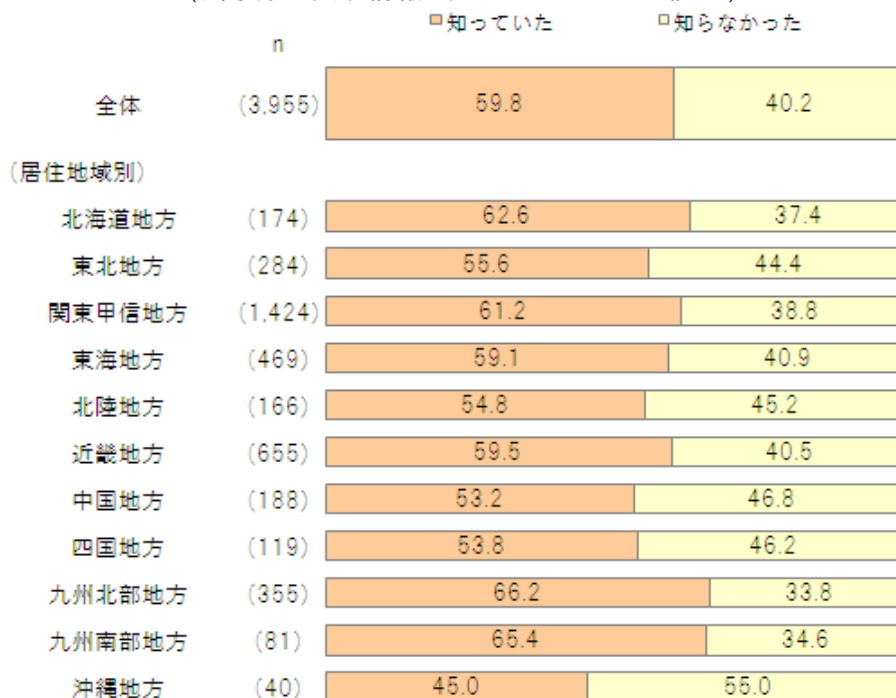
		n	洗濯物や布団を外に干さない	洗車するのを先に伸ばす	部屋の空気を入れ替えを避ける	外出の際にマスクをしない	トイレットペーパーやティッシュペーパーの在庫を確認する	交通機関の運行情報を入力する	見通しが悪くなるなど、黄砂の影響が確認される	その他	特にとる行動はない
全体		3,955	72.1	35.0	39.3	34.1	23.0	7.3	19.6	0.8	16.2
職業別	農林漁業	39	69.2	33.3	35.9	35.9	17.9	2.6	28.2	-	10.3
	商工サービス自営	180	64.4	28.3	36.1	27.2	15.6	2.2	25.0	-	21.1
	事務職	828	70.4	34.5	37.7	33.0	22.2	8.3	19.7	0.8	16.7
	技術・技能職	733	65.6	37.8	30.4	30.3	22.2	8.0	18.3	0.8	21.6
	販売・サービス職	496	75.2	37.3	38.3	35.5	22.2	9.9	19.2	0.8	13.9
	自由業	160	62.5	30.6	38.1	35.0	28.8	8.8	22.5	0.6	20.0
	専業主婦（夫）	819	84.4	36.1	49.9	40.8	26.3	5.3	18.4	0.9	9.3
	学生	133	67.7	27.8	52.6	31.6	14.3	8.3	14.3	1.5	17.3
	無職	402	67.4	34.1	36.6	32.8	22.4	6.2	21.1	1.2	18.2
	その他	165	72.1	33.3	38.2	30.9	28.5	9.1	21.2	0.6	18.8

(2) 気象庁が黄砂情報を発表していることの認知・知っている黄砂情報の内容

黄砂情報の認知度については、「知っていた」との回答が6割弱を占める。

居住地域別にみると、例年黄砂が観測される日数の多い九州北部地方、九州南部地方で6割台半ばを占め高い。これらの地方では、黄砂情報を「非常に必要である」とする回答が2割台半ば、「必要である」とする回答と合わせると8割弱が情報を必要としていることを反映したものと考えられる。なお、例年黄砂が観測される日数の少ない北海道でも6割以上に達するなど、ほとんどの地域で認知度が半数を超えており、当庁が黄砂情報を発表していることについて、全国的に一定以上の認知がある。

(気象庁が黄砂情報を発表していることの認知)

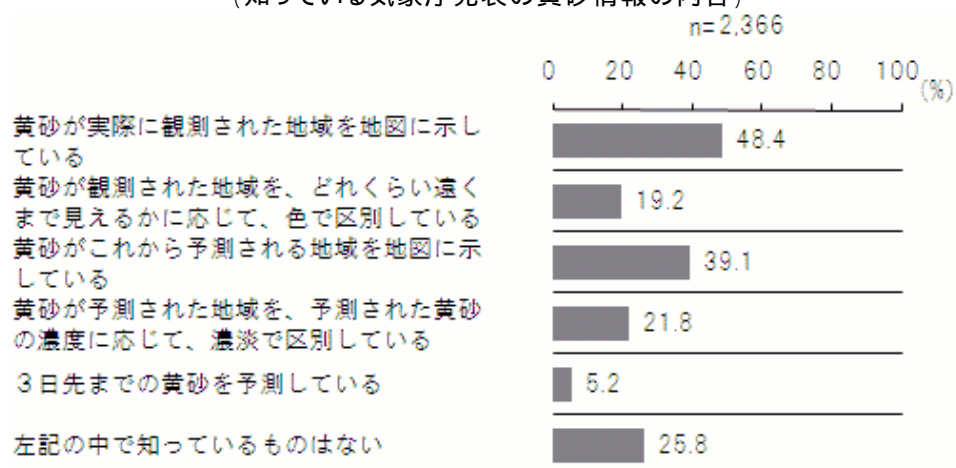


気象庁が黄砂情報を発表していることを認知している回答者に対して、気象庁がホームページで発表している黄砂情報の内容について認知を聞いた結果は、個々の内容に対する認知度に大きなばらつきがあった。

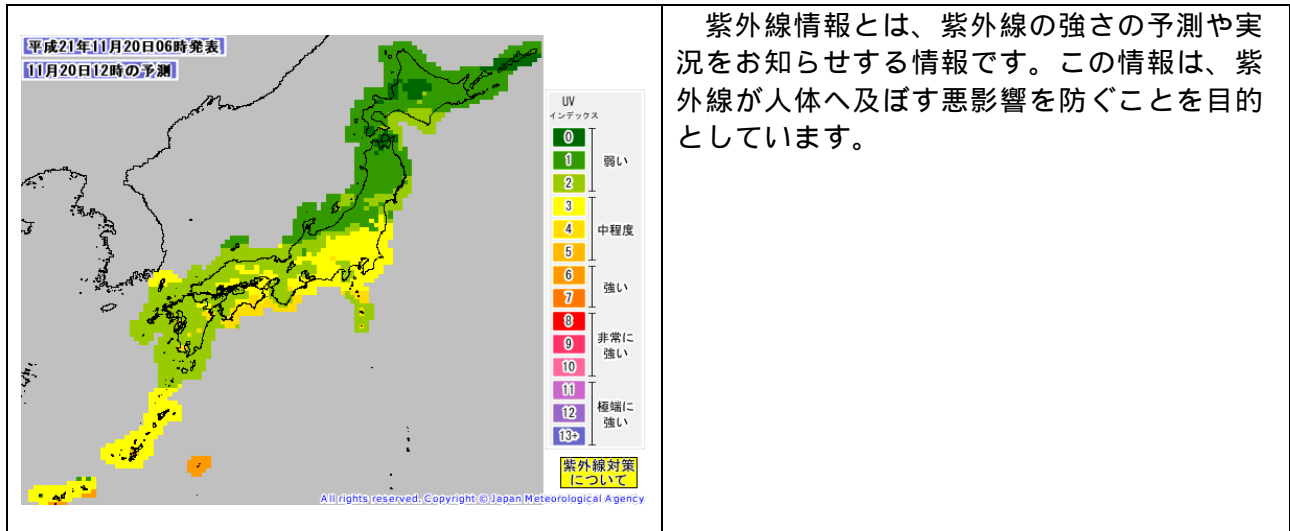
黄砂情報の内容に対する認知度が比較的高いものとしては、「黄砂が実際に観測された地域を地図に示している」との回答が最も高く5割弱、次いで「黄砂がこれから予測される地域を地図に示している」が4割弱となっている。また、認知度の低いものとしては、黄砂が観測された実況を示す「黄砂が観測された地域を、どのくらい遠くまで見えるかに応じて、色で区別」や、黄砂の予測結果を示す「黄砂が予測された地域を、予測された黄砂の濃度に応じて、濃淡で区別」の回答がともに2割程度と低く、また、「知っているものはない」とする回答が2割台半ばとなっているが、これは、黄砂情報の入手手段として気象庁ホームページの利用割合が1割程度と低いことが関係していると思われる。

特に、ホームページで提供する3日先までの黄砂の予測の認知度は1割未満と低い。これは、気象庁ホームページの利用割合が低いことに加えて、ホームページで提供している3日先までの黄砂の予測が、利用者が画面上で操作しないと先々の予測図を見ることができないことも影響して非常に低い回答となったと考えられる。

(知っている気象庁発表の黄砂情報の内容)



6. 紫外線情報について

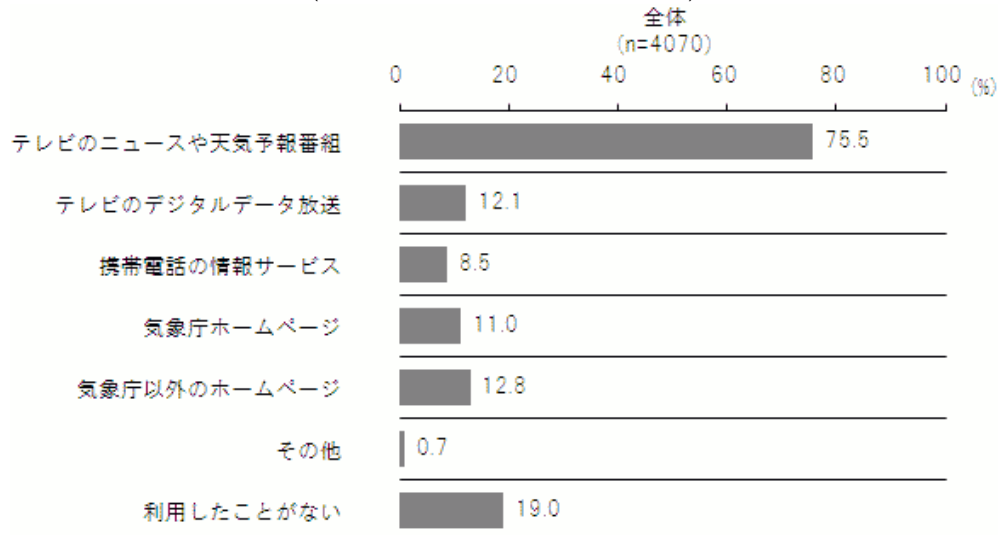


(1) 紫外線情報の入手先

紫外線情報を入手している媒体については、「テレビのニュースや気象情報」との回答が最も高く7割台半ばである。気象庁ホームページから入手している人の割合は1割程度で、「テレビのデジタル放送」「気象庁以外のホームページ」など他の媒体とほぼ同じである。

「利用したことがない」を除いた全体で考えると、ほとんどの人が「テレビのニュースや気象情報」から紫外線情報を入手しており、一部の人がある他の媒体も利用していると考えられる。

(気象庁の紫外線情報の入手先)



(2) 気象庁の紫外線情報の利用頻度

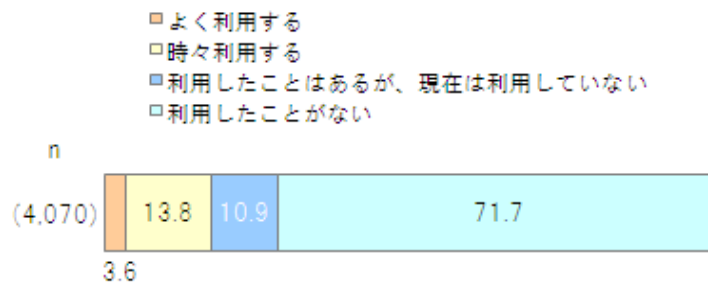
紫外線情報の利用頻度は、「よく利用する」と「時々利用する」を合わせても2割弱にとどまる。

紫外線対策に関心のある人は全体の約7割強であるが、これを気象庁ホームページの利用頻度別にみると、利用頻度が高くなるほど関心も高くなる傾向にある。特に、よく利用する人については「非常に関心がある」との回答が8割台半ばを占める。ただし、利用したことがない人でも、紫外線対策に関心がある人の合計は約6割である。

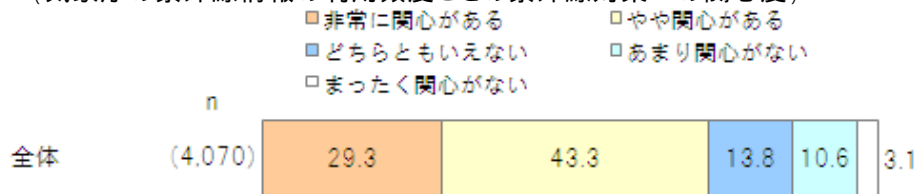
多くの人が紫外線対策に関心をもっているにもかかわらず、気象庁ホームページの紫外線情報を現在利用している人は、全体の2割弱である。これはの結果からわかるように、ほとんどの人が紫外線情報をテレビの気象情報のみから入手しているため、紫外線対策に関心があっても気象庁ホームページやその他の媒体も利用する人は少ない。気象庁ホームページの紫外線情報を「よく利用する」人では、紫外線対策に「非常に関心がある」人の割合が特に高く、紫外線情報のユーザーは、テレビの気象情報による簡潔な情報だけを利用する層と、紫外線対策への関心が非常に高くホームページなどからも詳細な情報を利用する一部の層に分かれているのではないかと考えられる。

気象庁ホームページの紫外線情報を利用したことがない人でも、紫外線対策に「非常に関心がある」人と「やや関心がある」を合わせると6割を超えており、これらの人は詳細な情報に対する潜在的なニーズを持っていると考えられる。このことから、気象庁ホームページの紫外線情報を周知することで利用者の拡大をする必要がある。また、現在、気象庁の紫外線情報を紹介するリーフレットを作成中で、平成22年3月には一般に配布する予定である。このような広報活動の取り組みにより気象庁ホームページの紫外線情報の利用者が増加することが期待される。

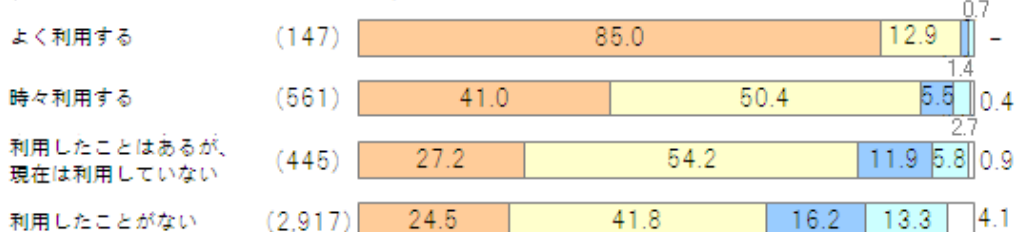
(気象庁の紫外線情報の利用頻度)



(気象庁の紫外線情報の利用頻度ごとの紫外線対策への関心度)



(気象庁HPの利用頻度ごとの関心度)



(3) 紫外線情報についての不満点

気象庁ホームページの紫外線情報への不満については、5割近くが「特に不満はない」と回答したが、それ以外では「選択できる地点が県庁所在地など全国56地点しかなく不十分」との回答が最も高く3割弱となっている。気象庁ホームページの利用頻度別にみると、「選択できる地点が県庁所在地など全国56地点しかなく不十分」はホームページをよく利用する人で3割強と高くなっている。また「選択できる地点が県庁所在地など全国56地点しかなく不十分」と、詳細な情報を求める人が多い傾向がある。

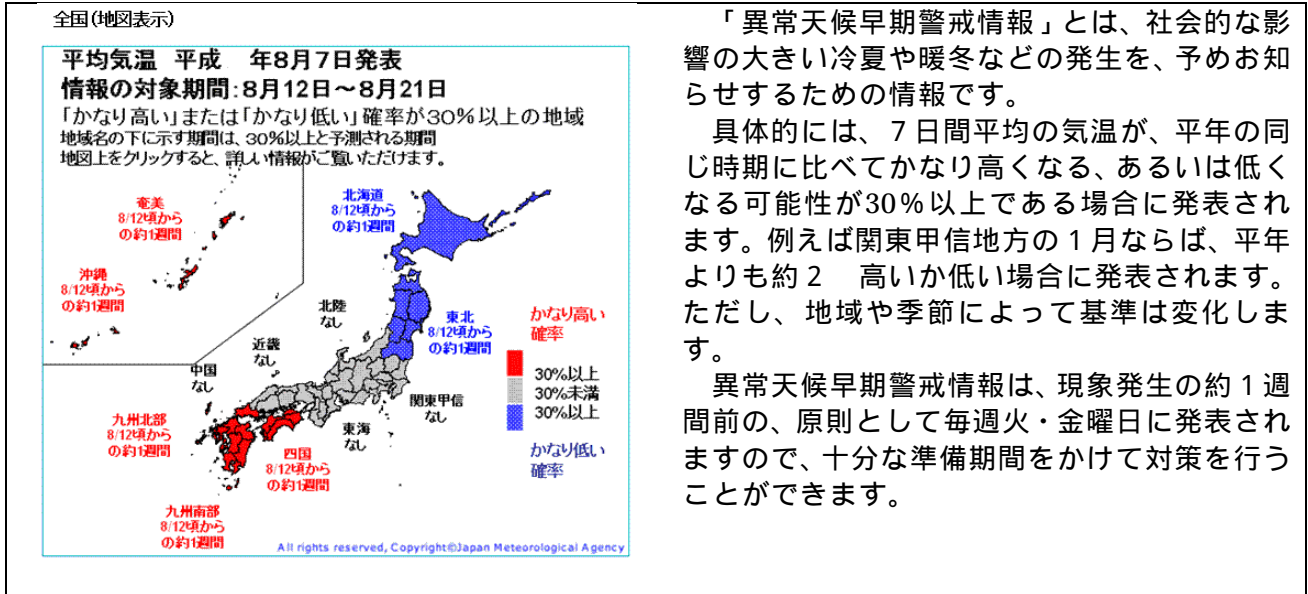
この結果から、多くの人々が紫外線情報について自分の住んでいる地域の時系列的な情報を必要としていることがわかる。特に気象庁ホームページの紫外線情報をよく利用する人ほどこの傾向が高く、利用者の満足度をさらに向上させるためには、ホームページ上で選択できる地点数を増やすことが有効と考えられる。

(紫外線情報についての不満点)

(%)

	n	が携 ない電 話向 けの サイ ト	な予 い測 図の 見方 がわ から	点所 し在 か地 なな くど る全 十国 分5 6県 地庁	ま予 で測 がさ れ短 る期 間へ 翌日	る予 測が 外れ ること があ	そ の 他	特 に 不 満 は ない
全体	1,153	12.8	16.7	27.4	14.9	5.8	0.9	49.8
用H気よく利用する	147	18.4	18.4	34.0	20.4	6.1	0.7	40.1
頻P乗時々利用する	561	10.5	17.5	29.8	15.5	6.1	1.1	49.2
度の庁利用したことはあるが、現在は利用していない	445	13.9	15.3	22.2	12.4	5.4	0.7	53.7
別利の利用したことがない	-	-	-	-	-	-	-	-

7. 異常天候早期警戒情報について

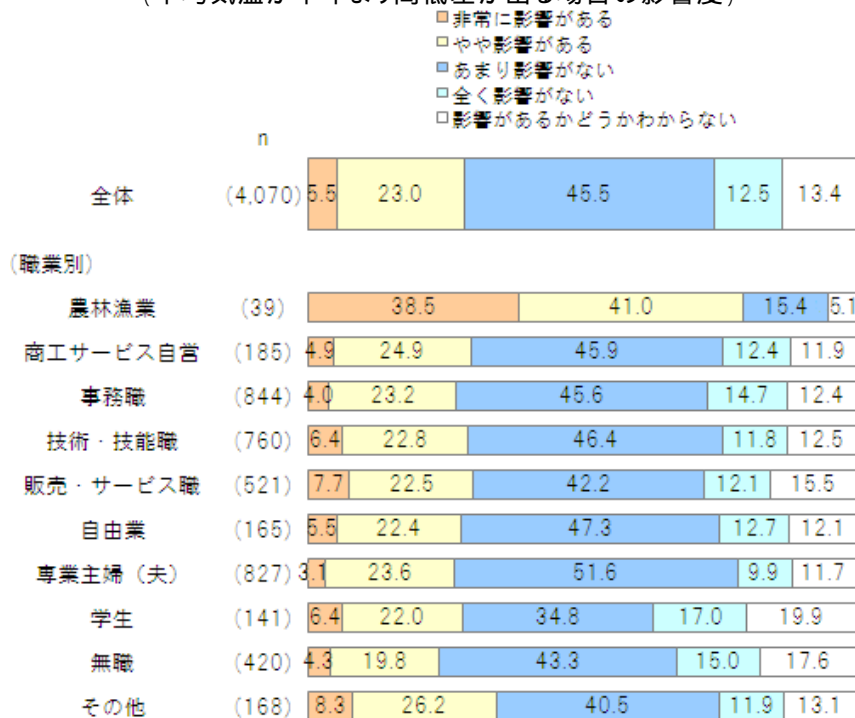


(1) 平均気温が平年より高低差がでる場合の影響度

7日間平均の気温が平年の同じ時期に比べて高くなる、または低くなる影響については、「非常に影響がある」と「やや影響がある」を合わせると約3割となっている。職業別にみると、「非常に影響がある」と「やや影響がある」の合計は農林漁業で特に高く、約8割となっていた。

異常天候早期警戒情報は、これまでは農業関係機関や電気・ガスなどのエネルギー関係機関を主なユーザーとして想定していたが、今回の調査結果では農林漁業以外でも回答者の3割近くが気温の高低によって影響を受けるとしており、異常天候早期警戒情報のニーズが農業・エネルギー関連分野以外でも一定程度存在している事が分かった。

(平均気温が平年より高低差が出る場合の影響度)

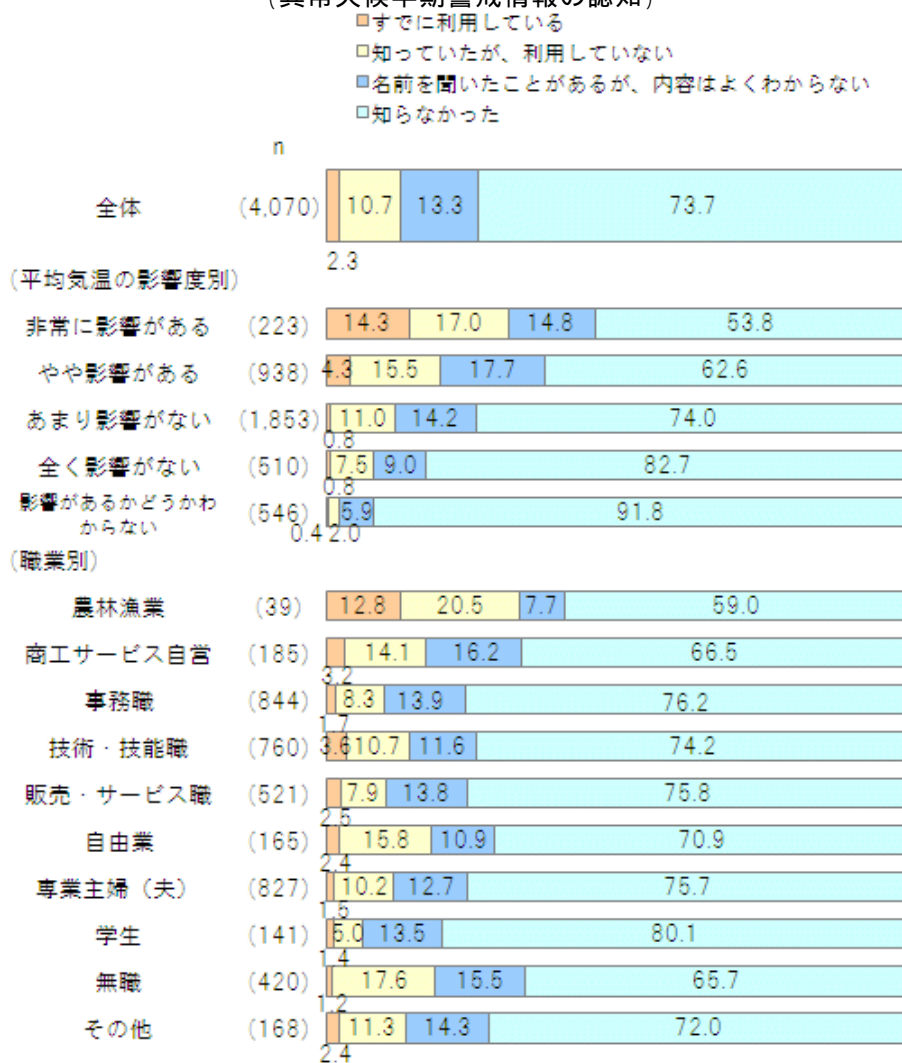


(2) 「異常天候早期警戒情報」の認知

異常天候早期警戒情報の認知状況については、「すでに利用している」「知っていたが、利用していない」「名前を聞いたことがあるが、内容はよくわからない」を合わせても2割台半ばにとどまる。気温の高低について「非常に影響がある」と回答した人でも過半数が「知らなかった」としており、情報が十分認知されていないことがうかがえるので、今後とも普及活動を行っていく必要がある。

職業別にみると、農林漁業で「すでに利用している」「知っていたが、利用していない」及び「名前を聞いたことがあるが、内容はよくわからない」を合わせると約4割となり、他の職業と比べて高かった。なお、平成20年度に実施した各府県の農政機関への聞き取り調査における異常天候早期警戒情報の認知度は5割～9割程度で、今回の住民調査での認知度は、これよりも低い結果となっている。農政機関等が作成した独自資料を通して間接的に異常天候早期警戒情報を利用している農業従事者もいると思われるが、末端のユーザーにまでは異常天候早期警戒情報そのものの認知が広まりきっていない。

(異常天候早期警戒情報の認知)



(3) 「異常天候早期警戒情報」についての不満点

本設問は、異常天候早期警戒情報を認知している人が回答している。

不満点では、「テレビで取り上げられる機会が少ない」との回答が最も高く、利用状況例別で比較すると、「既に利用している」と回答している人で特に高い傾向が見られる。利用者がテレビで利用したいと希望していることと、で述べたように潜在的なニーズが一般にも存在している事も併せて報道機関へ説明を行っていくことにより、情報の露出度を高めていくことが有効である。なお、専門的な利用者に対しては、気象庁ホームページで異常天候早期警戒情報以外にもその基礎資料を常に公開している事をアピールしていく事も併せて重要である。

また、「どのように利用すればよいのか分からない」、「どのような内容の情報なのか分からない」という不満点もそれぞれ2割前後と高くなっており、異常天候早期警戒情報の活用事例を提示するなどして、具体的な利活用に向けた普及活動も必要である。また、民間気象会社を通じた情報の提供や解説も有効と考える。

(異常天候早期警戒情報についての不満点)

		n	る テ レ ビ で 取 り 上 げ ら れ	表 火 事 の 報 道 が 少 な い	な ど の よ う な 内 容 の 報 道 が 少 な い	よ ど の よ う な 利 用 の 方 法 が 少 な い	報 道 の 名 前 が 少 な い	予 想 が 行 わ れ な い	7 日 間 を 平 均 す る 期 間 が	発 見 率 が 3 0 % 以 上	そ の 他	特 に 不 満 は な い
全 体		1,069	38.3	4.7	18.4	21.2	16.4	9.4	4.3	9.0	1.3	36.2
「異常天候 早期警戒情 報」の利用 状況別	すでに利用している	92	54.3	17.4	9.8	13.0	29.3	21.7	8.7	23.9	3.3	19.6
	知っていたが、利用していない	436	37.8	6.0	12.8	18.6	16.3	11.2	5.3	10.3	1.8	35.6
	名前を聞いたことがあるが、内容はよくわからない	541	35.9	1.5	24.4	24.8	14.2	5.9	2.8	5.4	0.6	39.6
	知らなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

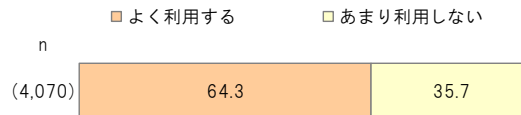
Ⅲ. 調査結果

1. 台風予報について

(1) 台風予報の利用頻度

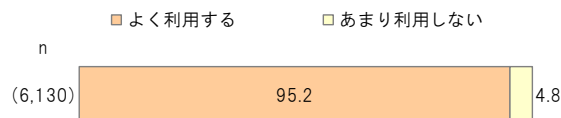
問 1 - 1 あなたは、台風予報をよく利用しますか。

【住民調査】



台風予報の利用頻度について、住民調査では「よく利用する」(64.3%)との回答が6割台半ばを占める。

【HP 調査】

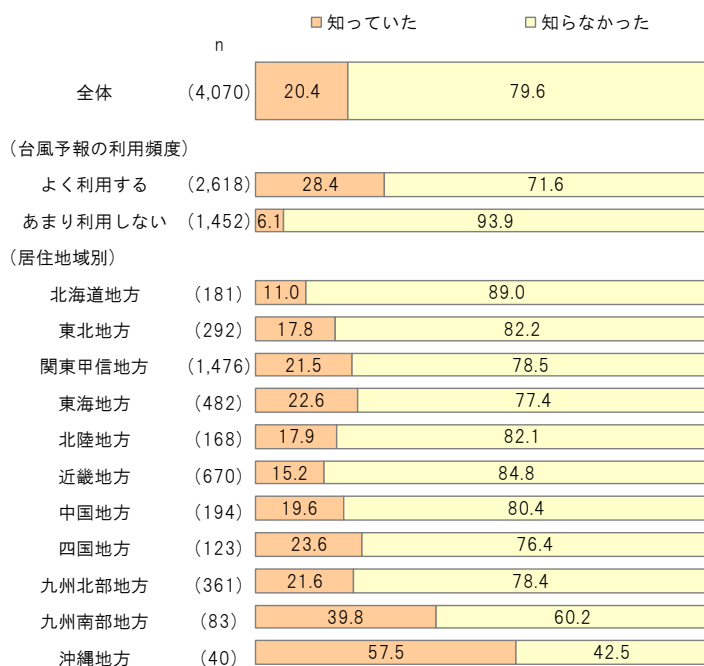


台風予報の利用頻度について、HP 調査では「よく利用する」(95.2%)との回答が9割台半ばを占める。

(2) 台風進路予報が5日先までに延長されたことの認知

問1-2 平成21年から、台風の進路に関する予報が、3日先までの予報から5日先までの予報に延長されました。あなたはこのことを知っていましたか。

【住民調査】

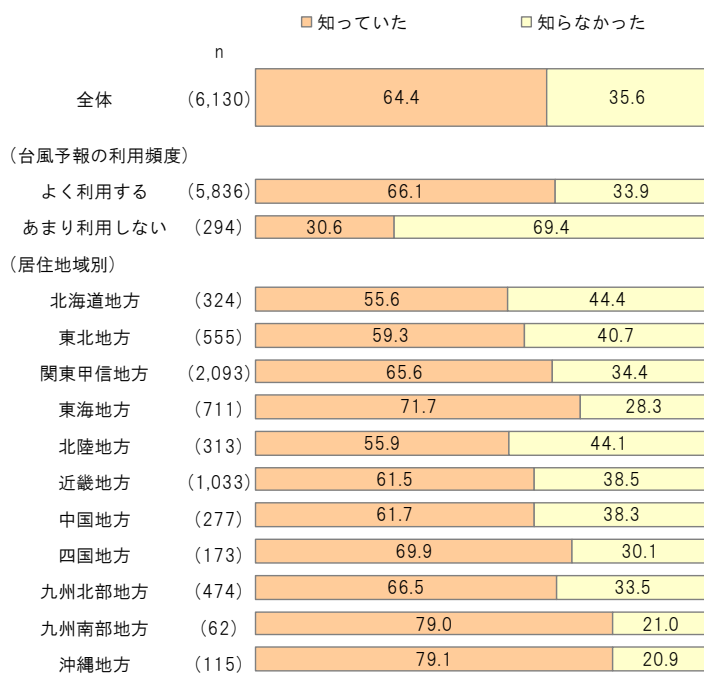


台風の進路に関する予報が延長されたことについて、住民調査では「知っていた」(20.4%)との回答はおよそ2割にとどまる。

台風予報の利用頻度別にみると、「知っていた」との回答はよく利用する(28.4%)で3割弱と高い。

居住地域別にみると、沖縄地方(57.5%)で6割弱、九州南部地方(39.8%)で4割弱と認知度が高い。

【HP調査】



HP調査では「知っていた」(64.4%)との回答はおよそ6割台半ばを占める。

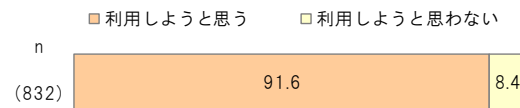
台風予報の利用頻度別にみると、全体と同様の傾向にある。

居住地域別にみると、沖縄地方(79.1%)、九州南部地方(79.0%)で8割弱、東海地方(71.7%)で7割強、四国地方(69.9%)で7割弱と認知率が高い。

(3) 5日先まで延長された台風進路予報の利用意向

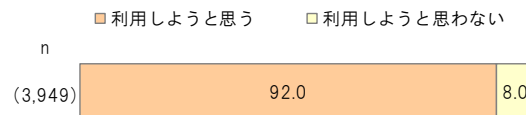
問1 - 3 あなたは、4日先・5日先まで延長された台風の進路予報を利用しようと思いますか。

【住民調査】



台風の進路予報の利用意向について、住民調査では「利用しようと思う」(91.6%)との回答が9割強を占める。

【HP調査】

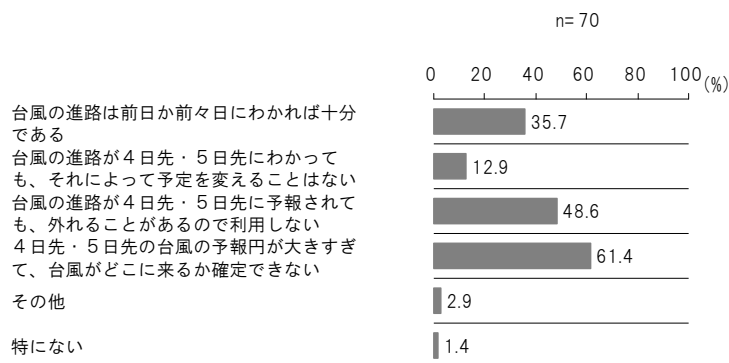


HP調査でも同様に「利用しようと思う」(92.0%)との回答が9割強を占める。

(4) 台風進路予報を利用しようと思わない理由

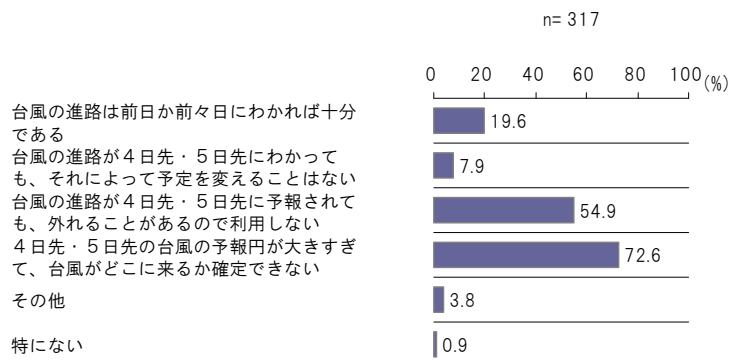
問 1 - 4 あなたが台風の4日先・5日先までの進路予報を利用しようと思わない理由は何ですか。

【住民調査】



台風の進路予報を利用したくない理由について、住民調査では「4日先・5日先の台風の予報円が大きすぎて、台風がどこに来るか確定できない」(61.4%)との回答が最も高く6割強を占め、次いで「台風の進路が4日先・5日先に予報されても、外れることがあるので利用しない」(48.6%)が5割弱、「台風の進路は前日か前々日にわかれば十分である」(35.7%)が3割台半ばとなっている。

【HP調査】

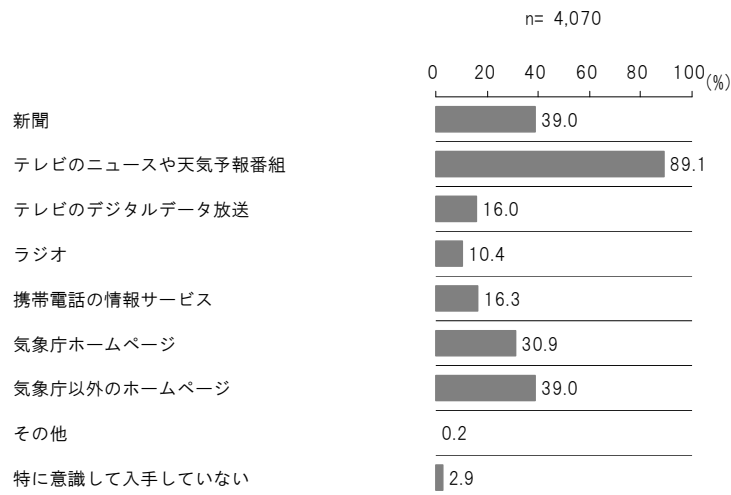


HP調査では、「4日先・5日先の台風の予報円が大きすぎて、台風がどこに来るか確定できない」(72.6%)との回答が最も高く7割強を占め、次いで「台風の進路が4日先・5日先に予報されても、外れることがあるので利用しない」(54.9%)が5割台半ばを占め高い。

(5) 台風予報の入手先

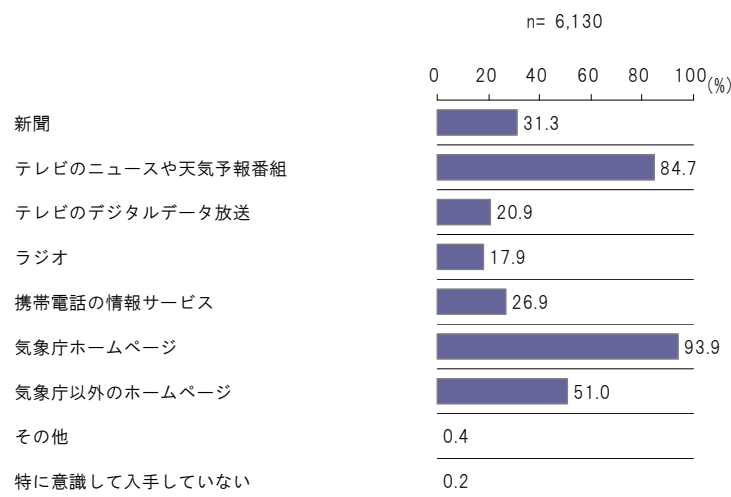
問1 - 5 あなたは、台風予報を何から入手していますか。利用しているものをすべて選んでください。

【住民調査】



台風予報情報の入手先について、住民調査では「テレビのニュースや天気予報番組」(89.1%)との回答が最も高く9割弱を占める。次いで「新聞」(39.0%)、「気象庁以外のホームページ」(39.0%)が4割弱となっている。

【HP調査】



HP調査では、「気象庁ホームページ」(93.9%)との回答のほか、「テレビのニュースや天気予報番組」(84.7%)が8割台半ば、「気象庁以外のホームページ」(51.0%)が5割強を占め高い。

(6) 台風予報についての要望

問1 - 6 台風予報について、要望がありましたら、あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】

		(%)								
		n	し 想 1 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	く の 2 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	く の 3 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	く の 4 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	を 力 に 関 す る 予 想 の 精 度 を よ く し て ほ し い	雨 量 や 風 の 強 さ 等 、 勢 力 に 関 す る 予 想 の 精 度 を よ く し て ほ し い	そ の 他	特 に 要 望 は な い
全 体		4,070	40.1	54.9	26.4	44.2	1.4	13.7		
台風予報の 利用頻度別	よく利用する	2,618	44.5	62.1	30.3	49.7	1.8	6.7		
	あまり利用しない	1,452	32.1	42.1	19.4	34.4	0.6	26.4		

台風予報への要望について、住民調査では「2日先・3日先の台風の進路予想の精度をよくしてほしい」(54.9%)との回答が最も高く5割台半ば、次いで「雨量や風の強さ等、勢力に関する予想の精度をよくしてほしい」(44.2%)、「1日先の台風の進路予想の精度をよくしてほしい」(40.1%)が4割台となっている。

台風予報の利用頻度別にみると、いずれの要望も、よく利用する人のほうがあまり利用しない人よりも高い。

【HP調査】

		(%)								
		n	し 想 1 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	く の 2 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	く の 3 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	く の 4 日 先 の 精 度 を よ く し て ほ し い	を 力 に 関 す る 予 想 の 精 度 を よ く し て ほ し い	雨 量 や 風 の 強 さ 等 、 勢 力 に 関 す る 予 想 の 精 度 を よ く し て ほ し い	そ の 他	特 に 要 望 は な い
全 体		6,130	40.2	59.4	34.5	59.2	6.3	5.3		
台風予報の 利用頻度別	よく利用する	5,836	40.3	60.2	35.1	59.6	6.4	4.8		
	あまり利用しない	294	37.4	42.5	21.8	51.7	3.4	15.3		

HP調査では、「2日先・3日先の台風の進路予想の精度をよくしてほしい」(59.4%)、「雨量や風の強さ等、勢力に関する予想の精度をよくしてほしい」(59.2%)との回答が6割弱、「1日先の台風の進路予想の精度をよくしてほしい」(40.2%)がおよそ4割となっている。

台風予報の利用頻度別にみると、いずれの要望も、よく利用する人のほうがあまり利用しない人よりも高い。

2. 天気分布予報・降水短時間予報・降水ナウキャストについて

(1) 天気分布予報の利用の有無

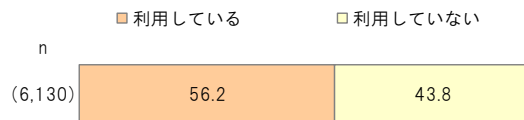
問2 - 1 あなたは、天気分布予報を利用していますか。

【住民調査】



天気分布予報の利用について、住民調査では「利用している」(32.7%)との回答は3割強となっている。

【HP調査】

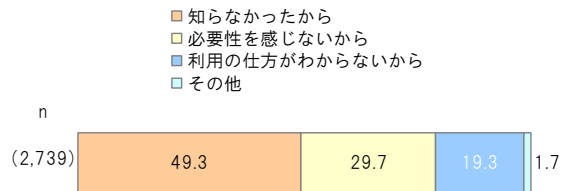


HP調査では「利用している」(56.2%)との回答は5割台半ばを占める。

(2) 天気分布予報を利用していない理由

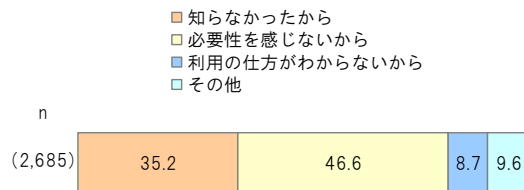
問2 - 2 あなたが天気分布予報を利用していない理由は何ですか。

【住民調査】



天気分布予報を利用していない理由について、住民調査では「知らなかったから」(49.3%)との回答が最も高く5割弱、次いで「必要性を感じないから」(29.7%)が3割弱となっている。

【HP調査】

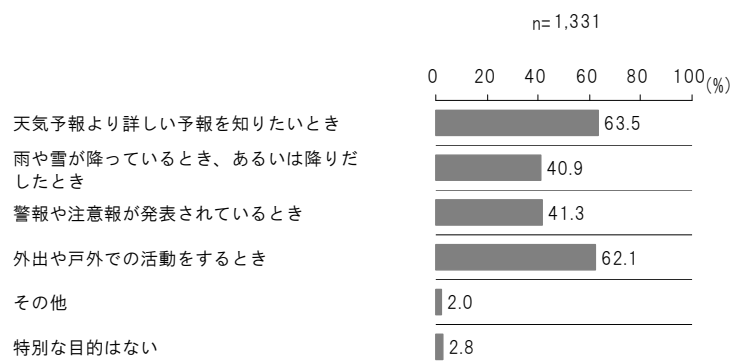


天気分布予報を利用していない理由について、HP調査では「必要性を感じないから」(46.6%)との回答が最も高く4割台半ば、次いで「知らなかったから」(35.2%)が3割台半ばとなっている。

(3) 天気分布予報の利用目的

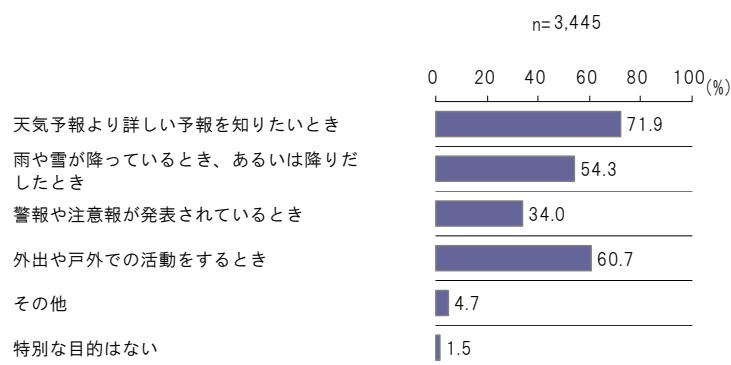
問2 - 3 あなたは、天気分布予報をどのようなときに利用していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】



天気分布予報を利用する目的について、住民調査では「天気予報より詳しい予報を知りたいとき」(63.5%)、「外出や戸外での活動をするとき」(62.1%)が6割台、「警報や注意報が発表されているとき」(41.3%)、「雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき」(40.9%)が4割台と高くなっている。

【HP調査】

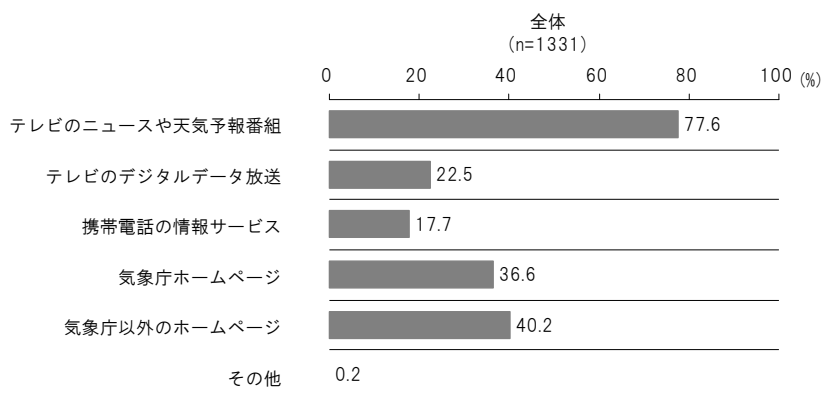


HP調査では、「天気予報より詳しい予報を知りたいとき」(71.9%)との回答が最も高く7割強、次いで「外出や戸外での活動をするとき」(60.7%)がおおよそ6割、「雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき」(54.3%)が5割台半ばとなっている。

(4) 天気分布予報の入手先

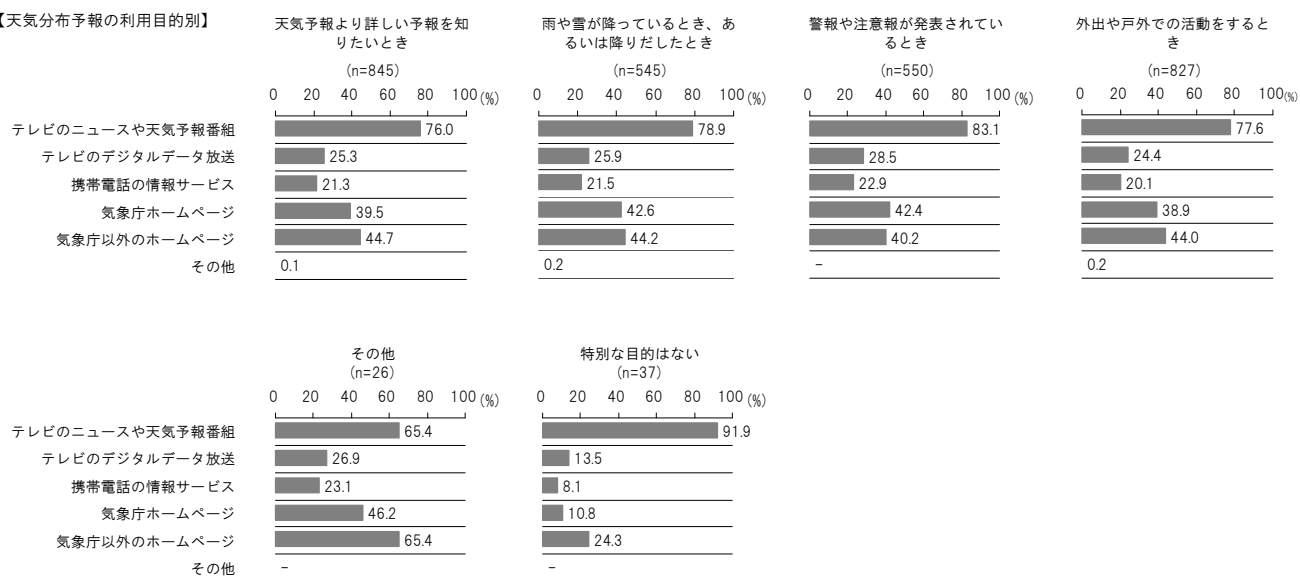
問2 - 4 あなたは、天気分布予報を何から入手していますか。利用しているものをすべて選んでください。

【住民調査】



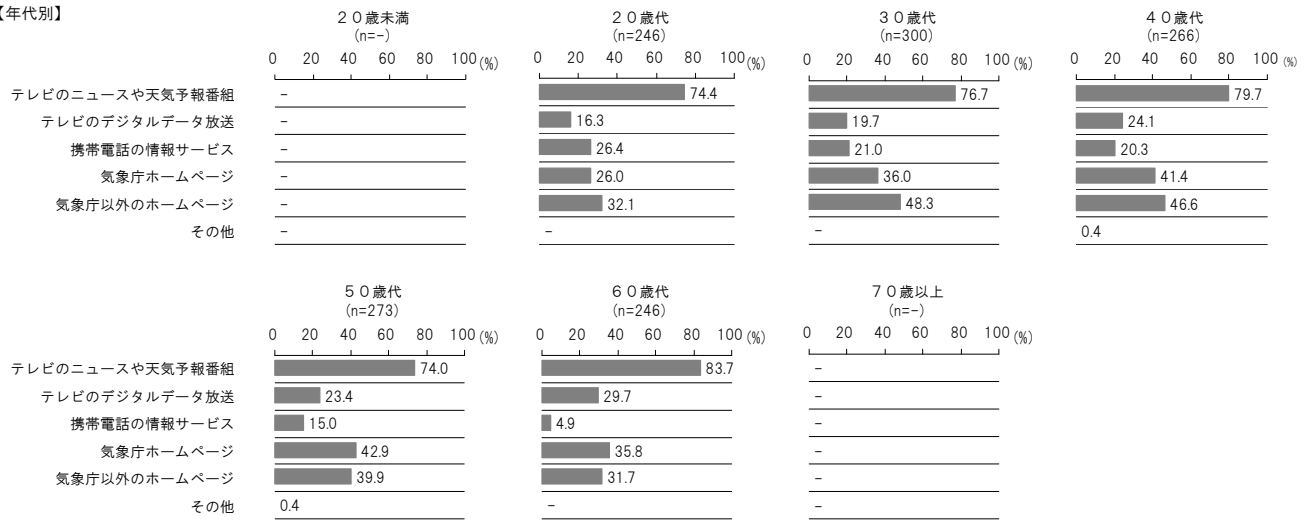
天気分布予報の入手媒体について、住民調査では、「テレビのニュースや天気予報番組」(77.6%)との回答が最も高く8割弱、次いで「気象庁以外のホームページ」(40.2%)がおよそ4割、「気象庁ホームページ」(36.6%)が3割台半ばとなっている。

【天気分布予報の利用目的別】



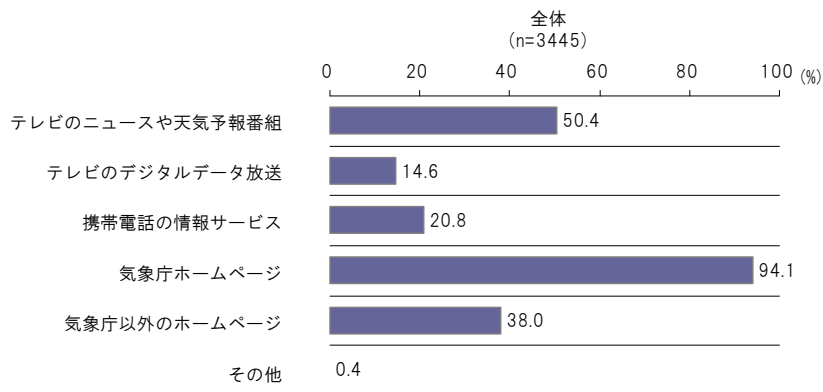
天気分布予報の利用目的別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」、「気象庁ホームページ」とともに、警報や注意報が発表されているときで高くなっている。

【年代別】



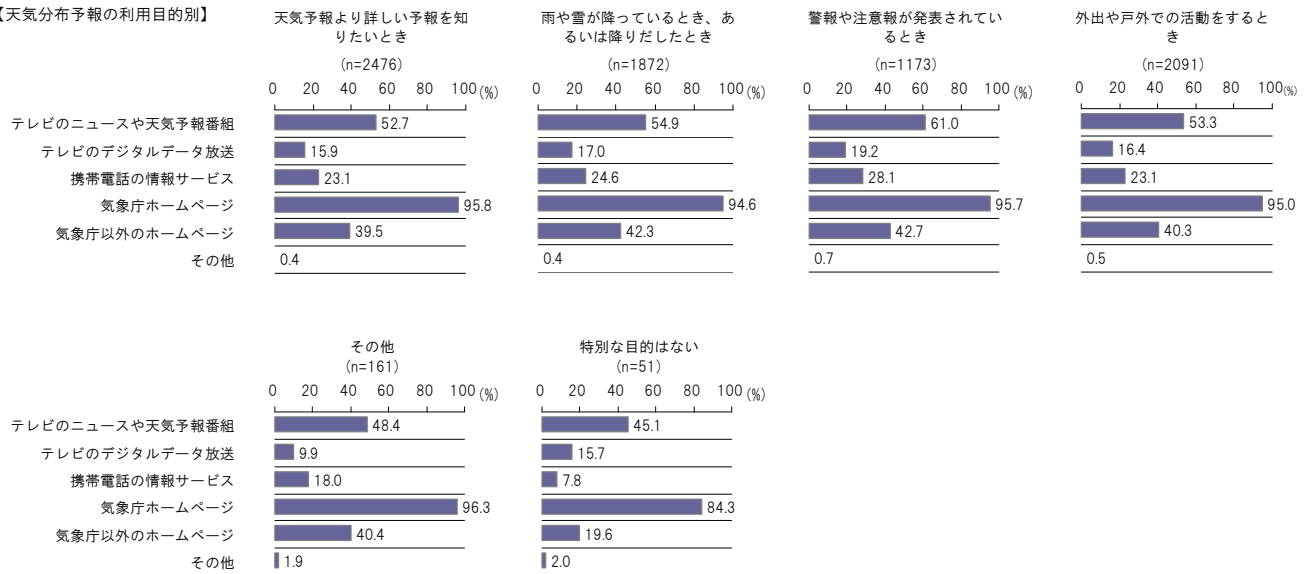
年代別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は60歳代、「気象庁以外のホームページ」は30歳代、40歳代、「気象庁ホームページ」は50歳代で高くなっている。

【HP調査】



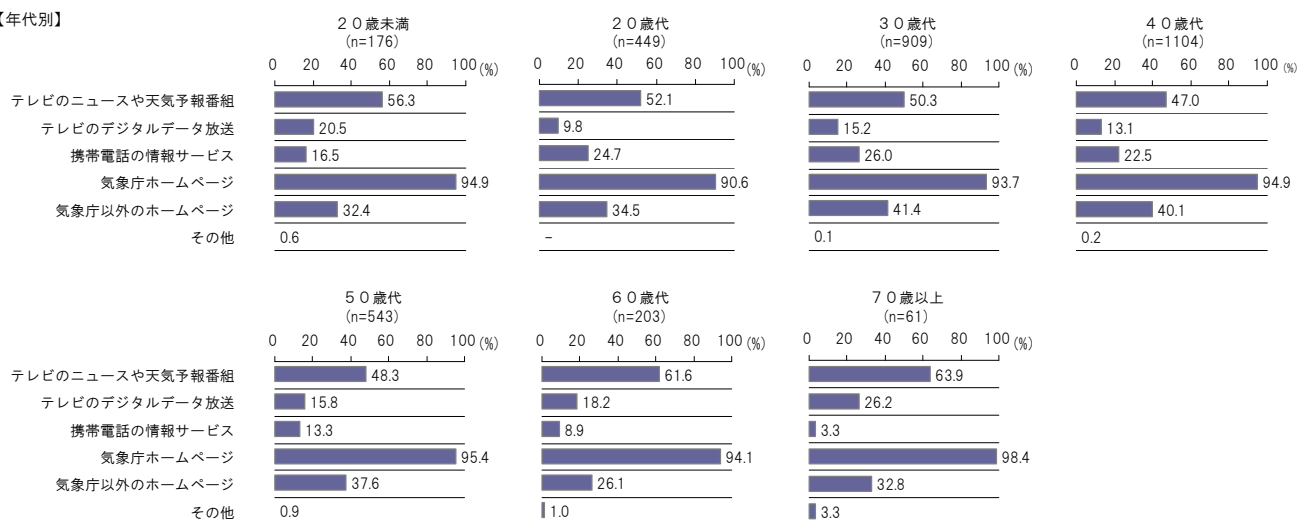
HP調査では、「気象庁ホームページ」(94.1%)との回答が最も高く9割台半ば、次いで「テレビのニュースや天気予報番組」(50.4%)がおおよそ5割となっている。

【天気分布予報の利用目的別】



天気分布予報の利用目的別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は警報や注意報が発表されているときで高くなっている。

【年代別】



年代別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は20歳未満と60歳代、70歳以上で高い。

(5) 天気分布予報についての不満点

問2 - 5 天気分布予報について、不満に感じることがありましたら、あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】

		n	る予報が外れることがある	る前発表のたびに、予報と異なる	報20km四方単位の予報では粗すぎる	か目的にの場い所がどこかわ	が1日3回では発表回数	予報時間が短い	その他	特に不満はない
全体		1,331	40.5	20.1	17.4	27.5	35.6	9.8	1.3	20.6
の天気	天気予報より詳しい予報を知りたいとき	845	43.7	23.7	19.5	30.3	41.2	12.1	1.1	16.2
用分布	雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき	545	44.6	26.1	21.7	32.3	44.4	13.9	1.5	16.5
目的予報	警報や注意報が発表されているとき	550	41.3	23.5	21.1	34.2	41.5	14.7	1.5	18.0
別報	外出や戸外での活動をするとき	827	43.0	21.0	20.0	29.5	39.4	11.9	1.3	19.5
	その他	26	26.9	11.5	19.2	30.8	26.9	11.5	-	38.5
	特別な目的はない	37	35.1	5.4	10.8	27.0	10.8	2.7	2.7	48.6

天気分布予報に関する不満について、住民調査では、「予報が外れることがある」(40.5%)との回答が最も高くおよそ4割、次いで「1日3回では発表回数が少ない」(35.6%)が3割台半ばとなっている。

天気分布予報の利用場面別にみると、「1日3回では発表回数が少ない」は、雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき(44.4%)、警報や注意報が発表されているとき(41.5%)で高い。

【HP調査】

		n	る予報が外れることがある	る前発表のたびに、予報と異なる	報20km四方単位の予報では粗すぎる	か目的にの場い所がどこかわ	が1日3回では発表回数	予報時間が短い	その他	特に不満はない
全体		3,445	29.5	15.2	41.0	27.8	51.9	17.9	3.5	13.3
の天気	天気予報より詳しい予報を知りたいとき	2,476	31.9	16.6	42.1	28.5	53.6	19.5	3.6	12.4
用分布	雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき	1,872	32.2	17.0	43.6	30.8	57.5	20.6	3.7	11.2
目的予報	警報や注意報が発表されているとき	1,173	31.6	17.9	39.3	31.8	58.9	19.9	3.3	12.1
別報	外出や戸外での活動をするとき	2,091	29.7	16.0	41.6	28.9	55.4	20.2	3.4	12.7
	その他	161	23.6	13.0	35.4	21.7	44.7	19.9	16.8	16.1
	特別な目的はない	51	21.6	15.7	45.1	25.5	35.3	11.8	3.9	21.6

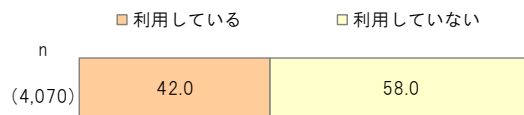
HP調査では、「1日3回では発表回数が少ない」(51.9%)との回答が最も高くおよそ5割強、次いで「20km四方単位の予報では粗すぎる」(41.0%)が4割強となっている。

天気分布予報の利用場面別にみると、「1日3回では発表回数が少ない」は警報や注意報が発表されているとき(58.9%)、雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき(57.5%)で高くなっている。

(6) 降水ナウキャスト、降水短時間予報の利用の有無

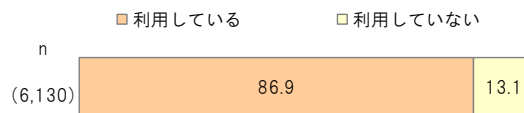
問2-6 あなたは、降水ナウキャストまたは降水短時間予報を利用していますか。

【住民調査】



降水ナウキャスト・降水短時間予報の利用について、住民調査では「利用している」(42.0%)との回答が4割強となっている。

【HP調査】

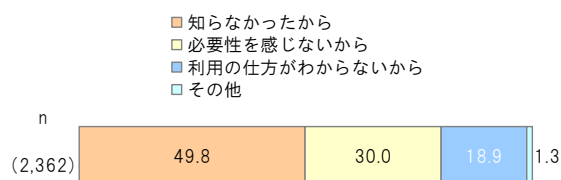


HP調査では「利用している」(86.9%)との回答が9割弱を占める。

(7) 降水ナウキャスト等を利用していない理由

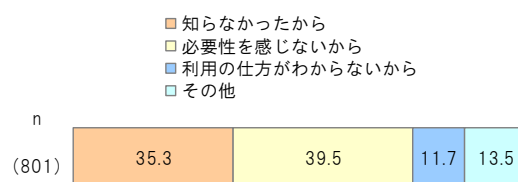
問2-7 あなたが降水ナウキャストまたは降水短時間予報を利用していない理由は何ですか。

【住民調査】



降水ナウキャスト・降水短時間予報を利用していない理由について、住民調査では「知らなかったから」(49.8%)との回答が最も高く5割弱、次いで「必要性を感じないから」(30.0%)が3割となっている。

【HP調査】

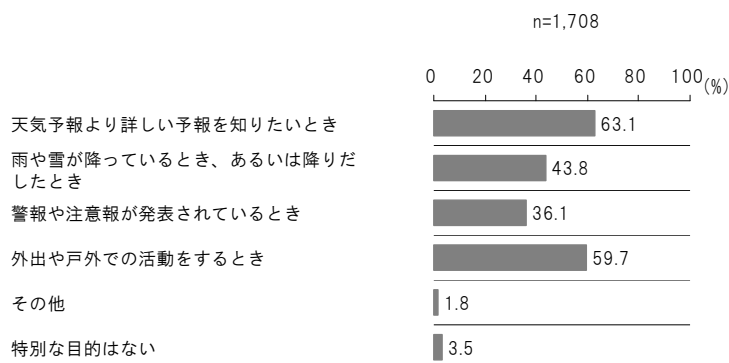


HP調査では「必要性を感じないから」(39.5%)との回答が4割弱、「知らなかったから」(35.3%)が3割台半ばを占め拮抗している。

(8) 降水ナウキャスト等の利用場面

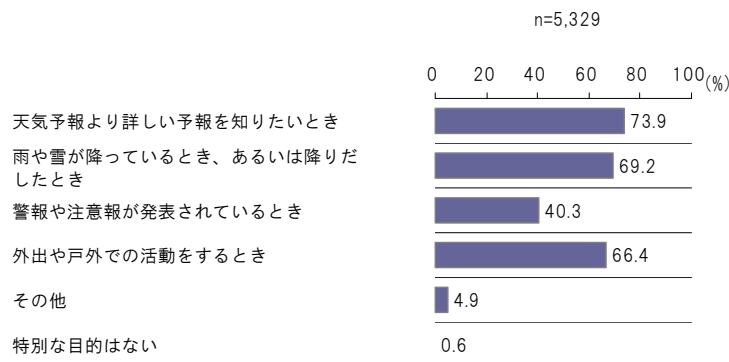
問2 - 8 あなたは、降水ナウキャストまたは降水短時間予報をどのようなときに利用していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】



降水ナウキャスト・降水短時間予報の利用状況について、住民調査では「天気予報より詳しい予報を知りたいとき」(63.1%)との回答が最も高く6割台半ばを占め、次いで「外出や戸外での活動をするとき」(59.7%)が6割弱、「雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき」(43.8%)が4割台半ばとなっている。

【HP調査】

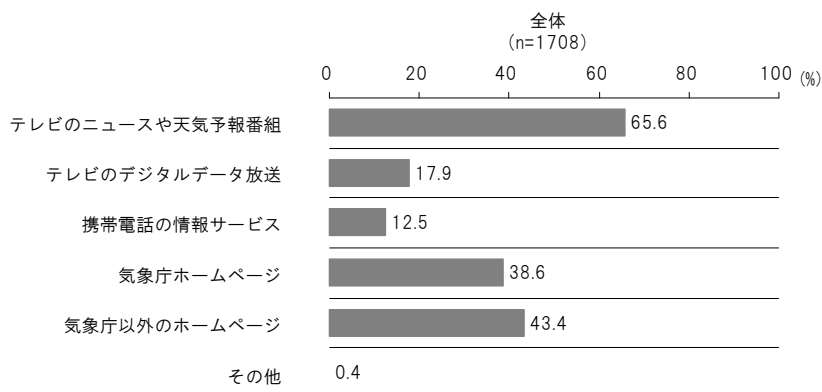


HP調査では、「天気予報より詳しい予報を知りたいとき」(73.9%)との回答が最も高く7割台半ばを占め、次いで「雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき」(69.2%)が7割弱、「外出や戸外での活動をするとき」(66.4%)が6割台半ばとなっている。

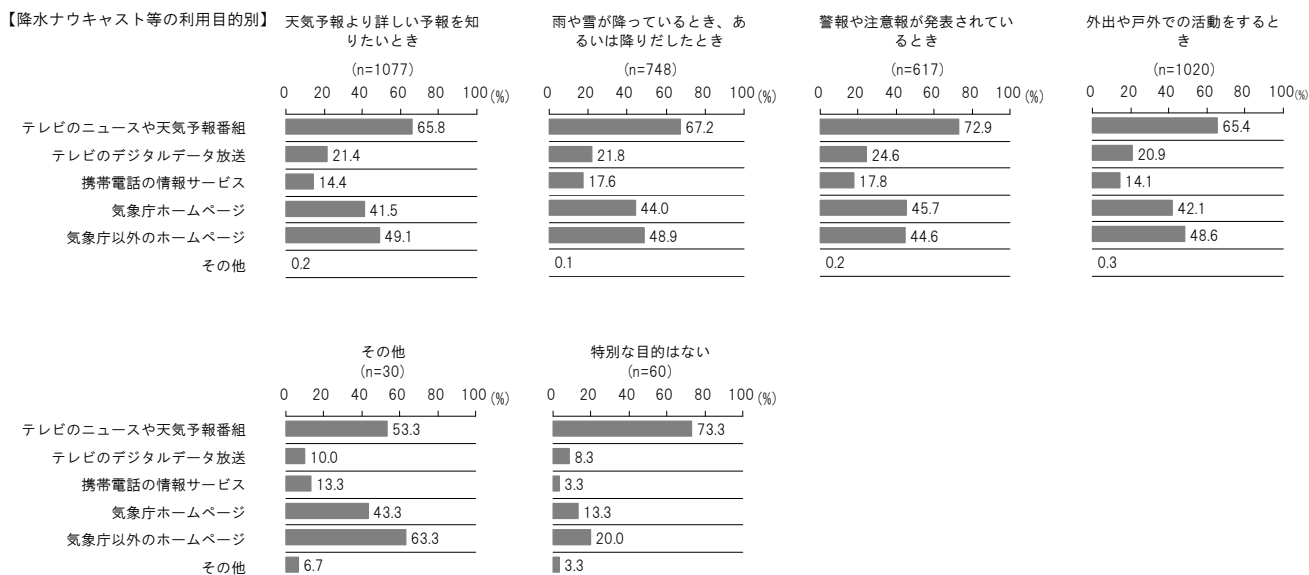
(9) 降水ナウキャスト等の入手先

問2 - 9 あなたは、降水ナウキャストまたは降水短時間予報を何から入手していますか。利用しているものをすべて選んでください。

【住民調査】

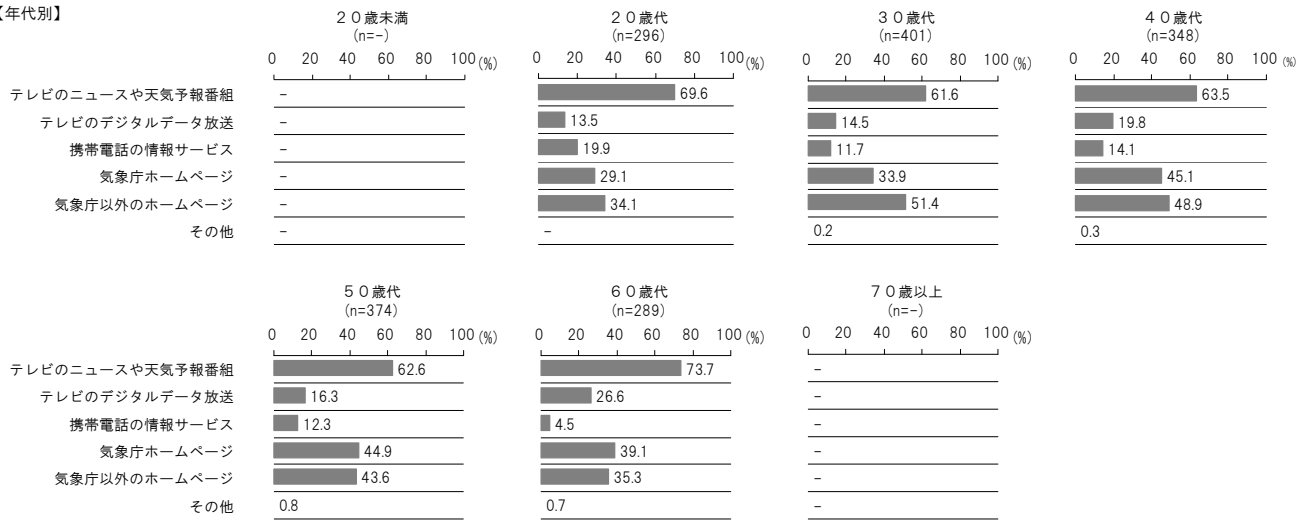


降水ナウキャスト、降水短時間予報の入手媒体について、住民調査では、「テレビのニュースや天気予報番組」(65.6%)との回答が最も高く6割台半ば、次いで「気象庁以外のホームページ」(43.4%)が4割台半ば、「気象庁ホームページ」(38.6%)が4割弱となっている。



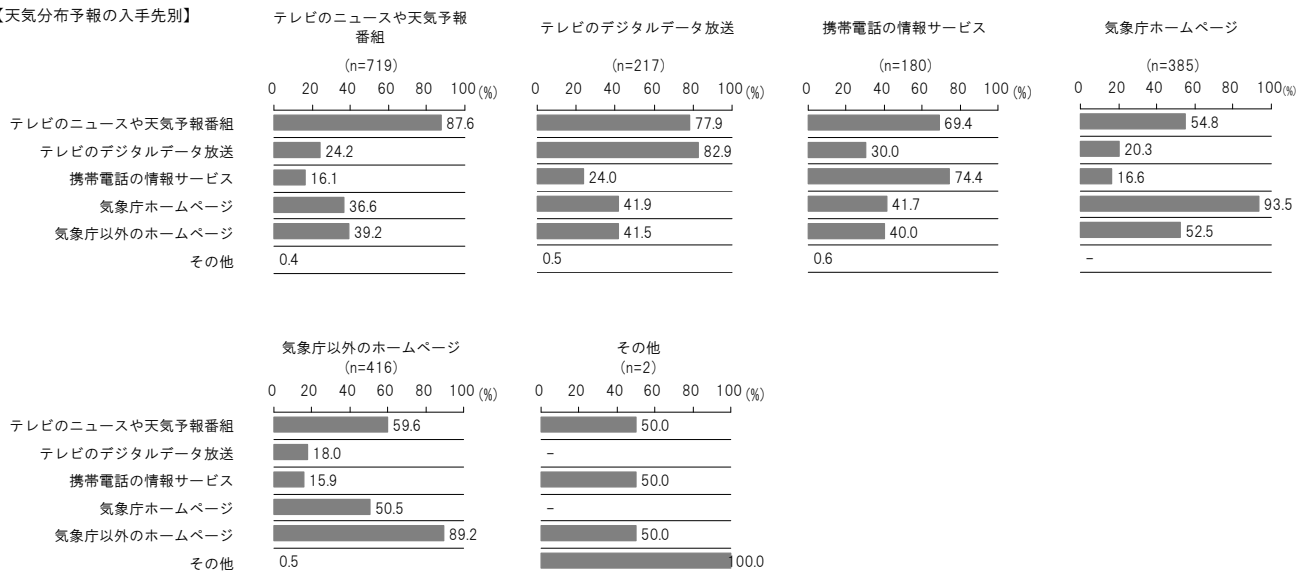
降水ナウキャスト等の利用目的別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は警報や注意報が発表されているとき(72.9%)で高くなっている。「気象庁以外のホームページ」、「気象庁ホームページ」はいずれの選択肢でもおおむね高くなっている。

【年代別】



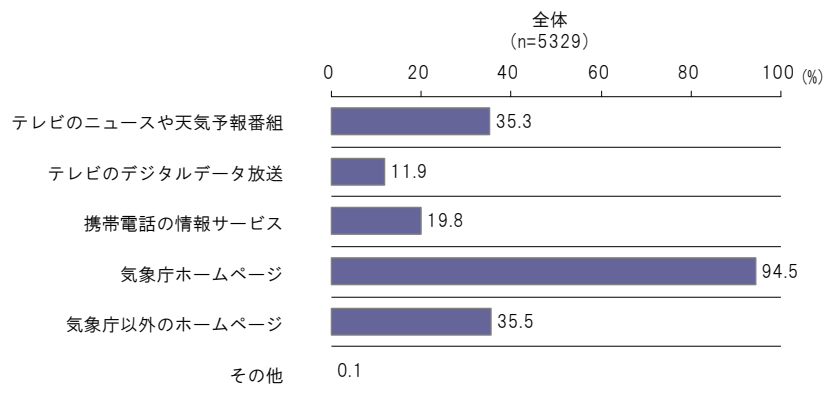
年代別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は60歳代（73.7%）、「気象庁以外のホームページ」は30歳代（48.9%）、「気象庁ホームページ」は40歳代（45.1%）、50歳代（44.9%）で高くなっている。

【天気分布予報の入手先別】

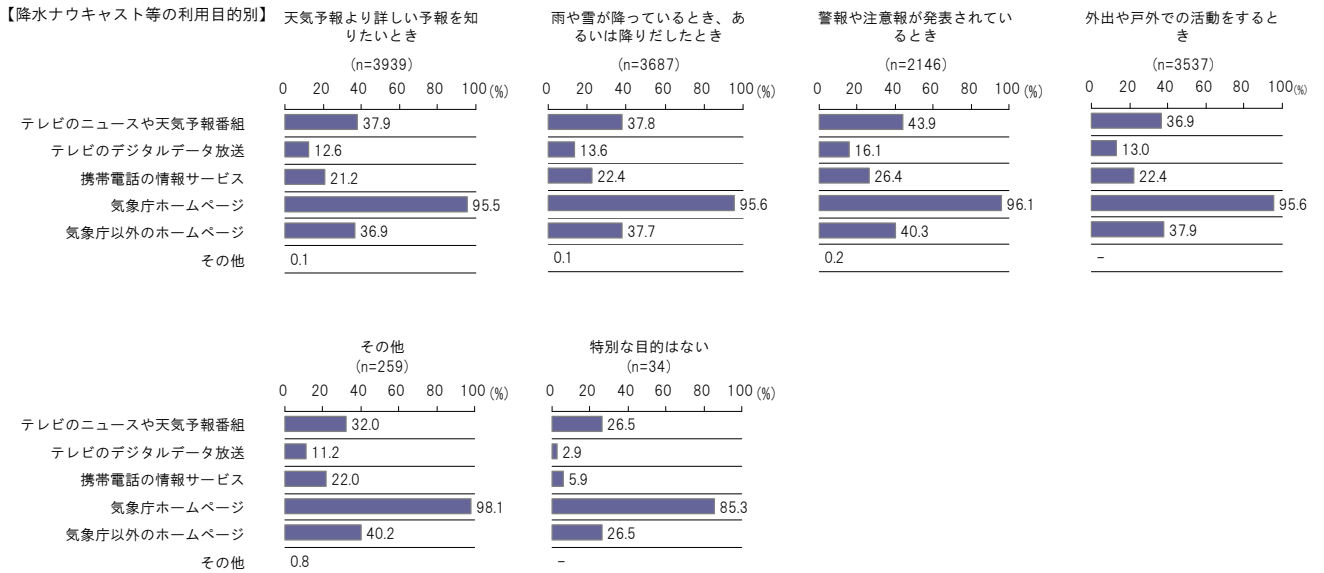


天気分布予報の入手先別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は、テレビのニュースや天気予報番組（87.6%）、テレビのデジタルデータ放送（77.9%）で高くなっている。「気象庁以外のホームページ」は、気象庁以外のホームページ（89.2%）、気象庁ホームページ（52.5%）で高くなっている。「気象庁ホームページ」では、気象庁ホームページ（93.5%）、気象庁以外のホームページ（50.5%）で高くなっている。

【HP 調査】

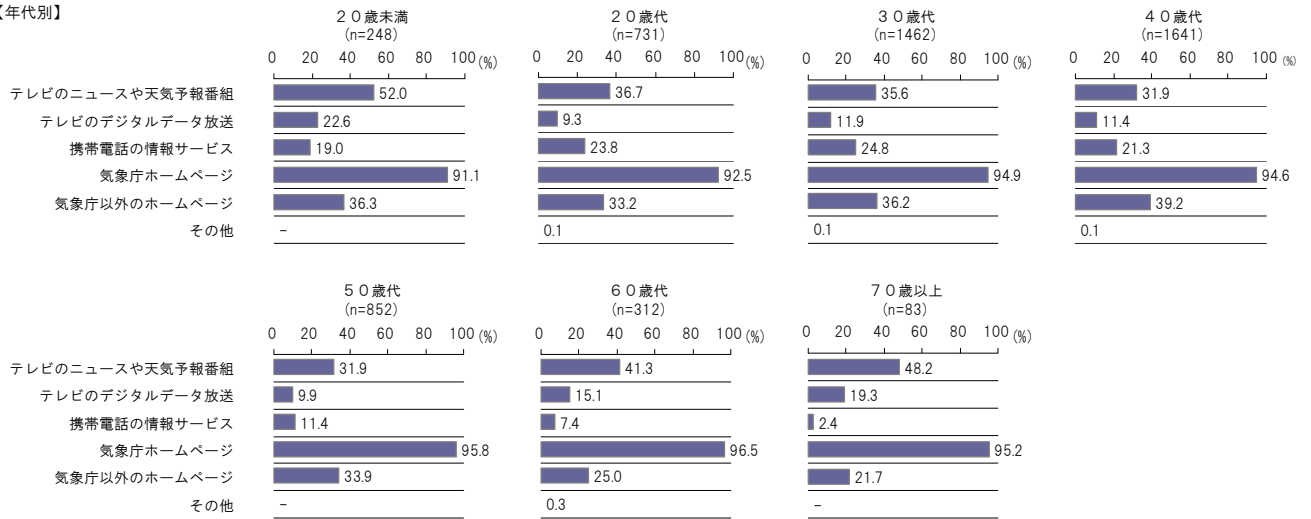


HP 調査では、「気象庁ホームページ」(94.5%)との回答が最も高く9割台半ば、次いで「気象庁以外のホームページ」(35.5%)、「テレビのニュースや天気予報番組」(35.3%)が3割台半ばとなっている。



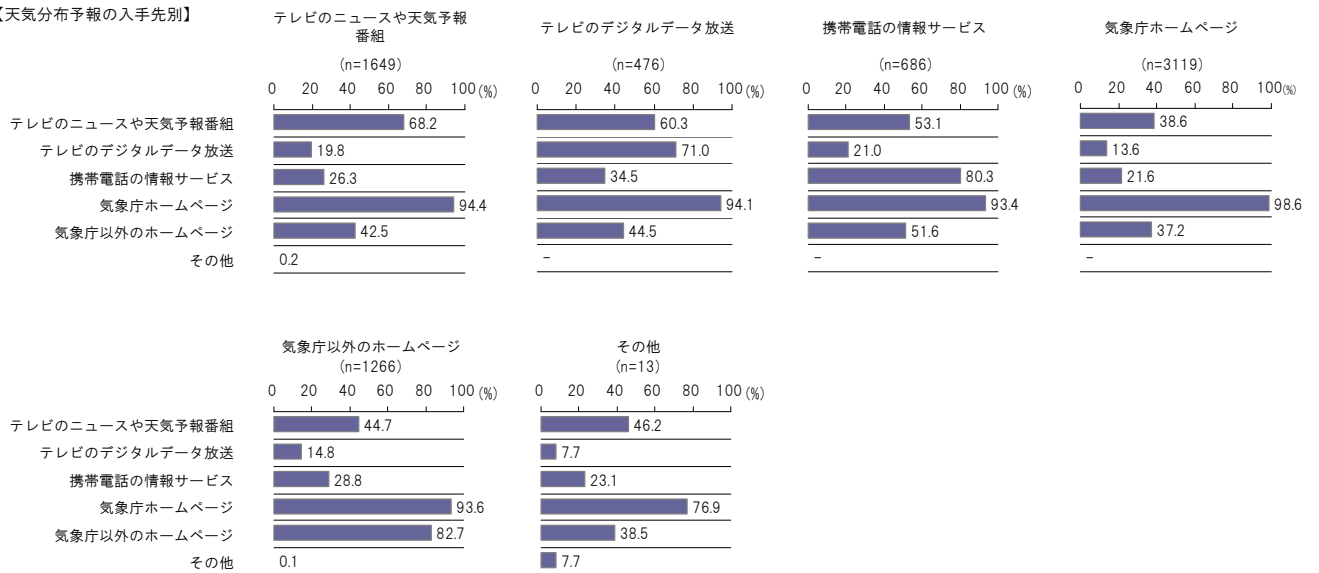
降水ナウキャストの利用目的別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は警報や注意報が発表されているとき(43.9%)で高くなっている。

【年代別】



年代別にみると、「テレビのニュースや天気予報番組」は20歳未満(52.0%)、60歳代(41.3%)、70歳代(48.2%)で高くなっている。

【天気分布予報の入手先別】



天気分布予報の入手先別にみると、「気象庁ホームページ」、「気象庁以外のホームページ」、「テレビのニュースや天気予報番組」は、いずれの選択肢でもおおむね高くなっている。

(10) 降水ナウキャスト等についての不満点

問2 - 10 降水ナウキャストまたは降水短時間予報について、不満に感じるがありましたら、
あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】

		(%)								
	n	予報が外れることがある	前発表のたびに、予報と異なる	1km四方単位の予報で、細かい予報	目的の場所がどこかわかりにくい	毎30分毎または10分毎の予報が短すぎる	その他	特に不満はない		
全体		1,708	31.0	13.7	4.0	25.8	5.6	11.9	0.9	39.9
降水ナウキャスト等の利用目的別	天気予報より詳しい予報を知りたいとき	1,077	35.5	15.4	5.5	28.0	6.9	15.0	0.8	34.2
	雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき	748	34.1	18.4	5.5	31.0	7.8	13.8	1.2	35.6
	警報や注意報が発表されているとき	617	34.4	17.0	6.2	32.6	8.4	12.2	1.0	37.3
	外出や戸外での活動をするとき	1,020	31.2	13.3	4.6	27.8	5.6	13.2	0.8	41.1
	その他	30	30.0	13.3	3.3	30.0	3.3	6.7	3.3	40.0
特別な目的はない	60	21.7	6.7	-	18.3	1.7	5.0	-	60.0	

降水ナウキャスト、降水短時間予報への不満について、住民調査では「予報が外れることがある」(31.0%)との回答が高く3割強、次いで「目的の場所がどこかわかりにくい」(25.8%)が2割台半ばとなっている。

降水ナウキャストの等の利用目的別にみると、「目的の場所がどこかわかりにくい」は警報や注意報が発表されているとき(32.6%)、雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき(31.0%)で高くなっている。

【HP調査】

		(%)								
	n	予報が外れることがある	前発表のたびに、予報と異なる	1km四方単位の予報で、細かい予報	目的の場所がどこかわかりにくい	毎30分毎または10分毎の予報が短すぎる	その他	特に不満はない		
全体		5,329	28.0	11.5	4.2	24.4	4.0	27.7	4.6	34.3
降水ナウキャスト等の利用目的別	天気予報より詳しい予報を知りたいとき	3,939	30.3	12.5	4.4	24.5	4.1	29.5	4.9	33.2
	雨や雪が降っているとき、あるいは降りだしたとき	3,687	30.4	13.3	4.7	25.5	4.6	28.6	5.0	32.3
	警報や注意報が発表されているとき	2,146	28.2	14.3	5.6	27.4	4.3	27.3	5.3	34.2
	外出や戸外での活動をするとき	3,537	28.6	12.2	4.2	25.2	4.1	29.6	4.9	33.0
	その他	259	28.2	8.1	5.4	23.6	2.7	25.9	20.5	32.0
特別な目的はない	34	23.5	11.8	2.9	23.5	2.9	20.6	-	50.0	

HP調査では「予報が外れることがある」(28.0%)、「予報時間が短すぎる」(27.7%)がともに3割弱、「目的の場所がどこかわかりにくい」(24.4%)が2割台半ばで高い。

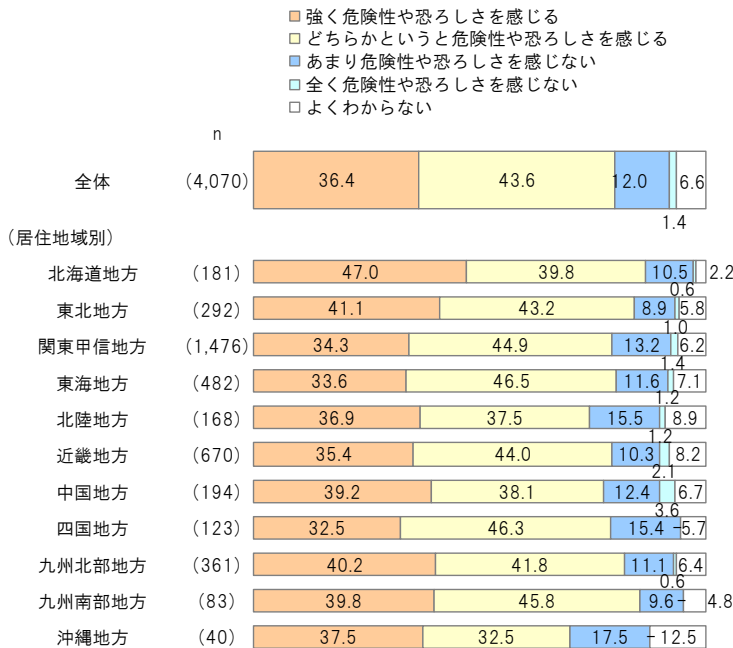
降水ナウキャストの等の利用目的別にみると、全体と同様の傾向にある。

3. 竜巻注意情報について

(1) 竜巻の危険性や恐ろしさについて

問3 - 1 近年、竜巻の発生や被害が報道されることが多くなっています。あなたは竜巻の危険性や恐ろしさについてどのように感じていますか。

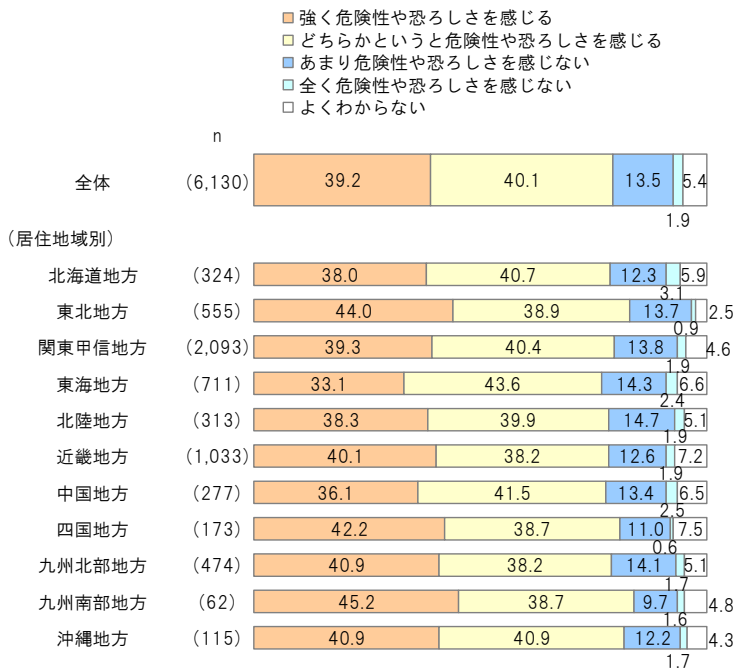
【住民調査】



竜巻の危険性や恐ろしさについて、住民調査では、「強く危険性や恐ろしさを感じる」(36.4%)と「どちらかという危険性や恐ろしさを感じる」(43.6%)を合わせた『危険性や恐ろしさを感じている(計)』(80.0%)が8割を占める。

居住地域別にみると、『危険性や恐ろしさを感じている(計)』は北海道地方(86.8%)、九州南部地方(85.6%)で8割台半ばを占め高くなっている。

【HP調査】



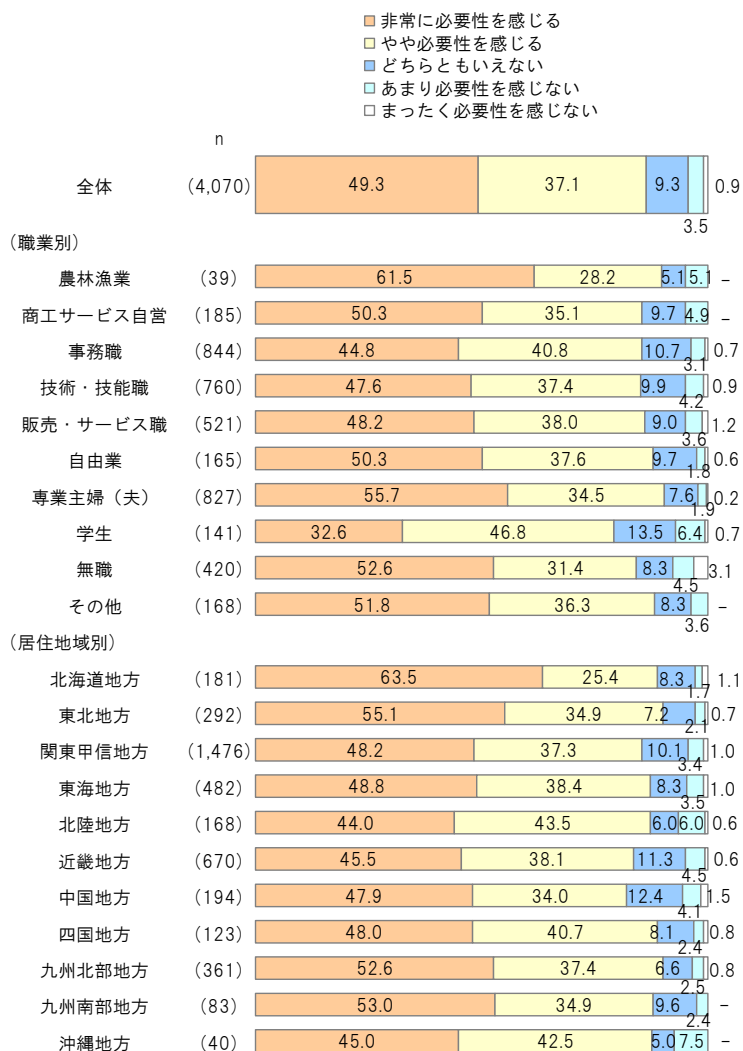
HP調査では、「強く危険性や恐ろしさを感じる」(39.2%)と「どちらかという危険性や恐ろしさを感じている」(40.1%)を合わせた『恐ろしさを感じている(計)』(79.3%)が8割弱を占める。

居住地域別にみると、『恐ろしさを感じている(計)』は全体と同様の傾向にあるが、「強く危険性や恐ろしさを感じる」は九州南部地方(45.2%)で高くなっている。

(2) 竜巻発生の情報の必要性

問3 - 2 あなたは竜巻発生のおそれがあることを知らせる情報の必要性を感じますか

【住民調査】

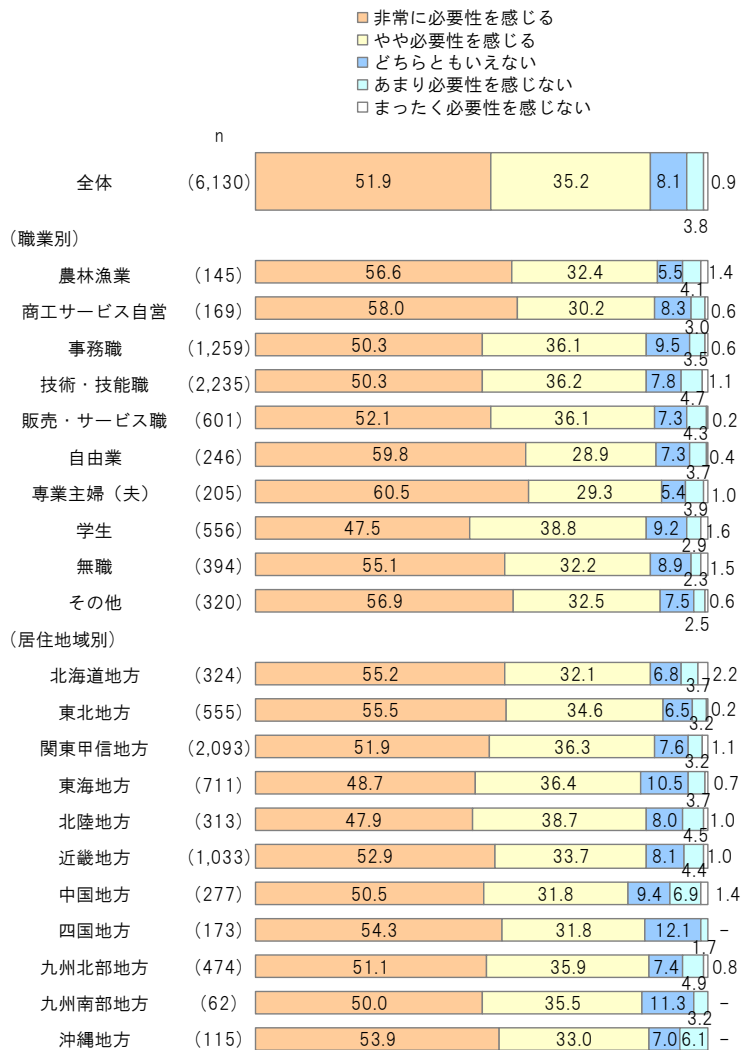


竜巻発生情報の必要性について、住民調査では、「非常に必要性を感じる」(49.3%)と「やや必要性を感じる」(37.1%)を合わせた『必要性を感じる(計)』(86.4%)が8割台半ばを占める。

職業別にみると、『必要性を感じる(計)』は全体と同様の傾向にあるが、「非常に必要性を感じる」については、農林漁業(61.5%)、専業主婦(夫)(55.7%)で高くなっている。

居住地域別にみると『必要性を感じる(計)』は全体と同様の傾向にあるが、「非常に必要性を感じる」は北海道地方(63.5%)、東北地方(55.1%)で高くなっている。

【HP 調査】



HP 調査では、「非常に必要性を感じる」(51.9%)と「やや必要性を感じる」(35.2%)を合わせた『必要性を感じる(計)』(87.1%)は9割弱を占める。

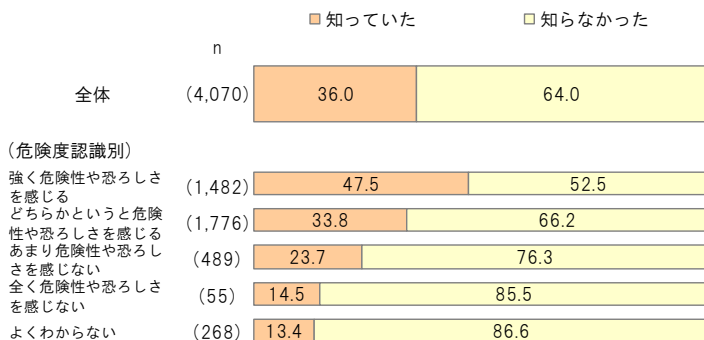
職業別にみると、『必要性を感じる(計)』は全体と同様の傾向にあるが、「非常に必要性を感じる」は、専業主婦(夫)(60.5%)、自由業(59.8%)、商工サービス自営(58.0%)で高くなっている。

居住地域別にみると、全体と同様の傾向にあり、地域間で大きな差はみられない。

(3) 雷注意報発表時の竜巻発生注意の呼びかけの認知

問3 - 3 気象台が雷注意報を発表した場合、落雷やひょう、急な強い雨に加えて、竜巻が発生する可能性に注意をよびかけています。あなたはこのことを知っていましたか。

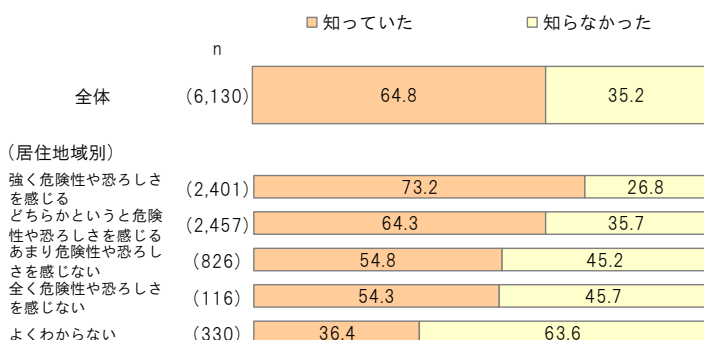
【住民調査】



雷注意報発表時の竜巻発生注意の呼びかけについて、住民調査では、「知っていた」(36.0%)との回答が3割台半ばとなっている。

危険度認識別にみると、竜巻の危険性や恐ろしさを強く感じている人ほど、気象台による竜巻発生注意の呼びかけの認知度が高まる傾向にある。

【HP調査】



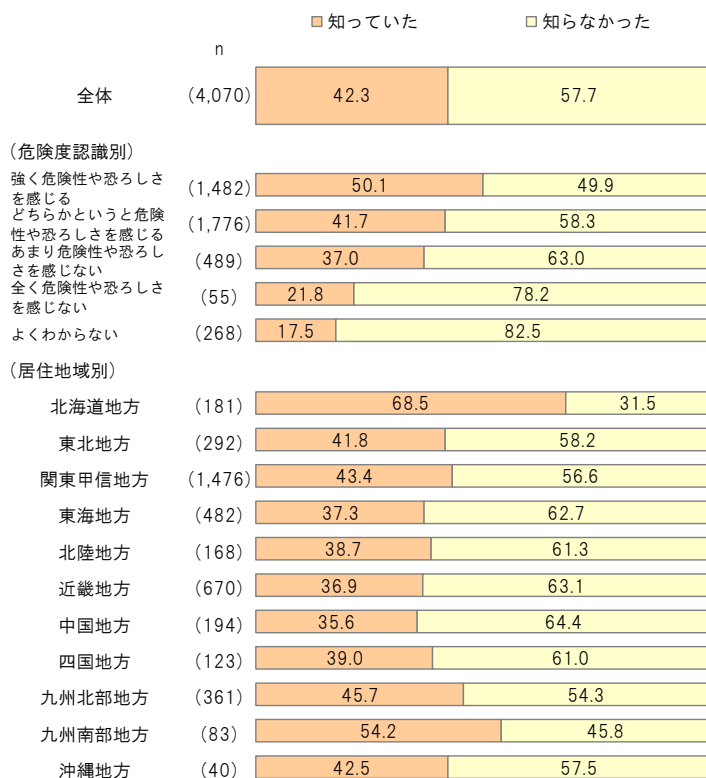
HP調査では、「知っていた」(64.8%)との回答が6割台半ばとなっている。

危険度認識別にみると、竜巻の危険性や恐ろしさを強く感じている人ほど、気象台による竜巻発生注意の呼びかけの認知度が高まる傾向にある。

(4) 気象台の竜巻注意情報発表の認知

問3 - 4 あなたは、気象台が竜巻注意情報を発表していることを知っていましたか。

【住民調査】

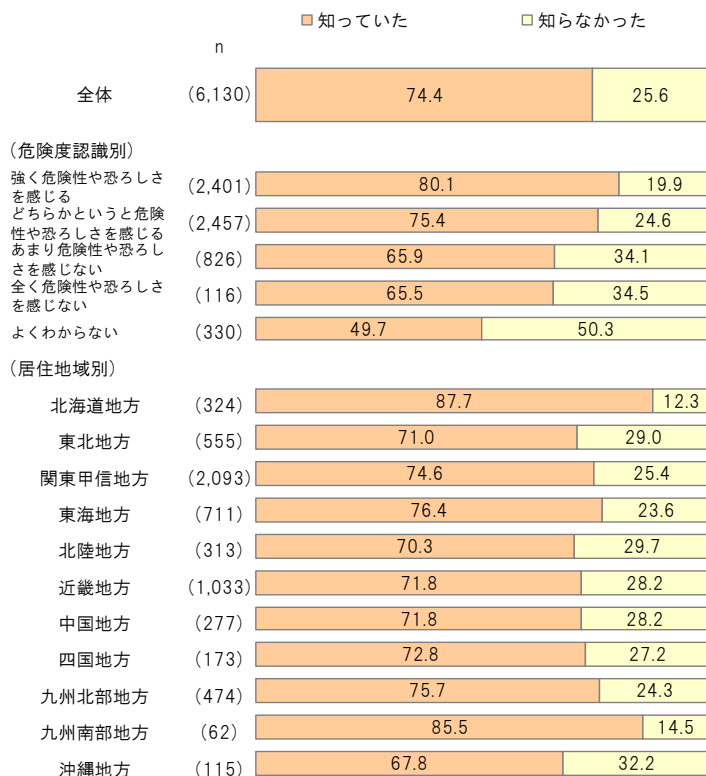


気象台が竜巻注意情報を発表していることについて、住民調査では「知っていた」(42.3%)との回答が4割強となっている。

危険度認識別にみると、竜巻の危険性や恐ろしさを強く感じている人ほど、気象台による竜巻発生注意の呼びかけの認知度が高まる傾向にある。

居住地域別にみると、「知っていた」との回答は北海道地方(68.5%)で特に高く7割弱を占め認知度が高い。また、九州南部地方(54.2%)でも5割台半ばと高くなっている。

【HP調査】



HP調査では「知っていた」(74.4%)との回答が7割台半ばとなっている。

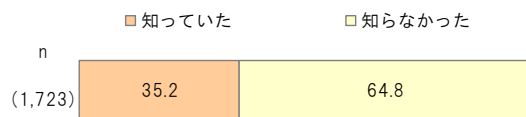
危険度認識別にみると、竜巻の危険性や恐ろしさを強く感じている人ほど、気象台による竜巻発生注意の呼びかけの認知度が高まる傾向にあり、竜巻に対して強く危険性や恐ろしさを感じる人では「知っていた」が8割に達している。

居住地域別にみると、「知っていた」との回答は北海道地方(87.7%)で9割弱、九州南部地方(85.5%)で8割台半ばを占め認知度が高い。

(5) 竜巻注意情報が発表される状況の認知

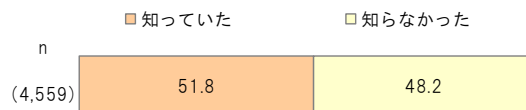
問3 - 5 竜巻注意情報は、雷注意報よりもさらに竜巻の危険性が高まったときに発表されます。あなたはこのことを知っていましたか

【住民調査】



竜巻注意情報が発表される状況について、住民調査では「知っていた」(35.2%)との回答が3割台半ばとなっている。

【HP調査】

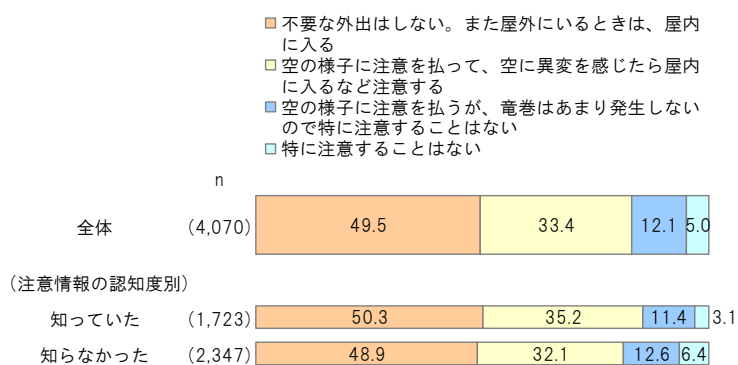


HP調査では「知っていた」(51.8%)との回答が5割強を占める。

(6) 竜巻注意情報発表時の行動

問3 - 6 気象台が竜巻注意情報を発表したとき、あなたはどのような行動をとろうと思いますか。

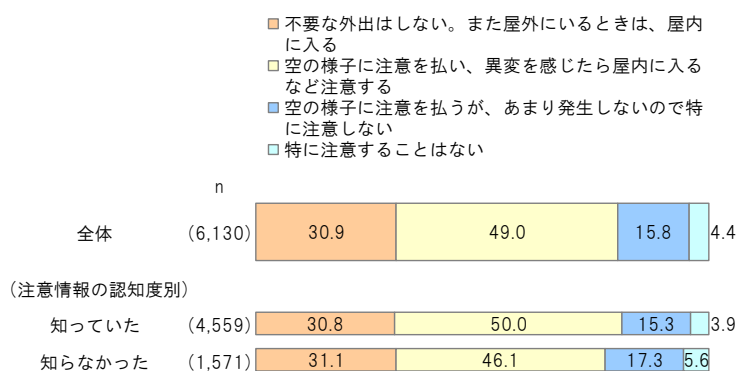
【住民調査】



竜巻注意情報を発表した際の行動について、住民調査では「不要な外出はしない。または屋外にいるときは、屋内に入る」(49.5%)との回答が最も高く5割弱、次いで「空の様子に注意を払って、空に異変を感じたら屋内に入るなど注意をする」(33.4%)が3割台半ばとなっている。

竜巻注意情報の認知度別にみると、全体と同様の傾向にある。

【HP調査】



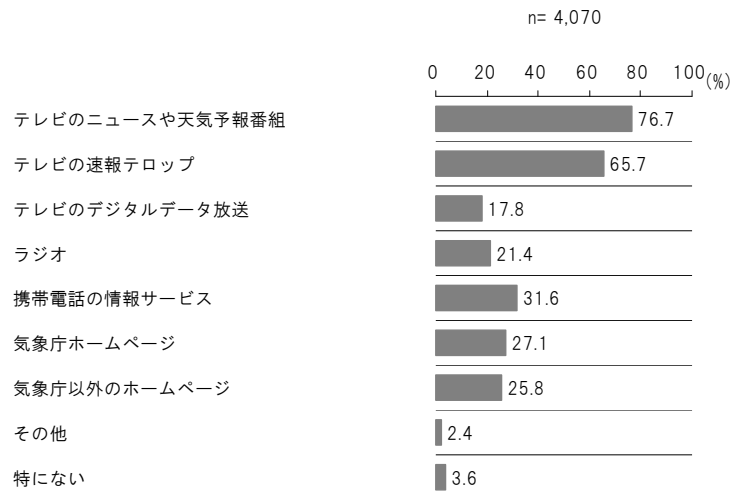
HP調査では、「空の様子に注意を払って、空に異変を感じたら屋内に入るなど注意をする」(49.0%)との回答が最も高く5割弱、次いで「不要な外出はしない。または屋外にいるときは、屋内に入る」(30.9%)が3割台半ばとなっている。

竜巻注意情報の認知度別にみると、全体と同様の傾向にある。

(7) 竜巻注意情報の入手希望先

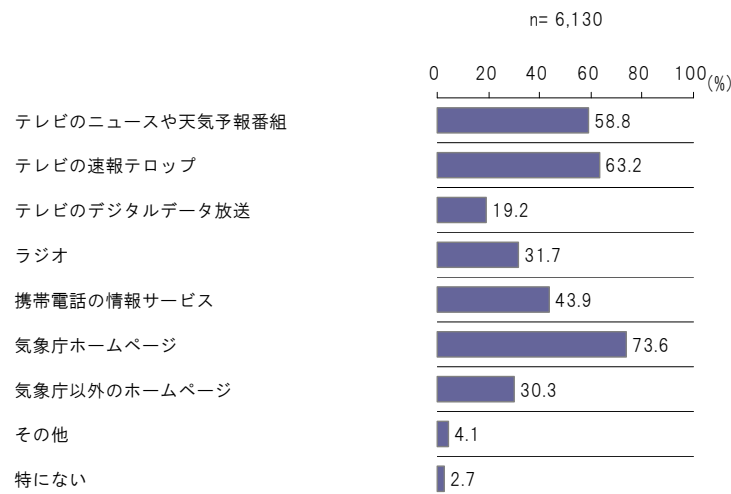
問3 - 7 あなたは、竜巻注意情報を何から入手したいですか。利用したい手段をすべて選んでください。

【住民調査】



竜巻注意情報の入手希望先について、住民調査では「テレビのニュースや天気予報番組」(76.7%)との回答が最も高く7割台半ば、次いで「テレビの速報テロップ」(65.7%)が6割台半ばとなっている。

【HP調査】

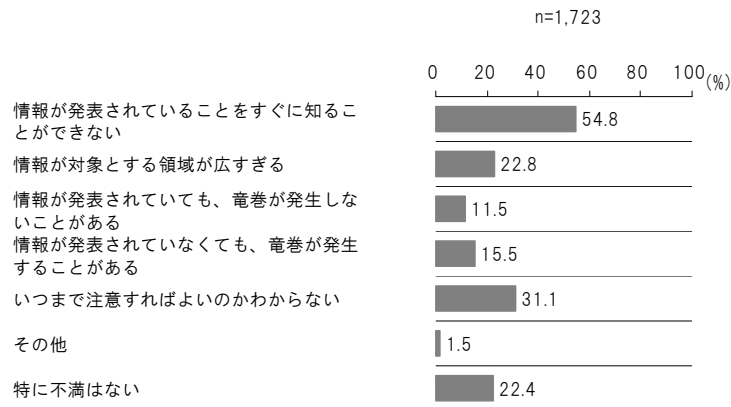


HP調査では、「気象庁ホームページ」(73.6%)との回答が最も高く7割台半ば、次いで「テレビの速報テロップ」(63.2%)が6割台半ば、「テレビのニュースや天気予報番組」(58.8%)が6割弱となっている。

(8) 竜巻注意情報についての不満点

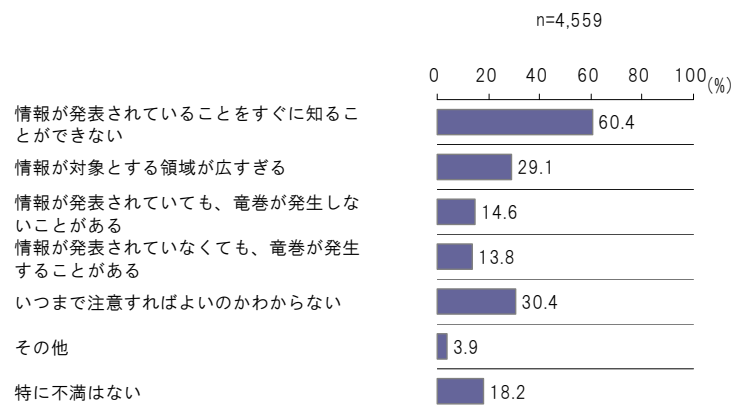
問3 - 8 竜巻注意情報について、不満に感じるがありましたら、あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】



竜巻注意情報に関する不満について、住民調査では「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」(54.8%)との回答が最も高く5割台半ば、次いで「いつまで注意すればよいのかわからない」(31.1%)が3割強となっている。

【HP 調査】



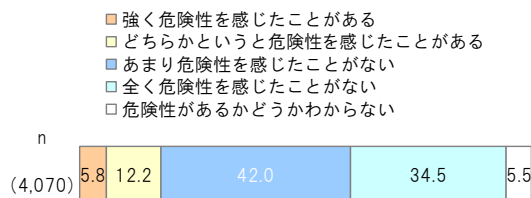
HP 調査では、「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」(60.4%)との回答が最も高くおよそ6割、次いで「いつまで注意すればよいのかわからない」(30.4%)、「情報が対象とする領域が広すぎる」(29.1%)がおよそ3割となっている。

4. 土砂災害警戒情報について

(1) 土砂災害の危険性を感じた経験

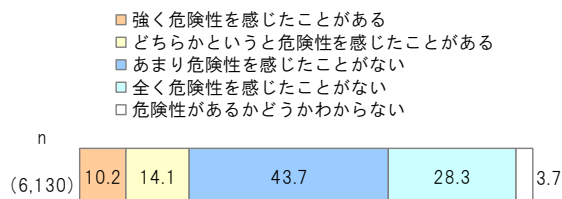
問4-1 あなたが住んでいる地域で、土砂災害の危険性を感じたことがありますか。

【住民調査】



土砂災害の危険性を感じた経験について、住民調査では「強く危険性を感じたことがある」(5.8%)と「どちらかという危険性を感じたことがある」(12.2%)を合わせた『危険性を感じたことがある(計)』(18.0%)は2割弱となっている。

【HP調査】

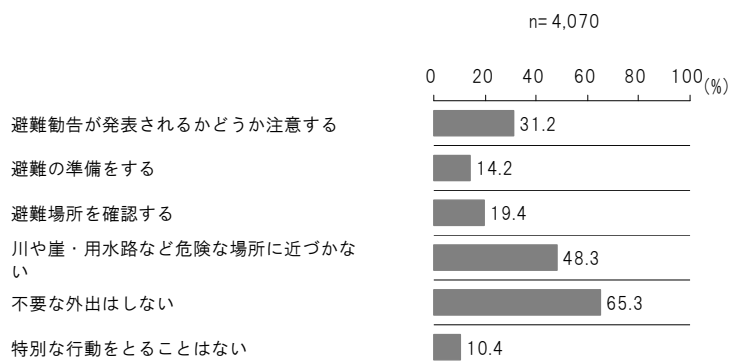


HP調査では、「強く危険性を感じたことがある」(10.2%)と「どちらかという危険性を感じたことがある」(14.1%)を合わせた『危険性を感じたことがある(計)』(24.3%)は2割台半ばとなっている。

(2) 大雨警報発表時の行動

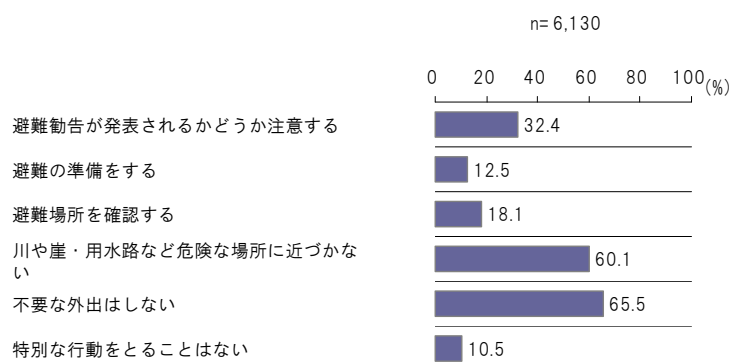
問4 - 2 お住まいの地域で、大雨警報が発表されたのを聞いたことがあります。このよう
なとき、あなたはどのような行動をとりますか。とらうと思う行動をすべて選んでくだ
さい。

【住民調査】



大雨警報が発表された際の行動について、住民調査では「不要な外出はしない」(65.3%)との回答が最も高く6割台半ば、次いで「川や崖・用水路など危険な場所に近づかない」(48.3%)が5割弱、「避難勧告が発表されるかどうか注意する」(31.2%)が3割強となっている。

【HP調査】

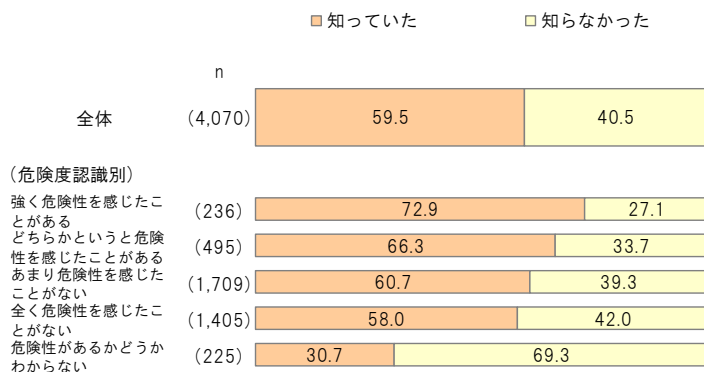


HP調査では、「不要な外出はしない」(65.5%)との回答が最も高く6割台半ば、次いで「川や崖・用水路など危険な場所に近づかない」(60.1%)がおよそ6割、「避難勧告が発表されるかどうか注意する」(32.4%)が3割強を占める。

(3) 土砂災害警戒情報の認知

問4 - 3 大雨が降り続いて土砂災害の危険性が高まると、土砂災害警戒情報が発表されます。あなたは土砂災害警戒情報について知っていましたか。

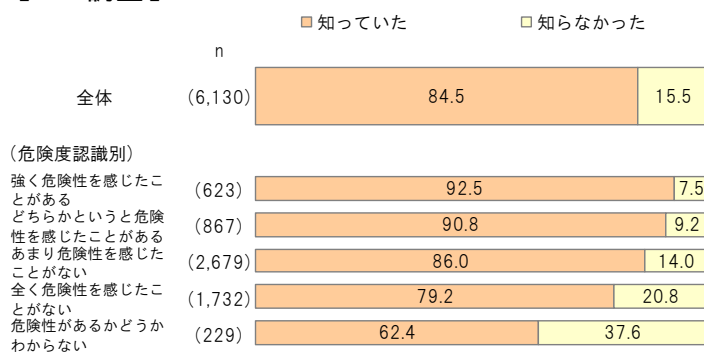
【住民調査】



土砂災害警戒情報の認知について、住民調査では、「知っていた」(59.5%)との回答は6割弱となっている。

土砂災害の危険性を感じた経験別にみると、土砂災害の危険性を強く感じたことがある人ほど土砂災害警戒情報の認知度が高くなる傾向にある。

【HP調査】



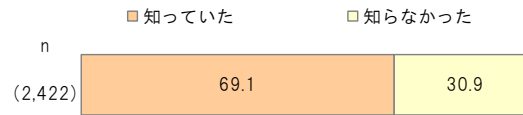
HP調査では、「知っていた」(84.5%)との回答は8割台半ばとなっている。

土砂災害の危険性を感じた経験別にみると、土砂災害の危険性を強く感じたことがある人ほど土砂災害警戒情報の認知度が高くなる傾向にあり、「強く危険性を感じたことがある」(92.5%)、「どちらかという危険性を感じたことがある」(90.8%)はともに9割強に達している。

(4) 土砂災害警戒情報が発表される状況の認知

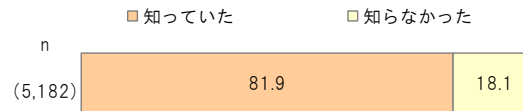
問4 - 4 土砂災害警戒情報は、大雨警報よりもさらに土砂災害に対する危険性が高まったときに発表されます。あなたはこのことを知っていましたか。

【住民調査】



土砂災害警戒情報が発表される状況について、住民調査では「知っていた」(69.1%)との回答が7割弱を占める。

【HP調査】

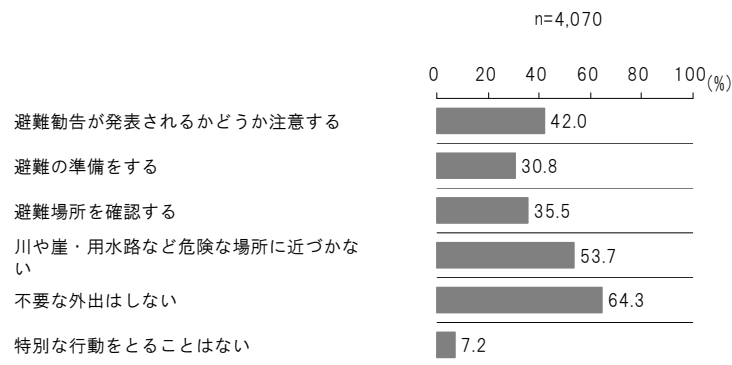


HP調査では「知っていた」(81.9%)との回答が8割強を占める。

(5) 土砂災害警戒情報発表時の行動

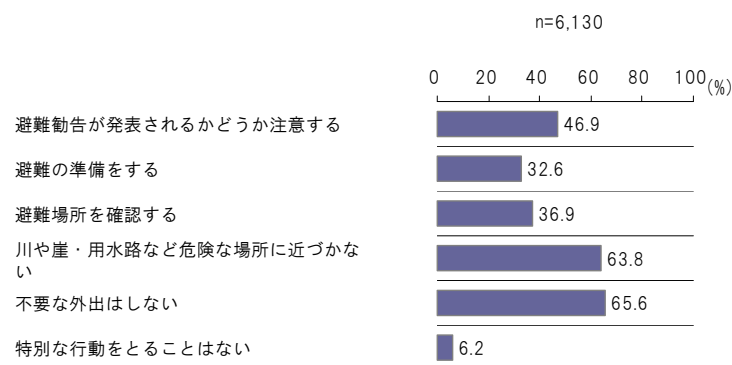
問4 - 5 お住まいの地域で、もし土砂災害警戒情報が発表された場合、あなたはどのような行動をとろうと思いますか。とろうと思う行動をすべて選んでください

【住民調査】



土砂災害警戒情報が発表された際の行動について、住民調査では「不要な外出はしない」(64.3%)との回答が最も高く6割台半ば、次いで「川や崖・用水路など危険な場所に近づかない」(53.7%)が5割台半ば、「避難勧告が発表されるかどうか注意する」(42.0%)が4割強を占める。

【HP調査】

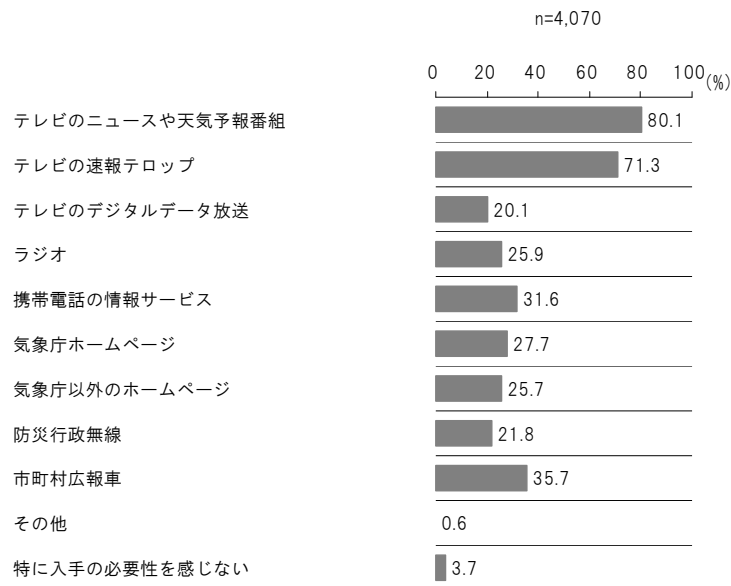


HP調査では、「不要な外出はしない」(65.6%)、「川や崖・用水路など危険な場所に近づかない」(63.8%)との回答が6割台半ば、「避難勧告が発表されるかどうか注意する」(46.9%)が4割台半ばを占める。

(6) 土砂災害警戒情報などの入手希望先

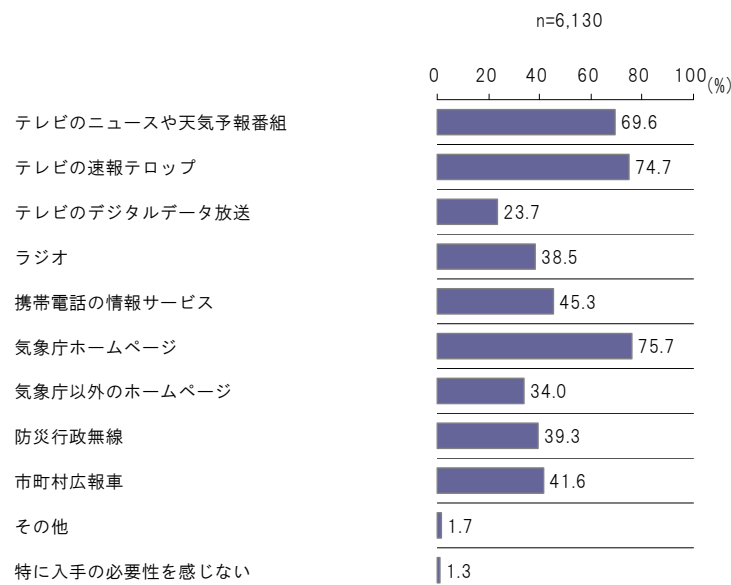
問4 - 6 土砂災害警戒情報など土砂災害の危険性が高まったときに発表される情報を何から入手したいですか。利用したい手段をすべて選んでください

【住民調査】



土砂災害警戒情報などの入手希望先について、住民調査では「テレビのニュースや天気予報番組」(80.1%)との回答が最も高くおよそ8割、「テレビの速報テロップ」(71.3%)が7割強となっている。

【HP調査】



HP調査では、「気象庁ホームページ」(75.7%)、「テレビの速報テロップ」(74.7%)との回答が7割台半ば、「テレビのニュースや天気予報番組」(69.6%)が7割弱と上位を占めている。

(7) 土砂災害警戒情報などについての不満点

問4 - 7 土砂災害警戒情報など土砂災害の危険性が高まったときに発表される情報について、不満に感じることがありましたら、**あてはまるものをすべて選んでください。**

【住民調査】

		n	がこ とを でき な い	情 報 が 発 表 さ れ て い る	に 危 険 性 の 程 度 が わ か り に く い	広 は 市 町 村 単 位 で の 発 表 が	も 情 報 が 災 害 が 発 生 し て い ない	す い 情 報 が 災 害 が 発 生 し て い ない	そ の 他	特 に 不 満 は な い
全 体		4,070	40.7	43.6	24.8	8.4	12.3	1.0	32.7	
危険度認識別	強く危険性を感じたことがある	236	53.0	52.5	26.7	8.5	16.5	0.4	15.7	
	どちらかという危険性を感じたことがある	495	50.3	54.7	31.9	11.1	13.3	1.4	18.4	
	あまり危険性を感じたことがない	1,709	43.7	48.9	27.7	9.2	14.2	0.9	26.8	
	全く危険性を感じたことがない	1,405	33.5	34.5	20.4	6.8	9.9	1.2	43.9	
	危険性があるかどうかわからない	225	29.3	25.3	12.4	6.2	6.2	-	56.9	
警戒情報の認知別	知っていた	2,422	42.2	46.4	27.3	8.7	14.4	1.2	28.9	
	知らなかった	1,648	38.5	39.3	21.2	8.0	9.3	0.8	38.2	

土砂災害警戒情報など土砂災害の危険性が高まったときに発表される情報への不満について、住民調査では、「危険性の程度がわかりにくい」(43.6%)との回答が最も高く4割台半ば、次いで「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」(40.7%)が4割強となっている。

土砂災害の危険度認識別にみると、「危険性の程度がわかりにくい」、「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」は土砂災害の危険性を強く感じたことがある人で高い傾向にある。

土砂災害警戒情報の認知別にみると、特に大きな差はみられない。

【HP調査】

		n	がこ とを でき な い	情 報 が 発 表 さ れ て い る	に 危 険 性 の 程 度 が わ か り に く い	広 は 市 町 村 単 位 で の 発 表 が	も 情 報 が 災 害 が 発 生 し て い ない	す い 情 報 が 災 害 が 発 生 し て い ない	そ の 他	特 に 不 満 は な い
全 体		6,130	48.5	47.9	30.3	10.2	12.7	2.1	23.7	
危険度認識別	強く危険性を感じたことがある	623	56.0	49.6	37.7	12.7	21.7	2.7	15.2	
	どちらかという危険性を感じたことがある	867	53.7	53.1	37.3	11.8	16.4	2.2	16.6	
	あまり危険性を感じたことがない	2,679	50.8	50.4	30.0	9.6	12.0	1.6	21.5	
	全く危険性を感じたことがない	1,732	40.5	41.1	25.6	9.1	9.2	2.4	33.4	
	危険性があるかどうかわからない	229	41.9	47.6	22.3	12.2	9.6	2.6	27.5	
警戒情報の認知別	知っていた	5,182	49.0	47.7	31.4	10.4	13.1	2.0	23.1	
	知らなかった	948	46.1	49.3	23.9	8.8	10.7	2.2	27.4	

HP調査では、「情報が発表されていることをすぐに知ることができない」(48.5%)、「危険性の程度がわかりにくい」(47.9%)がともに5割弱、「市町村単位の発表では、対象とする地域が広すぎる」(30.3%)が3割強となっている。

土砂災害の危険度認識別にみると、情報が発表されていることをすぐに知ることができない、「危険性の程度がわかりにくい」、「市町村単位の発表では、対象とする地域が広すぎる」はいずれも土砂災害の危険性を強く感じたことがある人で高い傾向にある。

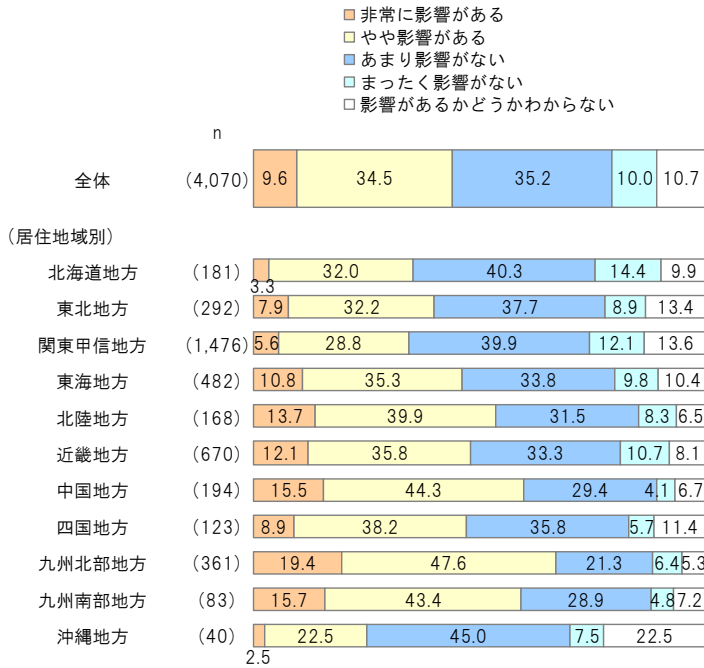
土砂災害警戒情報の認知別にみると、特に大きな差はみられない。

5. 黄砂情報について

(1) 黄砂が飛来した際の生活や仕事への影響度

問5 - 1 黄砂が飛来したときに、あなたの生活や仕事に影響することがありますか。

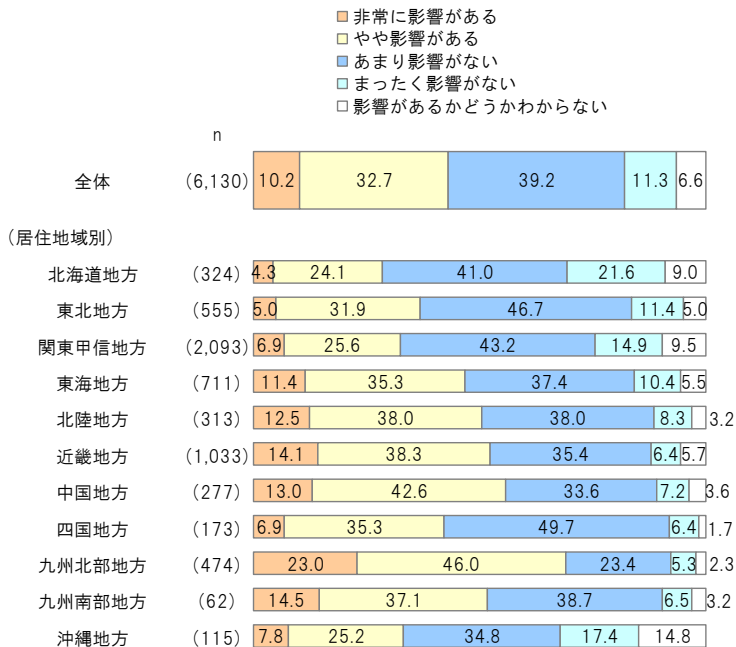
【住民調査】



黄砂が飛来した際の影響について、住民調査の全体では「非常に影響がある」(9.6%)と「やや影響がある」(34.5%)を合わせた『なんらかの影響がある(計)』(44.1%)は4割台半ばとなっている。

居住地域別にみると、『なんらかの影響がある(計)』は九州北部地方(67.0%)で7割弱、中国地方(59.8%)、九州南部地方(59.1%)で6割弱、北陸地方(53.6%)で5割台半ばを占め高くなっている。

【HP調査】



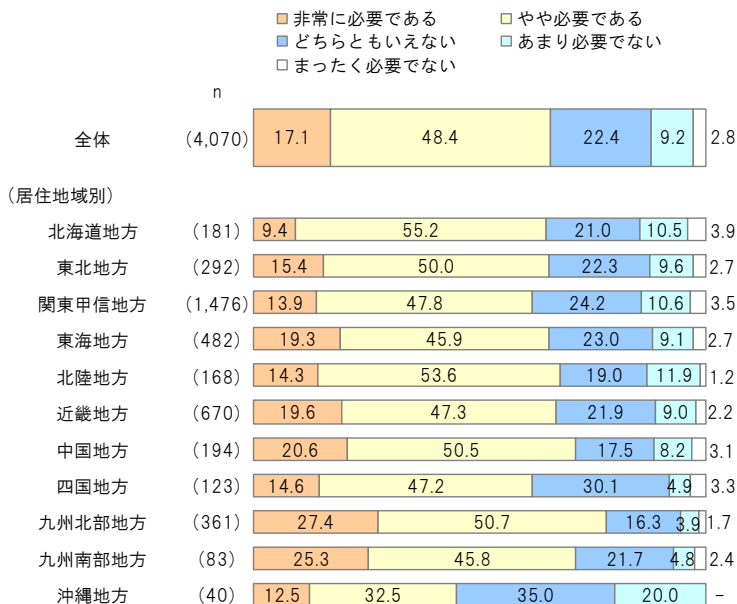
HP調査では、「非常に影響がある」(10.2%)と「やや影響がある」(32.7%)を合わせた『なんらかの影響がある(計)』(42.9%)との回答は4割強となっている。

居住地域別にみると、『なんらかの影響がある(計)』は、九州北部地方(69.0%)で7割弱、中国地方(55.6%)で5割台半ば、近畿地方(52.4%)、北陸地方(50.5%)で5割強を占め高くなっている。

(2) 黄砂情報の必要性

問5 - 2 あなたは、黄砂情報をどの程度必要だと思いますか。

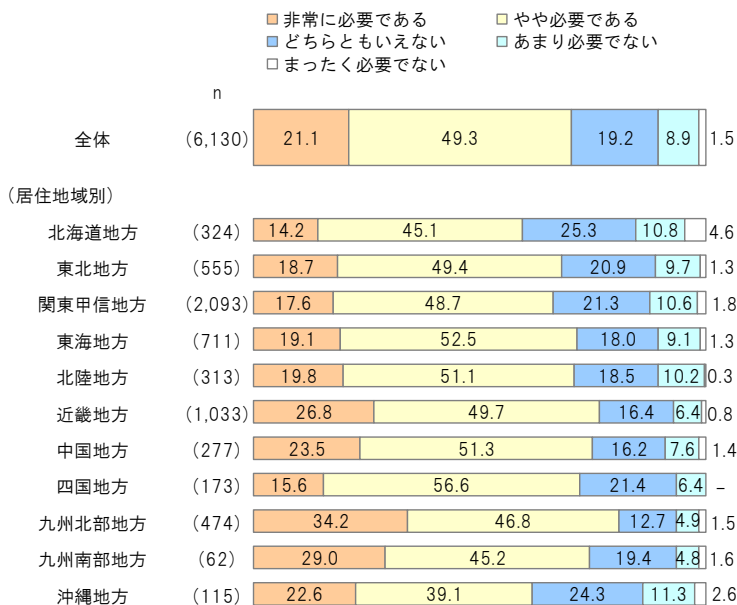
【住民調査】



黄砂情報の必要性について、住民調査では、「非常に必要である」(17.1%)と「やや必要である」(48.4%)を合わせた『必要である(計)』(65.5%)との回答が6割台半ばを占める。

居住地域別にみると、『必要である(計)』は、九州北部地方(78.1%)で8割弱、中国地方(71.1%)、九州南部地方(71.1%)で7割強と高くなっている。

【HP調査】



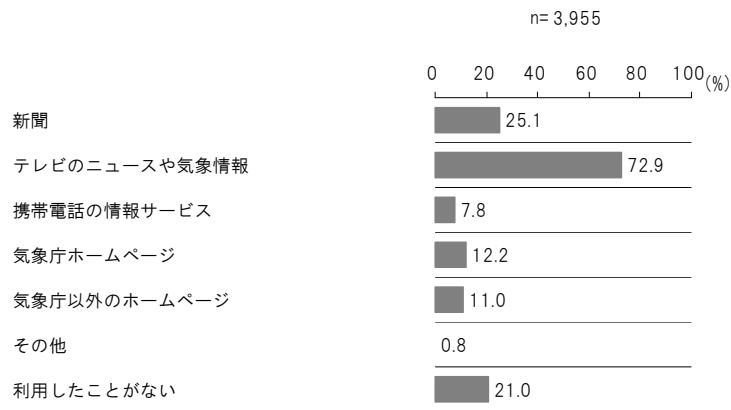
HP調査では、「非常に必要である」(21.1%)と「やや必要である」(49.3%)を合わせた『必要である(計)』(70.4%)はおおよそ7割を占める。

居住地域別にみると、『必要である』割合が、九州北部地方(81.0%)で8割強、近畿地方(76.5%)で7割台半ばと高くなっている。

(3) 黄砂情報の入手先

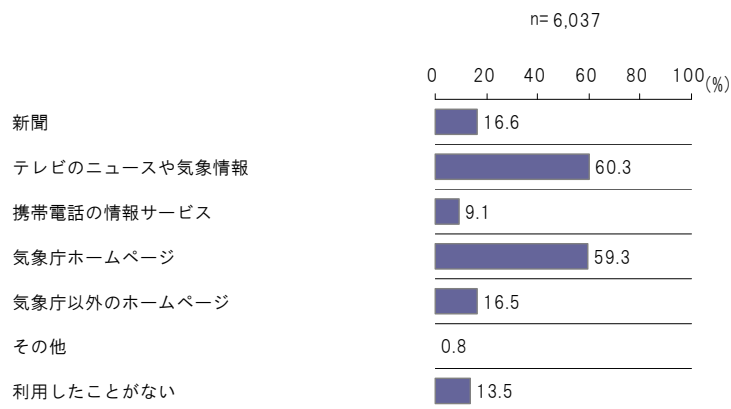
問5 - 3 あなたは、黄砂情報を何から入手していますか。利用しているものをすべて選んでください。

【住民調査】



黄砂情報の入手媒体について、住民調査では「テレビのニュースや気象情報」(72.9%)との回答が7割強を占め突出している。

【HP調査】



HP調査では、「テレビのニュースや気象情報」(60.3%)との回答がおよそ6割、「気象庁ホームページ」(59.3%)が6割弱を占める。

(4) 黄砂情報入手時の行動

問5 - 4 黄砂情報を入手したときに、あなたがとると思われる行動として、あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】

		n	洗濯物や布団を外に干さない	洗濯するのを先に伸ばす	部屋の空気を入れ替えるのを避ける	外出の際にマスクをず	トモ屋外の実施や参加を控える	交通機関の運行情報を入手する	黄砂の影響が実際にあ	見通しが悪くなるなど	その他	特にとる行動はない
全体		3,955	72.1	35.0	39.3	34.1	23.0	7.3	19.6	0.8	16.2	
職業別	農林漁業	39	69.2	33.3	35.9	35.9	17.9	2.6	28.2	-	10.3	
	商工サービス自営	180	64.4	28.3	36.1	27.2	15.6	2.2	25.0	-	21.1	
	事務職	828	70.4	34.5	37.7	33.0	22.2	8.3	19.7	0.8	16.7	
	技術・技能職	733	65.6	37.8	30.4	30.3	22.2	8.0	18.3	0.8	21.6	
	販売・サービス職	496	75.2	37.3	38.3	35.5	22.2	9.9	19.2	0.8	13.9	
	自由業	160	62.5	30.6	38.1	35.0	28.8	8.8	22.5	0.6	20.0	
	専業主婦(夫)	819	84.4	36.1	49.9	40.8	26.3	5.3	18.4	0.9	9.3	
	学生	133	67.7	27.8	52.6	31.6	14.3	8.3	14.3	1.5	17.3	
	無職	402	67.4	34.1	36.6	32.8	22.4	6.2	21.1	1.2	18.2	
	その他	165	72.1	33.3	38.2	30.9	28.5	9.1	21.2	0.6	18.8	

黄砂情報を入手した際の行動について、住民調査では、「洗濯物や布団を外に干さない」(72.1%)との回答が最も高く7割強、次いで「部屋の空気を入れ替える」(39.3%)が4割弱となっている。

職業別にみると、「洗濯物や布団を外に干さない」は専業主婦(夫)(84.4%)で高くなっている。また、「部屋の空気を入れ替える」は専業主婦(夫)(52.6%)、学生(49.9%)で高い。

【HP調査】

		n	洗濯物や布団を外に干さない	洗濯するのを先に伸ばす	部屋の空気を入れ替えるのを避ける	外出の際にマスクをず	トモ屋外の実施や参加を控える	交通機関の運行情報を入手する	黄砂の影響が実際にあ	見通しが悪くなるなど	その他	特にとる行動はない
全体		6,037	66.5	38.6	38.3	26.6	17.4	10.0	32.4	1.6	16.8	
職業別	農林漁業	142	60.6	31.0	29.6	20.4	14.1	6.3	29.6	1.4	23.2	
	商工サービス自営	168	65.5	39.9	36.9	23.8	17.3	7.7	33.3	2.4	18.5	
	事務職	1,240	69.4	39.8	37.7	27.8	15.6	8.4	29.4	1.0	15.0	
	技術・技能職	2,202	65.2	41.0	35.5	25.4	16.6	10.0	30.7	1.7	18.1	
	販売・サービス職	596	71.5	46.3	41.9	28.5	19.6	12.9	33.6	1.5	12.2	
	自由業	242	72.7	38.8	51.2	32.2	24.8	14.5	34.7	2.1	14.5	
	専業主婦(夫)	200	88.5	34.0	55.0	39.0	23.5	4.0	30.0	2.0	5.5	
	学生	544	52.0	19.1	37.7	22.8	14.5	11.6	41.0	1.5	24.4	
	無職	385	72.5	39.0	40.5	26.8	23.4	10.9	35.8	1.0	13.5	
	その他	318	57.2	41.8	36.2	25.5	14.8	9.4	35.8	3.1	19.2	

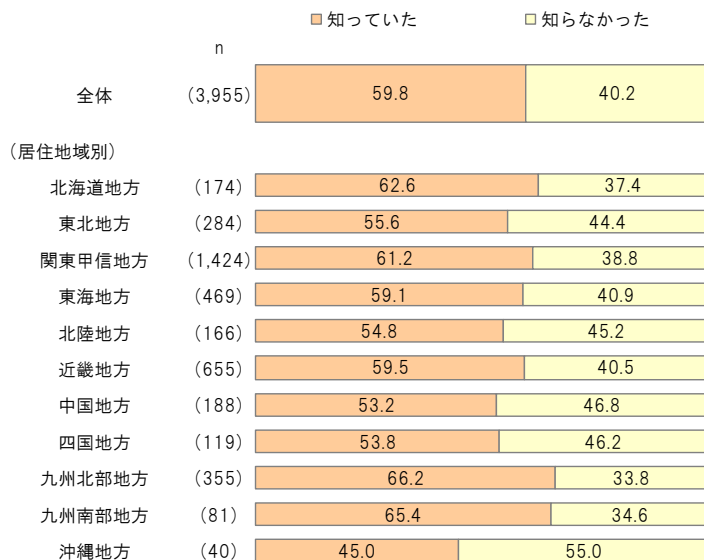
HP調査では、「洗濯物や布団を外に干さない」(66.5%)との回答が最も高く6割台半ば、「洗濯するのを先に伸ばす」(38.6%)、「部屋の空気を入れ替えるのを避ける」(38.3%)がともに4割弱となっている。

職業別にみると、「洗濯物や布団を外に干さない」は専業主婦(夫)(88.5%)、自由業(72.7%)、無職(72.5%)で高くなっている。また、「洗濯するのを先に伸ばす」は販売・サービス職(46.3%)で、「部屋の空気を入れ替えるのを避ける」は専業主婦(夫)(55.0%)、自由業(51.2%)で高くなっている。

(5) 気象庁が黄砂情報を発表していることの認知

問5 - 5 あなたは、気象庁が黄砂情報を発表していることを知っていましたか。

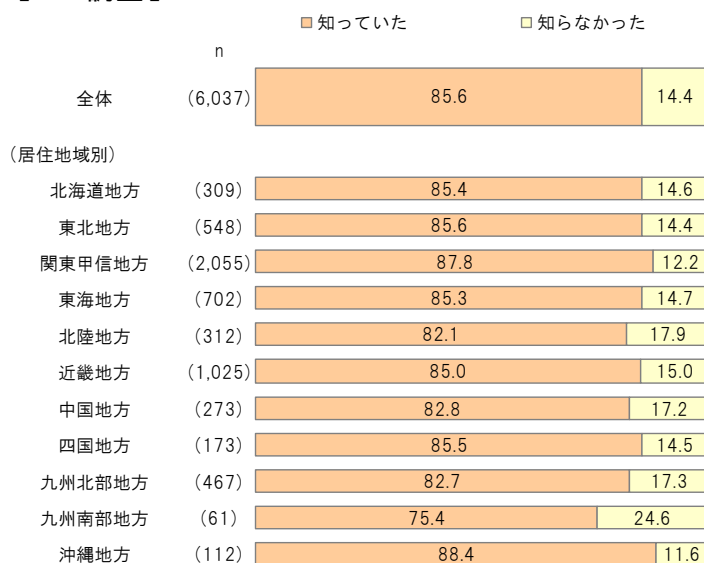
【住民調査】



黄砂情報の認知度について、住民調査では「知っていた」(59.8%)との回答が6割弱を占める。

居住地域別にみると、九州北部地方(66.2%)、九州南部地方(65.4%)が6割台半ばを占め高い。

【HP調査】



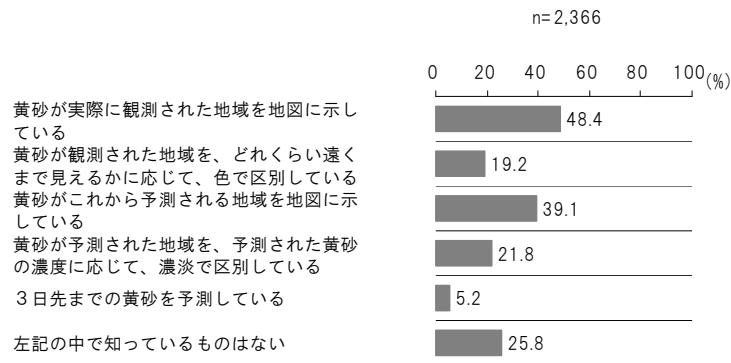
HP調査では「知っていた」(85.6%)との回答が8割台半ばを占める。

居住地域別にみると、おおむね全体と同様の傾向にある。

(6) 知っている気象庁発表の黄砂情報の内容

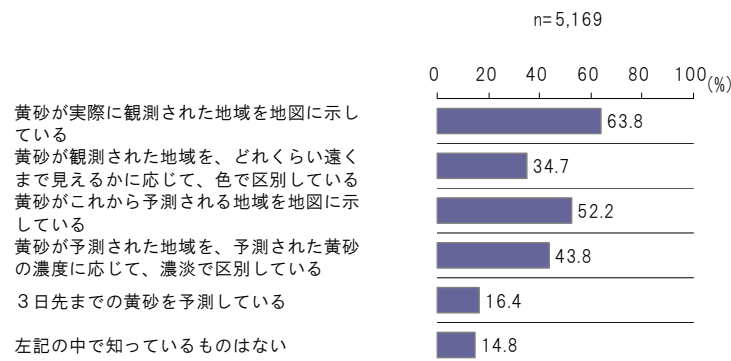
問5 - 6 気象庁が発表している黄砂情報の内容で、あなたが知っていることをすべて選んでください。

【住民調査】



黄砂情報の内容について、住民調査では「黄砂が実際に観測された地域を地図に示している」(48.4%)との回答が最も高く5割弱、次いで「黄砂がこれから予測される地域を地図に示している」(39.1%)が4割弱となっている。

【HP調査】



HP調査では、「黄砂が実際に観測された地域を地図に示している」(63.8%)との回答が最も高く6割台半ば、次いで「黄砂がこれから予測される地域を地図に示している」(52.2%)が5割強、「黄砂が予測された地域を、予測された黄砂の濃度に応じて、濃淡で区別している」(43.8%)が4割台半ばとなっている。

(7) 黄砂情報についての不満点

問5 - 7 気象庁が発表している黄砂情報について、不満に感じるがありましたら、あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】

		n	るテレビ 機会が 少ない 上げら れ	が携 帯電 話向 けの サイ ト	所測 図の 予測 が不 細い な予 場予	広範 囲を 対象 とし た予 場予	らよ いて がど う行 動し た予 場予	く予 測さ れる 黄砂 の量 に對 して 、ど う行 動し た予 場予	測る 場所 で、 黄砂 の量 がど う変 化し てい る予 場予	ぎ(3 日先 まで) 黄砂 が予 測さ れる 短期 間	に、黄 砂が 飛来 して いる の予 場予	いて、 黄砂 が飛 来し てい るの 予場 予	黄砂 の飛 来が 予測 され てい るの 予場 予	その 他	特 に不 満は ない
全体		2,366	35.8	7.8	17.0	29.3	12.9	3.9	11.3	3.0	0.8	39.7			
必要 度別	非常に必要である	520	52.3	14.0	26.7	35.2	20.6	8.3	22.7	6.9	1.9	20.6			
	やや必要である	1,282	35.7	7.1	16.8	30.4	12.1	3.3	10.0	1.8	0.2	39.2			
	どちらともいえない	410	23.2	3.7	9.0	23.7	8.8	1.5	3.7	1.7	0.5	55.4			
	あまり必要でない	154	14.9	3.9	7.1	14.9	4.5	1.3	3.9	2.6	1.9	67.5			
	まったく必要でない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
情報 入手 時	洗濯物や布団を外に干さない	1,782	40.0	8.9	19.7	31.3	14.9	4.6	13.6	3.6	0.8	34.1			
	洗車するのを先に伸ばす	890	42.5	11.7	23.7	33.6	19.1	6.5	15.4	4.8	0.4	31.7			
	部屋の空気を入れ替えを避ける	981	43.6	11.2	23.3	36.2	17.6	6.3	17.5	4.8	1.1	30.8			
	外出の際にマスクをする	831	45.8	10.5	24.1	35.3	19.4	6.3	17.6	4.5	1.0	29.2			
	屋外での行事・イベントの実施や参加を控える	588	45.7	12.2	24.8	37.8	22.1	8.0	18.9	4.8	1.0	28.6			
	交通機関の運行情報を入手する	192	45.3	21.9	30.7	45.3	26.6	15.1	19.8	8.9	0.5	27.6			
	見通しが悪くなるなど黄砂の影響が実際にあるか確かめる	527	45.2	11.4	24.9	42.1	21.1	8.3	20.1	7.0	0.9	30.0			
	その他	23	56.5	8.7	21.7	34.8	17.4	8.7	26.1	-	8.7	30.4			
特にとる行動はない	323	13.3	2.8	4.6	14.6	3.7	0.9	2.2	-	1.2	73.1				

黄砂情報に対して不満に感じることにについて、住民調査では、「テレビで取り上げられる機会が少ない」(35.8%)との回答が最も高く3割台半ば、次いで「予測される黄砂の量に対して、どう行動したらよいかかわからない」(29.3%)が3割弱となっている。

黄砂情報の必要度別にみると、「テレビで取り上げられる機会が少ない」は非常に必要であると回答した人(52.3%)で高い。また、「予測される黄砂の量に対して、どう行動したらよいかかわからない」についても、非常に必要であると回答した人(35.2%)で高くなっている。

黄砂情報入手時の行動別にみると、「テレビで取り上げられる機会が少ない」、「予測される黄砂の量に対して、どう行動したらよいかかわからない」はいずれの選択肢でもおおむね高くなっている。

6. 紫外線情報について

(1) 紫外線の人体への悪影響の認知内容

問6 - 1 紫外線を浴びすぎると、人体に対してどのような悪影響を及ぼすか知っていますか。
あなたが知っているものをすべて選んでください。

【住民調査】

		n	急に よる 皮膚 に け 炎 が お	眼 に 悪 影 響 を 及 ぼ す な ど	長 期 的 に み て 皮 膚 が ん に な る 可 能 性 が 高 く な る	皮 膚 の シ ミ ・ シ ワ が で き る	そ の 他	知 っ て い る こ と は な い
全体		4,070	77.9	59.1	80.1	80.8	0.2	3.8
性別・ 年代別	男性計	2,032	75.1	55.5	77.5	73.2	0.2	5.0
	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	383	72.1	54.3	75.7	77.8	0.5	6.3
	30歳代	448	73.9	53.1	74.8	74.8	-	4.5
	40歳代	379	77.6	57.8	82.6	74.7	-	4.2
	50歳代	453	77.0	54.3	78.1	67.3	0.4	5.5
	60歳代	369	74.8	58.8	76.7	72.1	-	4.3
	70歳以上	-	-	-	-	-	-	-
	女性計	2,038	80.7	62.7	82.6	88.4	0.1	2.6
	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	373	79.6	59.8	79.6	89.0	0.3	3.2
	30歳代	435	84.4	59.1	83.0	91.0	-	2.1
	40歳代	372	84.9	65.6	84.1	90.6	0.3	1.1
	50歳代	456	76.5	63.4	82.2	88.2	-	2.6
	60歳代	402	78.4	65.9	84.1	83.3	0.2	4.2
	70歳以上	-	-	-	-	-	-	-
	両性計	4,070	77.9	59.1	80.1	80.8	0.2	3.8
	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	756	75.8	57.0	77.6	83.3	0.4	4.8
30歳代	883	79.0	56.1	78.8	82.8	-	3.3	
40歳代	751	81.2	61.7	83.4	82.6	0.1	2.7	
50歳代	909	76.8	58.9	80.2	77.8	0.2	4.1	
60歳代	771	76.7	62.5	80.5	78.0	0.1	4.3	
70歳以上	-	-	-	-	-	-	-	

紫外線を浴びた際の悪影響に関する具体的内容の認知度について、住民調査では、「皮膚のシミ・シワができる」(80.8%)、「長期的にみて皮膚がんになる可能性が高くなる」(80.1%)が高く、およそ8割となっている。一方、「眼の炎症や白内障など眼に悪影響を及ぼす」は、その他の選択肢よりも相対的に低い。

性別にみると、「皮膚のシミ・シワができる」、「長期的にみて皮膚がんになる可能性が高くなる」の認知度は男性よりも女性のほうが高い。年代別にみると、「皮膚のシミ・シワができる」は年代が高くなるにつれて低くなる傾向にある。

【HP 調査】

(%)

	n	急激な日焼け、雪焼けにより皮膚に炎症がおきる	眼の炎症や白内障など眼に悪影響を及ぼす	長期的に見て皮膚がんになる可能性が高くなる	皮膚のシミ・シワができる	その他	知っていることはない
全体	6,130	86.0	68.8	85.8	79.4	0.7	1.7
男性計	5,180	84.9	68.2	84.7	77.0	0.6	2.0
20歳未満	262	75.6	65.3	77.5	65.3	-	8.0
20歳代	666	85.0	70.1	88.6	81.7	0.3	1.7
30歳代	1,371	85.4	66.6	83.8	77.9	0.4	2.4
40歳代	1,557	86.9	70.1	86.4	77.5	0.8	1.4
50歳代	886	84.1	68.1	86.0	76.6	0.9	0.7
60歳代	341	84.2	64.8	79.5	75.1	0.6	2.1
70歳以上	97	82.5	67.0	71.1	66.0	2.1	2.1
女性計	950	91.9	72.1	91.4	92.8	1.2	0.4
20歳未満	15	80.0	86.7	86.7	80.0	6.7	-
20歳代	197	89.8	71.1	91.9	93.9	1.0	-
30歳代	319	94.0	68.0	88.4	93.7	0.9	0.6
40歳代	316	92.4	74.7	94.0	93.4	0.9	-
50歳代	87	88.5	74.7	90.8	88.5	1.1	2.3
60歳代	14	92.9	85.7	100.0	85.7	7.1	-
70歳以上	2	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-
両性計	6,130	86.0	68.8	85.8	79.4	0.7	1.7
20歳未満	277	75.8	66.4	78.0	66.1	0.4	7.6
20歳代	863	86.1	70.3	89.3	84.5	0.5	1.3
30歳代	1,690	87.0	66.9	84.7	80.9	0.5	2.1
40歳代	1,873	87.8	70.9	87.7	80.1	0.8	1.2
50歳代	973	84.5	68.7	86.4	77.7	0.9	0.8
60歳代	355	84.5	65.6	80.3	75.5	0.8	2.0
70歳以上	99	82.8	67.7	71.7	66.7	2.0	2.0

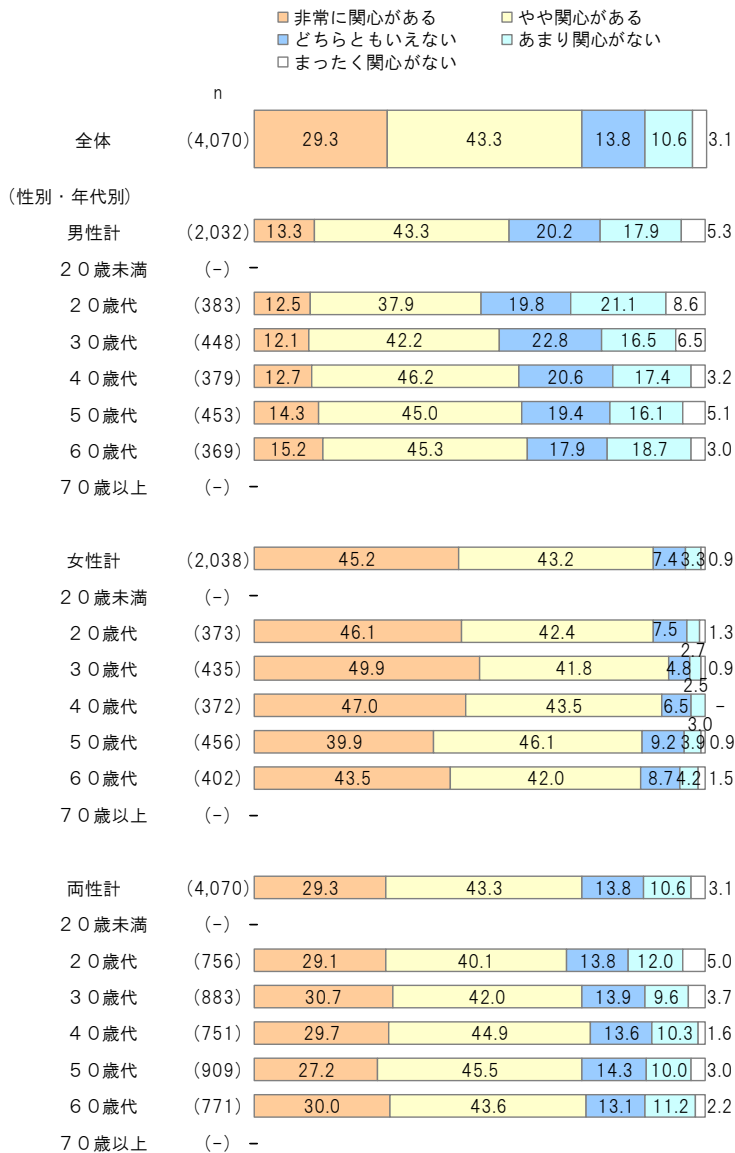
HP 調査では、「急激な日焼け、雪焼けにより皮膚に炎症がおきる」(86.0%)、「長期的に見て皮膚がんになる可能性が高くなる」(85.8%) がともに 8 割台半ばとなっている。一方、「眼の炎症や白内障など眼に悪影響を及ぼす」は、その他の選択肢よりも相対的に低い。

性別にみると、「急激な日焼け、雪焼けにより皮膚に炎症がおきる」、「長期的に見て皮膚がんになる可能性が高くなる」の認知度は男性よりも女性のほうが高い。

(2) 紫外線対策への関心度

問6-2 あなたは、紫外線対策にどの程度関心がありますか。

【住民調査】

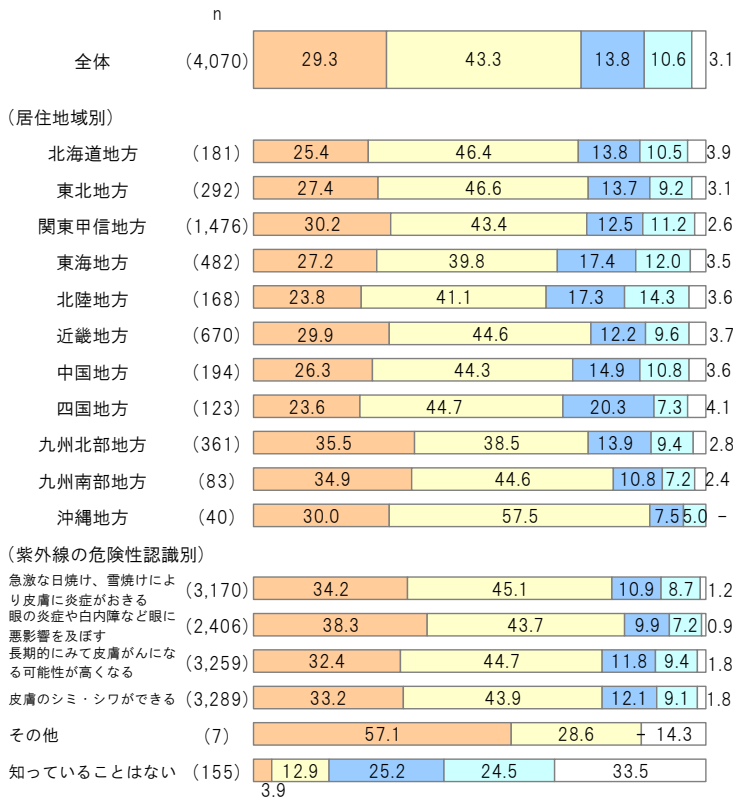


紫外線対策の関心度について、住民調査では、「非常に関心がある」(29.3%)と「やや関心がある」(43.3%)を合わせた『関心がある(計)』(72.6%)は7割強を占める。

性別にみると、『関心がある(計)』は女性(88.4%)で9割弱を占め、男性(56.6%)を大きく上回っている。「非常に関心がある」についても女性(45.2%)で4割台半ばを占め高く、男女で差がみられる。

年代別にみると、『関心がある(計)』は男性では年代が上がるにつれて関心が高まる傾向にある。女性では特に大きな差はみられない。

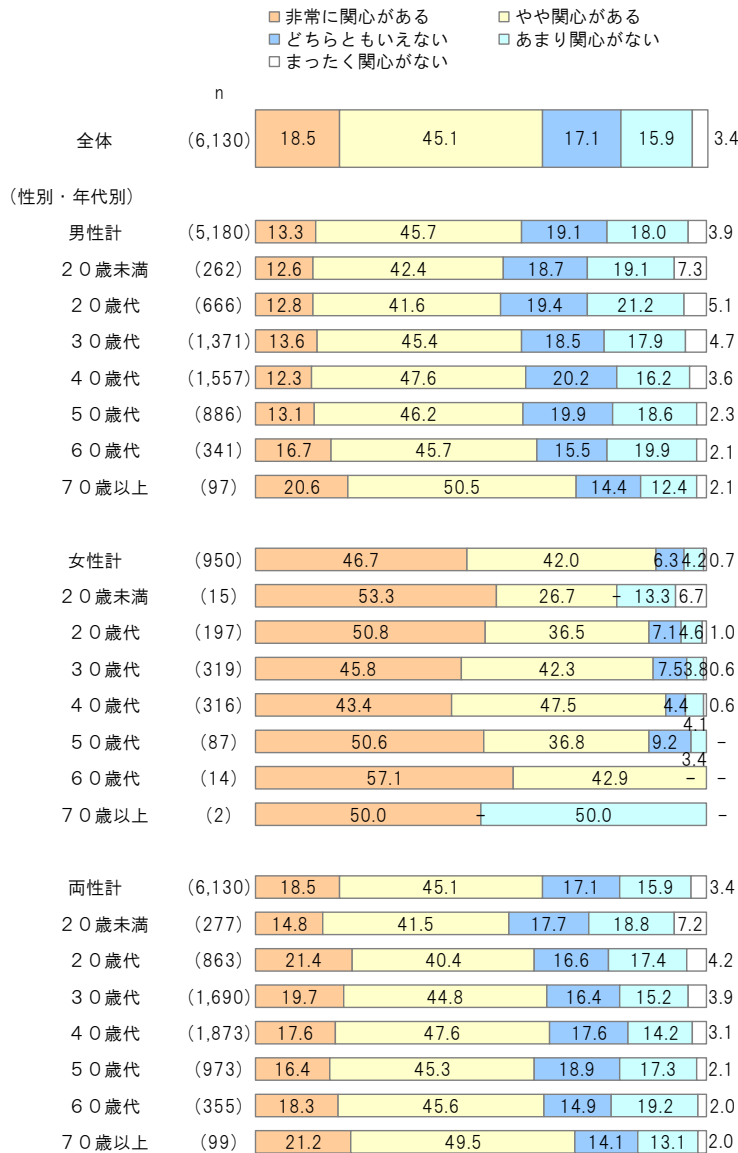
■ 非常に興味がある ■ やや興味がある
■ どちらともいえない ■ あまり興味がない
■ まったく興味がない



居住地域別にみると、『関心がある(計)』は沖縄地方(87.5%)で9割弱、九州南部地方(79.5%)で8割弱と高い。なお、「非常に興味がある」は、九州北部地方(35.5%)九州南部地方(34.9%)で3割台半ばと高くなっている。

紫外線の危険性認識別にみると、『関心がある(計)』は「眼の炎症や白内障など眼に悪影響を及ぼす」(82.0%)で8割強、「急激な日焼け、雪焼けにより皮膚に炎症がおきる」(79.3%)で8割弱と高い。

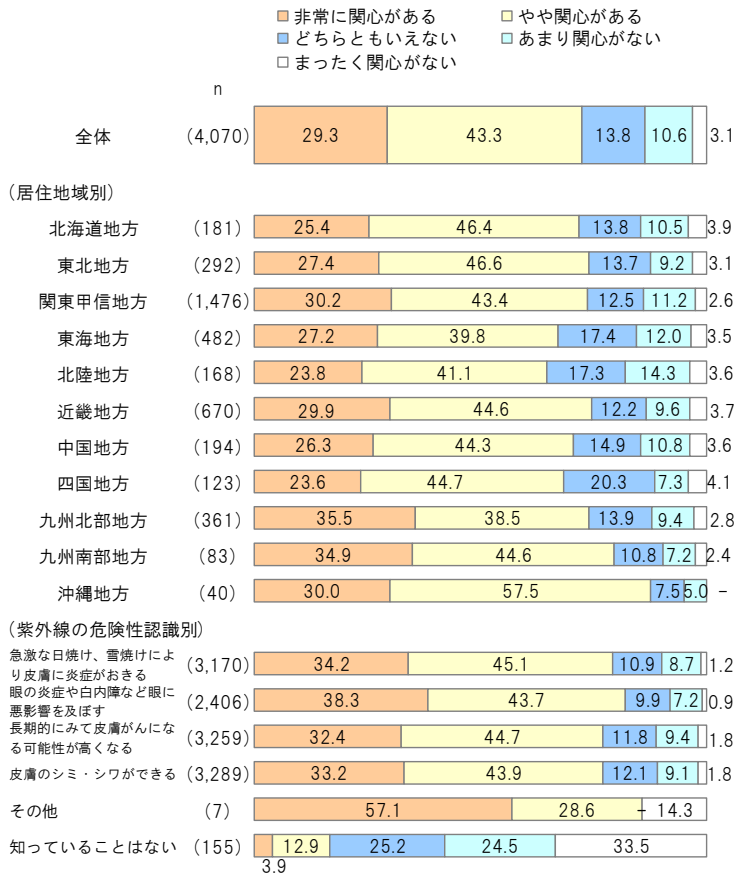
【HP 調査】



紫外線対策の関心度について、HP 調査では、「非常に興味がある」(18.5%)と「やや興味がある」(45.1%)を合わせた『関心がある(計)』(63.6%)は6割台半ばを占める。

性別にみると、『関心がある(計)』は女性(88.7%)で9割弱を占め、男性(59.0%)を大きく上回っている。「非常に興味がある」についても女性(46.7%)で4割台半ばを占め高く、男女で差がみられる。

年代別にみると、『関心がある(計)』は男性では年代が上がるにつれて関心が高まる傾向にある。女性では特に大きな差はみられない。

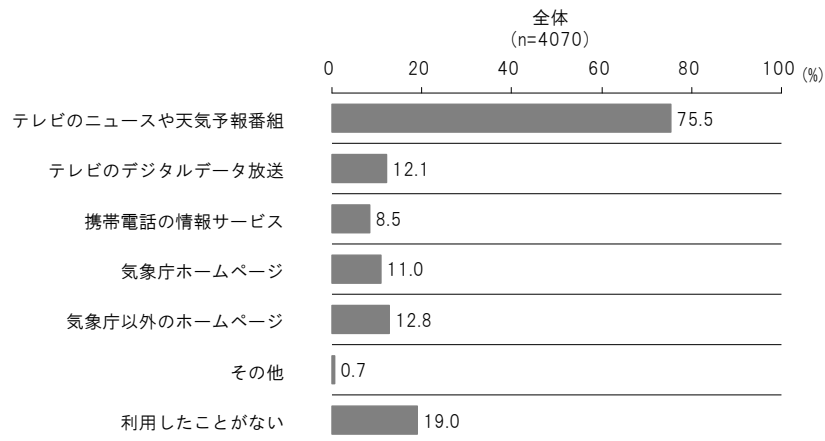


居住地域別にみると、『関心がある(計)』は九州南部地方(74.2%)で7割台半ば、沖縄地方(72.2%)で7割強を占め高い。なお、「非常に興味がある」は、沖縄地方(29.6%)でおよそ3割と高くなっている。紫外線の危険性認識別にみると、『関心がある(計)』は「眼の炎症や白内障など眼に悪影響を及ぼす」(70.4%)でおよそ7割を占め高い。

(3) 紫外線情報の入手先

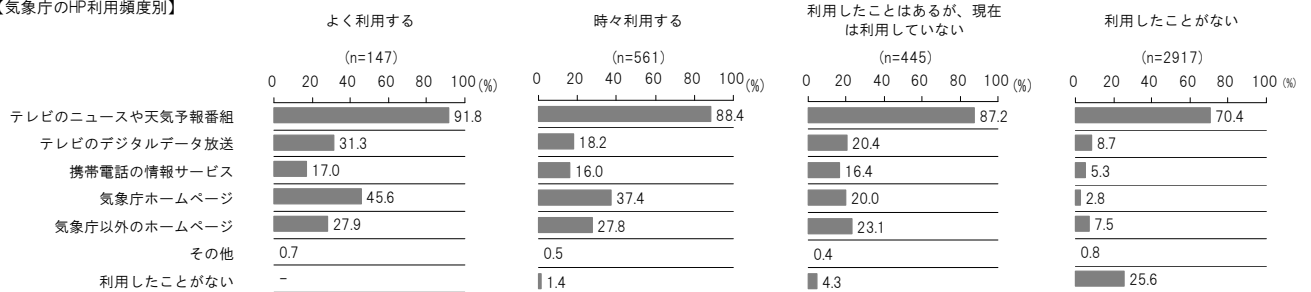
問6-3 あなたは、紫外線情報を何から入手していますか。利用しているものをすべて選んでください。

【住民調査】



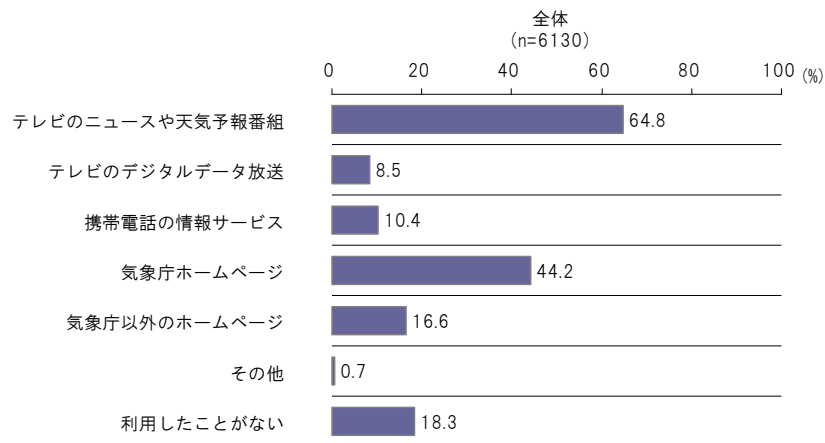
紫外線情報を入手している媒体について、住民調査では、「テレビのニュースや気象情報」(75.5%)との回答が最も高く7割台半ばで突出している。

【気象庁のHP利用頻度別】



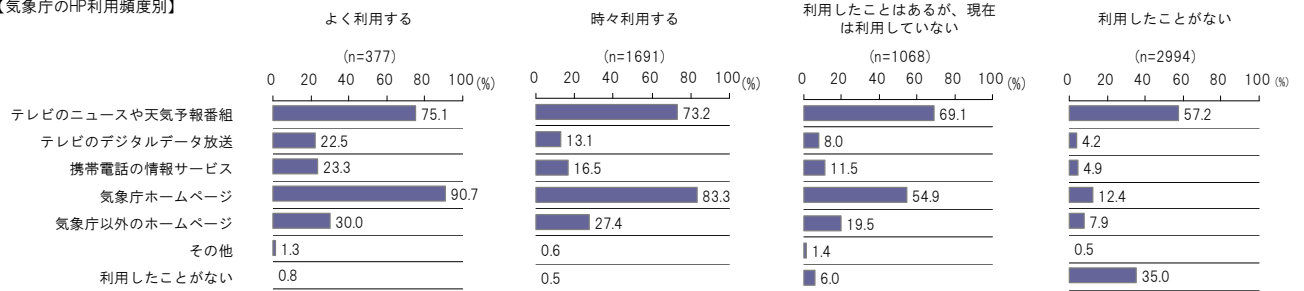
気象庁ホームページの紫外線情報利用度別にみると、「テレビのニュースや気象情報」は「よく利用する」(91.8%)「時々利用する」(88.4%)人で高い。

【HP 調査】



HP 調査では、「テレビのニュースや気象情報」(64.8%)との回答が最も高く6割台半ば、次いで「気象庁ホームページ」(44.2%)が4割台半ばとなっている。

【気象庁のHP利用頻度別】

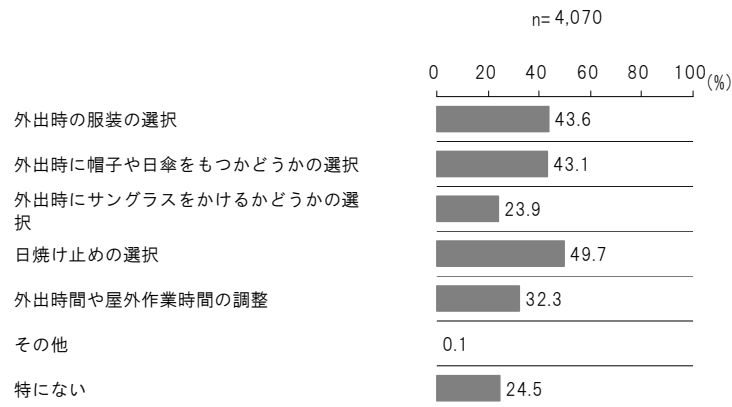


気象庁ホームページの紫外線情報利用頻度別にみると、「テレビのニュースや気象情報」、「気象庁ホームページ」とともに「よく利用する」「時々利用する」人で高い傾向にある。

(4) 紫外線情報の利用方法

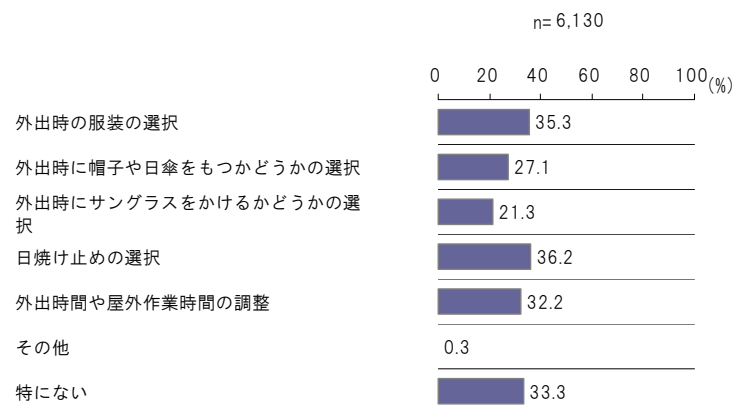
問6 - 4 あなたは、紫外線情報を具体的にどのような対策に利用したいですか。あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】



紫外線情報を入手した際に具体的に行う対策について、住民調査では「日焼け止めの選択」(49.7%)との回答が最も高く5割弱、次いで「外出時の服装の選択」(43.6%)、「外出時に帽子や日傘をもつかどうかの選択」(43.1%)が4割台半ばとなっている。

【HP調査】

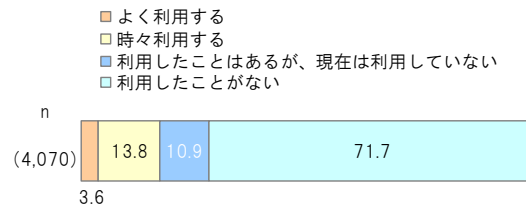


HP調査では、「日焼け止めの選択」(36.2%)、「外出時の服装の選択」(35.3%)、「外出時間や屋外作業時間の調整」(32.2%)が3割台となっている。

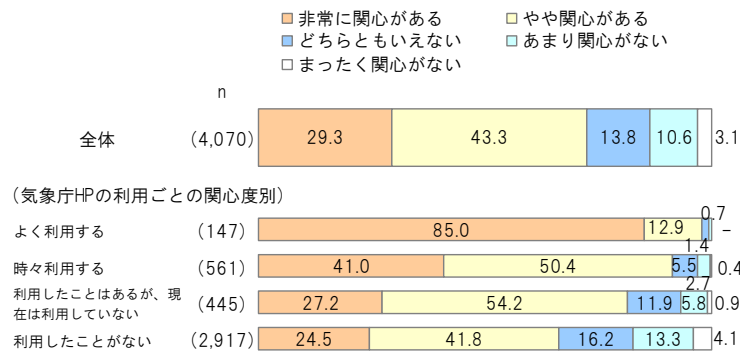
(5) 気象庁の紫外線情報の利用頻度

問6-5 気象庁ホームページの紫外線情報に限定してお聞きします。あなたは気象庁ホームページの紫外線情報をどの程度利用しますか。あてはまるものを1つ選んでください。

【住民調査】

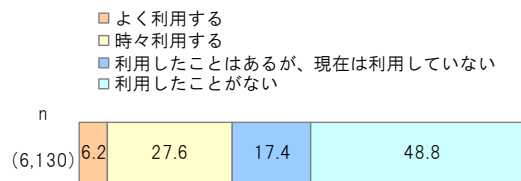


紫外線情報の利用有無について、住民調査では、「よく利用する」(3.6%)と「時々利用する」(13.8%)を合わせた『利用する(計)』は(17.4%)と割弱にとどまる。

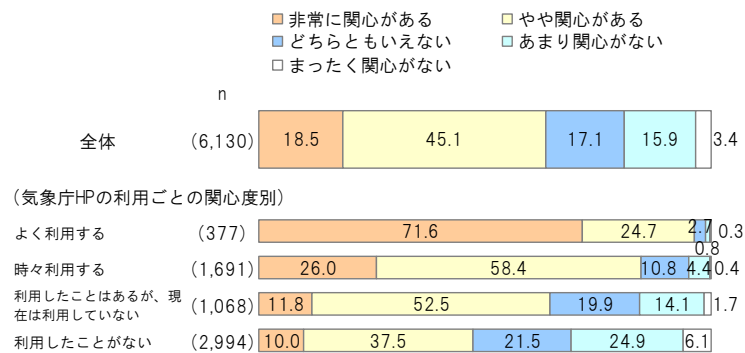


なお、紫外線対策の関心度について(問6-2)、気象庁ホームページの紫外線情報利用頻度別にみると、利用頻度が高くなるほど関心も高くなる傾向にある。特に、よく利用する人については「非常に興味がある」(85.0%)との回答が8割台半ばを占める。

【HP 調査】



HP 調査では「よく利用する」(6.2%)と「時々利用する」(27.6%)を合わせた『利用する(計)』(33.8%)との回答が3割台半ばとなっている。



なお、紫外線対策の関心度について(問 6-2)、気象庁ホームページの紫外線情報利用頻度別にみると、利用頻度が高くなるほど関心も高くなる傾向にある。特に、よく利用する人については「非常に興味がある」(71.6%)との回答が7割台強を占める。

(6) 紫外線情報についての不満点

問6 - 6 気象庁ホームページの紫外線情報について、不満に感じるがありましたら、あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】

	n	が携帯 ない電 話向 けの サイ ト	な予 測図 の見 方が わか ら	点所 選 し か 地 な く ど る 地 点 が 不 十 分 5 6 県 地 庁	ま 予 測 さ れ る 期 間 が 短 ず ぎ る （ 翌 日	予 測 が 外 れ る こ と が あ	そ の 他	特 に 不 満 は な い
全体	1,153	12.8	16.7	27.4	14.9	5.8	0.9	49.8
用H気よく利用する	147	18.4	18.4	34.0	20.4	6.1	0.7	40.1
頻P象時々利用する	561	10.5	17.5	29.8	15.5	6.1	1.1	49.2
度の庁利用したことはあるが、現在は利用していない	445	13.9	15.3	22.2	12.4	5.4	0.7	53.7
別利の利用したことがない	-	-	-	-	-	-	-	-

気象庁ホームページの紫外線情報への不満について、住民調査では、「選択できる地点が県庁所在地など全国56地点しかなく不十分」(27.4%)との回答が最も高く3割弱と高くなっている。

気象庁ホームページの紫外線情報利用頻度別にみると、「選択できる地点が県庁所在地など全国56地点しかなく不十分」はホームページをよく利用する人(34.0%)で高くなっている。

【HP調査】

	n	が携帯 ない電 話向 けの サイ ト	な予 測図 の見 方が わか ら	点所 選 し か 地 な く ど る 地 点 が 不 十 分 5 6 県 地 庁	ま 予 測 さ れ る 期 間 が 短 ず ぎ る （ 翌 日	予 測 が 外 れ る こ と が あ	そ の 他	特 に 不 満 は な い
全体	3,136	14.4	8.3	29.6	12.3	4.4	1.3	54.9
用H気よく利用する	377	21.0	10.9	40.8	24.1	6.6	2.4	40.3
頻P象時々利用する	1,691	15.3	7.7	32.2	12.4	4.7	1.1	52.2
度の庁利用したことはあるが、現在は利用していない	1,068	10.8	8.2	21.4	8.1	3.1	1.4	64.3
別利の利用したことがない	-	-	-	-	-	-	-	-

HP調査では、「選択できる地点が県庁所在地など全国56地点しかなく不十分」(29.6%)との回答が最も高く3割弱となっている。

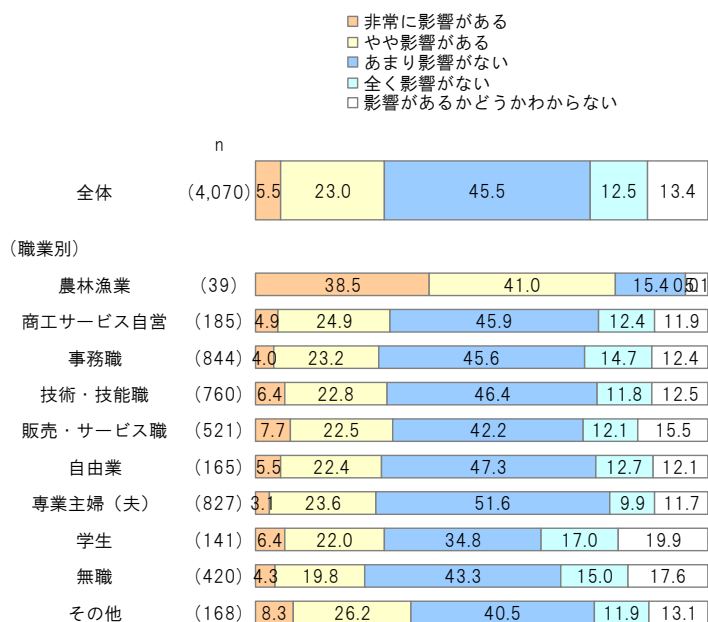
気象庁ホームページの紫外線情報利用頻度別にみると、「選択できる地点が県庁所在地など全国56地点しかなく不十分」は気象庁HPを「よく利用する人」(40.8%)で高くなっている。

7. 異常天候早期警戒情報について

(1) 平均気温が平年より高低差がでる場合の影響度

問7 - 1 日々の気温ではなく、7日間平均の気温が平年の同じ時期と比べてかなり高くなる、またはかなり低くなる場合に、あなたの生活や仕事などに、どのくらいの影響がありますか？

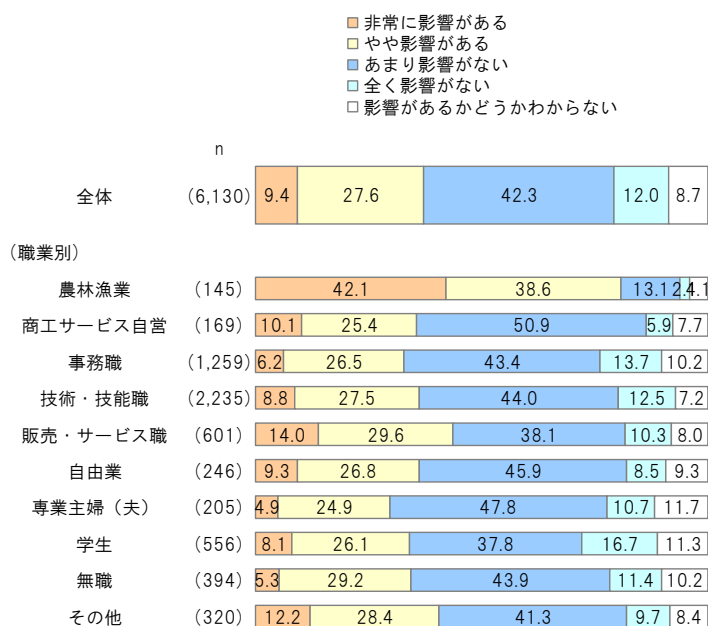
【住民調査】



7日間平均の気温が平年の同じ時期に比べて高くなる、または低くなる影響について、住民調査では、「非常に影響がある」(5.5%)と「やや影響がある」(23.0%)を合わせた『影響がある(計)』(28.5%)は3割弱となっている。

職業別にみると、『影響がある(計)』は農林漁業(79.5%)、販売・サービス職(30.2%)で高い傾向にある。

【HP調査】



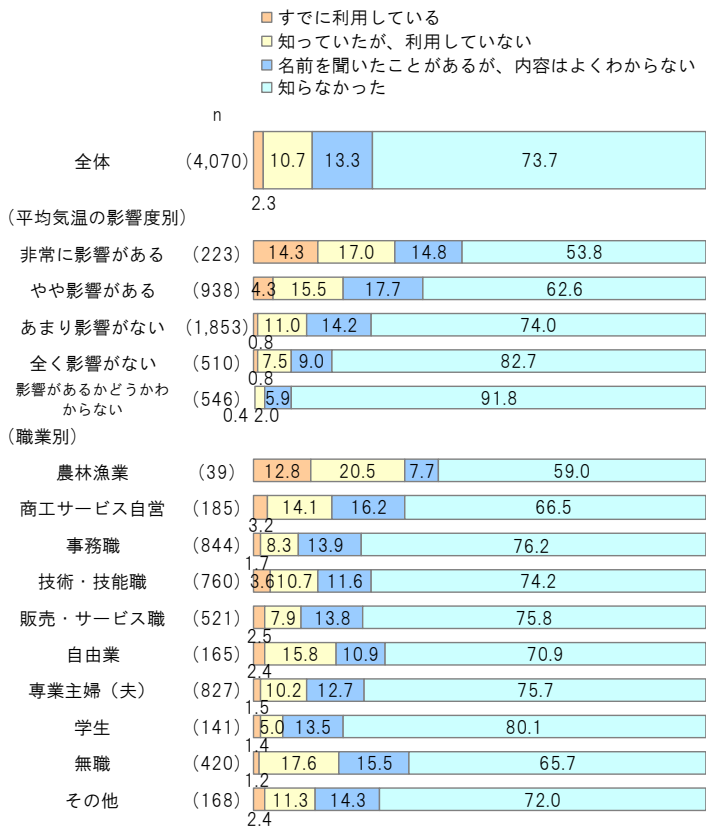
HP調査では、「非常に影響がある」(9.4%)と「やや影響がある」(27.6%)を合わせた『影響がある(計)』(37.0%)は4割弱となっている。

職業別にみると、『影響がある(計)』は農林漁業(80.7%)、販売・サービス職(43.6%)で高い傾向にある。

(2) 「異常天候早期警戒情報」の認知

問7-3 あなたは、1か月予報などの季節予報とは別に、「異常天候早期警戒情報」という情報があることを知っていましたか？

【住民調査】

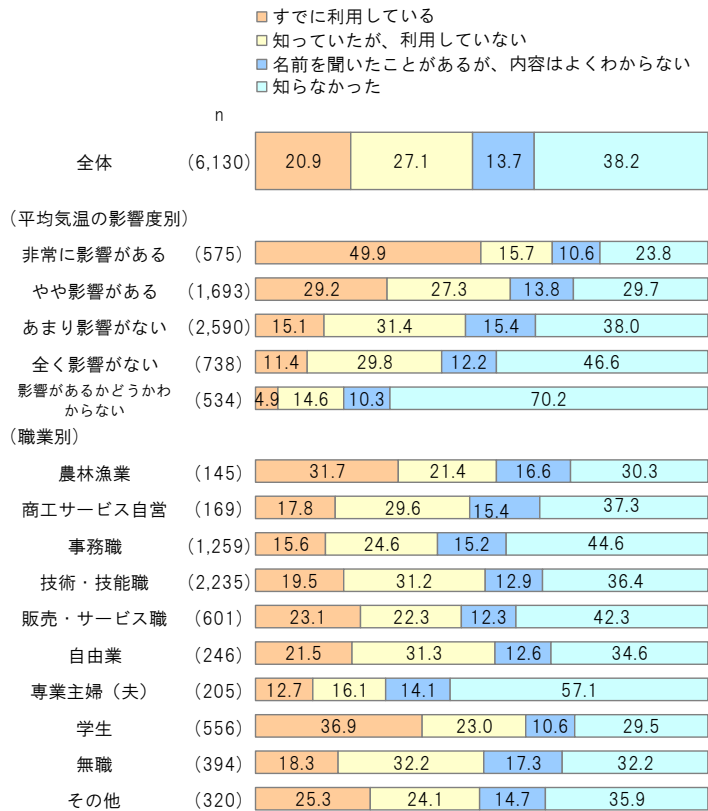


「異常天候早期警戒情報」の認知状況について、住民調査では、「すでに利用している」「知っていたが、利用していない」「名前を聞いたことがあるが、内容はよくわからない」を合わせた『認知している(計)』(26.3%)は2割台半ばにとどまる。

平均気温の影響度別にみると、7日間の平均気温に対して影響が大きいほど認知率、利用率ともに高く、影響が小さいほど認知率、利用率は低い。

職業別にみると、『認知している(計)』は農林漁業(41.0%)、無職(34.3%)、商工サービス自営(33.5%)で高く、特に農林漁業では「すでに利用している」人(12.8%)が比較的多い。

【HP 調査】



HP 調査では、「すでに利用している」「知っていたが、利用していない」「名前を聞いたことがあるが、内容はよくわからない」を合わせた『認知している(計)』(61.7%)は6割強を占める。

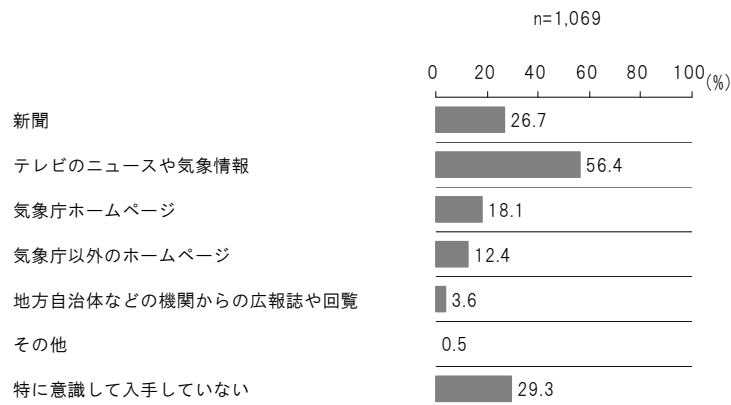
平均気温の影響度別にみると、7日間の平均気温に対して影響が大きいほど認知率、利用率ともに高く、影響が小さいほど認知率、利用率は低い。

職業別にみると、『認知している(計)』は学生(70.5%)、農林漁業(69.7%)、無職(67.8%)で高く、「すでに利用している」は学生(36.9%)、農林漁業(31.7%)で高くなっている。

(3) 「異常天候早期警戒情報」の入手先

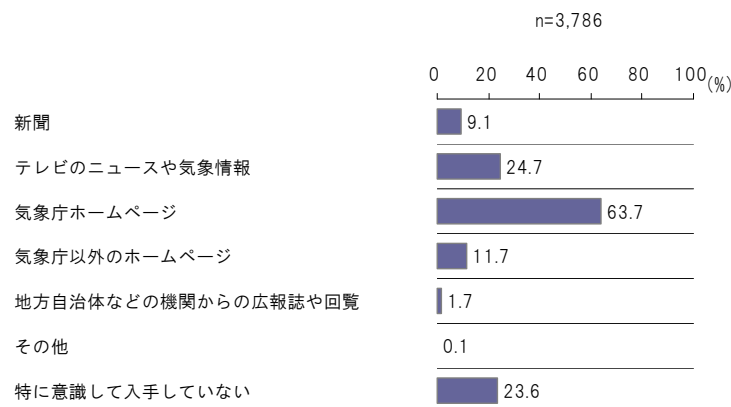
問7 - 4 あなたは、「異常天候早期警戒情報」を何から入手していますか。利用しているものをすべて選んでください。

【住民調査】



「異常天候早期警戒情報」の入手先について、住民調査では、「テレビのニュースや気象情報」(56.4%)との回答が最も高く5割台半ば、次いで「新聞」(26.7%)が2割台半ばとなっている。

【HP調査】



HP調査では、「気象庁ホームページ」(63.7%)、「テレビのニュースや気象情報」(24.7%)が2割台半ばとなっている。

(4)「異常天候早期警戒情報」についての不満点

問7-5 「異常天候早期警戒情報」について、不満に感じることがありましたら、あてはまるものをすべて選んでください。

【住民調査】

		n	るテレビで取り上げられる機会が少ない	表火曜日・金曜日でも発表されない場合がある	などのような内容の情報	よどのようがに利用すれば	く報「とわかいりに名前が、長	い雨や雪などが行われ、気温以外	7日間では長すぎる期間が	気温を平均する期間が	ると発表基準の30%以上	その他	特に不満はない
全体		1,069	38.3	4.7	18.4	21.2	16.4	9.4	4.3	9.0	1.3	36.2	
「異常天候早期警戒情報」の利用状況別	すでに利用している	92	54.3	17.4	9.8	13.0	29.3	21.7	8.7	23.9	3.3	19.6	
	知っていたが、利用していない	436	37.8	6.0	12.8	18.6	16.3	11.2	5.3	10.3	1.8	35.6	
	名前を聞いたことがあるが、内容はよくわからない	541	35.9	1.5	24.4	24.8	14.2	5.9	2.8	5.4	0.6	39.6	
	知らなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

「異常天候早期警戒情報」に対する不満について、住民調査では、「テレビで取り上げられる機会が少ない」(38.3%)との回答が最も高く4割弱となっている。「異常天候早期警戒情報」の利用状況別にみると、「テレビで取り上げられる機会が少ない」、「火曜日・金曜日でも発表されない場合がある」、「名前が分かりにくい」、「気温以外の予報が行われない」、「発表基準の確率が小さすぎる」と回答した人の割合は、すでに利用していると回答した人で高い。

【HP調査】

		n	るテレビで取り上げられる機会が少ない	表火曜日・金曜日でも発表されない場合がある	などのような内容の情報	よどのようがに利用すれば	く報「とわかいりに名前が、長	い雨や雪などが行われ、気温以外	7日間では長すぎる期間が	気温を平均する期間が	ると発表基準の30%以上	その他	特に不満はない
全体		3,786	37.2	5.1	12.9	19.2	19.0	18.2	5.7	15.8	3.7	34.0	
「異常天候早期警戒情報」の利用状況別	すでに利用している	1,284	45.5	10.0	5.5	8.8	21.1	31.7	9.4	24.7	5.2	24.5	
	知っていたが、利用していない	1,664	33.1	2.7	11.7	22.8	18.0	12.8	4.0	13.1	3.5	38.6	
	名前を聞いたことがあるが、内容はよくわからない	838	32.6	2.3	26.6	27.9	17.8	8.2	3.3	7.6	1.8	39.7	
	知らなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

HP調査では、「テレビで取り上げられる機会が少ない」(37.2%)との回答が最も高く4割弱となっている。「異常天候早期警戒情報」の利用状況別にみると、「テレビで取り上げられる機会が少ない」、「火曜日・金曜日でも発表されない場合がある」、「異常天候早期警戒情報」という名前が、長くて分かりにくい、「雨や雪など、気温以外の予報が行われていない」、「発表基準の30%以上という確率が小さすぎる」と回答した人の割合は、すでに利用していると回答した人で高くなっている。